

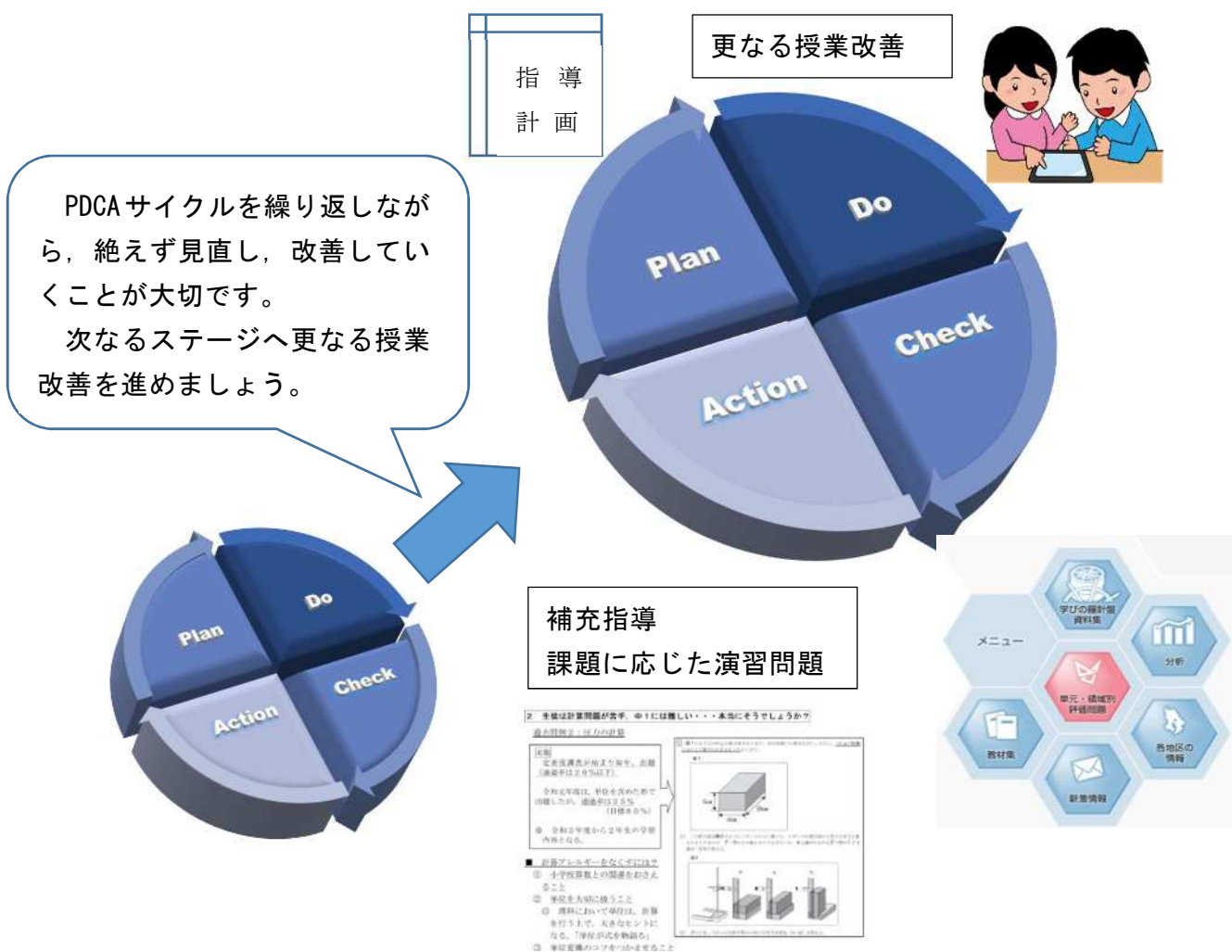
令和3年度

鹿児島学習定着度調査結果について

(令和4年1月調査)

授業改善のポイント

～すべての児童生徒に確かな学力を付けるために～



令和4年3月



鹿児島県教育委員会

目 次

I	調査の概要	1
II	結果の概要	2
III	本調査の活用の仕方	6
IV	各教科の全体平均通過率	9
V	結果の詳細について（授業改善のポイント）	
1	小学校第5学年	
・	国語	11
・	社会	14
・	算数	18
・	理科	21
2	中学校国語	25
3	中学校社会	30
4	中学校数学	36
5	中学校理科	41
6	中学校英語	47
VI	児童生徒質問紙と学校質問紙の結果概要	53

I 調査の概要

1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の定着状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また、各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて、自校の課題を明確にさせ、問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに、児童生徒の学力向上を図る。

2 調査の対象学年、学級等

(1) 県内全ての公立小学校第5学年、中学校第1、2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし、複式学級を有する学校においては、履修していない内容を調査から除外して実施する。なお、小・中学校における特別支援学級の児童生徒については、該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。

(2) 特別支援学校においては、該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校(小学部)	第5学年	484校	13,541人
中学校(中学部)	第1学年	209校	12,864人
	第2学年	206校	12,412人

※ 本調査に関わる調査問題、報告書等において、義務教育学校の第7学年を中学校第1学年、義務教育学校の第8学年を中学校第2学年、義務教育学校の前期課程を小学校、後期課程を中学校と読み替えることとする。

※ 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※ 調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。各教科の調査人数は、欠席等により異なる。

3 調査の内容

学力調査

主として「基礎・基本」に関する内容と、主として「思考・表現」に関する内容で出題し、調査対象教科の学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校(小学部)】 第5学年 …… 国語、社会、算数、理科

【中学校(中学部)】 第1、2学年 …… 国語、社会、数学、理科、英語

学習状況調査(児童生徒質問紙)

質問紙により、調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について調査する。

学校質問紙調査

学力向上の取組、校内研修の状況について調査する。

4 調査の実施時間

学力調査

小学校(小学部) 45分(調査票の配布・説明等5分、調査時間40分)

中学校(中学部) 50分(調査票の配布・説明等5分、調査時間45分)

学習状況調査

小・中学校(小・中学部) 15分(調査票の配布・説明等5分、調査時間10分)

5 調査の実施日

学力調査 令和4年1月18日(火)・19日(水)

学習状況調査 令和4年1月18日(火)～20日(木)

6 調査の採点及び結果の集計・分析

(1) 各学校は、自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い、当該市町村教育委員会へ報告する。また、集計結果をかごしま学力向上支援Webシステムに登録する。自校の調査結果については、保護者に対して説明責任を果たすと同時に、かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、その後の指導方法等の改善に生かす。

(2) 各市町村教育委員会は、管下の学校の調査結果を集計し、県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については、かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、自市町村の学力向上や指導法改善への取組に生かす。

(3) 県教育委員会は、調査結果を集計・分析し、県全体の学力の定着状況や学習状況について公表するとともに、指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し、各学校に配布することにより、各学校の学力向上への取組を支援する。

II 結果の概要

1 実施の状況

【学力調査】 令和4年1月18日（火）・19日（水）に実施

○ 「基礎・基本」と「思考・表現」に関する内容の調査

- ・ 小学校第5学年（国語，社会，算数，理科）
- ・ 中学校第1・2学年（国語，社会，数学，理科，英語）

※本調査の設定通過率を「基礎・基本」8割，「思考・表現」5割，全体の通過率を7割に設定し，調査問題を作成。

【学習状況調査】 令和4年1月18日（火）～20日（金）

○ 児童生徒の学習に関する意識や学び方などに関する調査（質問紙）

【学校質問紙調査】

○ 学力向上の取組，校内研修の状況，家庭・地域との連携等に関する調査

【実施校数】

小学校472校，中学校197校，義務教育学校9校，特別支援学校5校，県立1校，計683校

2 学力調査の結果（確定）

（1）平均通過率 [%]

〔令和3年度〕

※  は，70%以上。  は，65%以上70%未満。

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	72.3	79.9	70.6	73.1	
中1	全 体	73.6	70.3	66.0	69.4	71.5
中2	全 体	77.3	66.8	70.2	68.6	60.4

（参考）

〔令和2年度〕

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	75.1	75.5	69.4	74.9	
中1	全 体	78.7	64.4	74.8	70.3	68.0
中2	全 体	76.7	67.6	67.0	70.8	57.8

〔令和元年度〕

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	73.6	72.2	76.7	81.2	
中1	全 体	79.6	64.9	71.3	64.8	67.9
中2	全 体	74.5	61.2	60.7	58.0	61.0

〔平成30年度〕

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	60.1	72.9	72.8	54.6	
中1	全 体	61.9	62.2	59.7	59.2	73.3
中2	全 体	67.6	51.2	60.8	50.3	51.7

(2) 結果から分かること

ア 毎年度、主として、本調査の設定通過率を「基礎・基本」8割、「思考・表現」5割、全体の通過率を7割に設定し、調査問題を作成している。

令和2年度の調査では、全体の通過率が7割を超えた教科が、14調査中8教科であったが、令和3年度の調査では、14調査中9教科と増えた。本調査開始の平成25年度以降で、1年社会と2年数学で初めて目標の7割を超えた。

イ 「基礎・基本」の問題に関しては、学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識・技能に関する問題等を出題した。各教科において、例えば、次の問いの通過率が改善した。

・ 国語（小5）ことわざ	91.2%	（R2 57.1%）
・ 社会（中1）EUの統合	82.2%	（R2 69.0%）
・ 数学（中1）絶対値の意味	77.8%	（R2 68.5%）
・ 数学（中2）等式の変形	69.7%	（R2 63.6%）
・ 理科（中2）化学変化	91.6%	（R元 71.0%）
・ 英語（中1）複数の名詞の聞き取り	88.7%	（R2 59.6%）

ウ 「思考・表現」の問題に関しては、文章と図、表、グラフ、資料等を関連付けたり、根拠を基にして自分の考えを記述したりする問題、習得した知識・技能を日常生活の場面で活用していく問題等を出題した。各教科において、例えば、次の問いの通過率が改善した。

・ 国語（中2）文章と図表を結び付けて考える	89.8%	（R2 72.6%）
・ 社会（中2）日本の領域	76.5%	（R2 56.4%）
・ 算数（小5）速さ	59.5%	（R2 41.9%）
・ 数学（中1）平均値	83.9%	（R2 77.7%）
・ 数学（中2）中央値による説明	66.8%	（R2 38.0%）
・ 理科（中1）密度による物質の同定	74.8%	（R2 65.8%）
・ 英語（中2）英文の概要把握	76.3%	（R2 63.0%）

エ 全体的な結果を見ると、通過率が目標の7割を超えた科目が増加しており、これまでの取組の成果が表れていると考える。

また、学年、教科ごとに見ると、中1数学、中1理科、中2社会、中2理科、中2英語は目標の7割に届かなかったことから、指導方法の一層の改善等、取組の徹底が求められる。特に、中2英語については、基本的な文法を使いこなす問題の通過率が低かったことから、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るための指導改善が求められる。

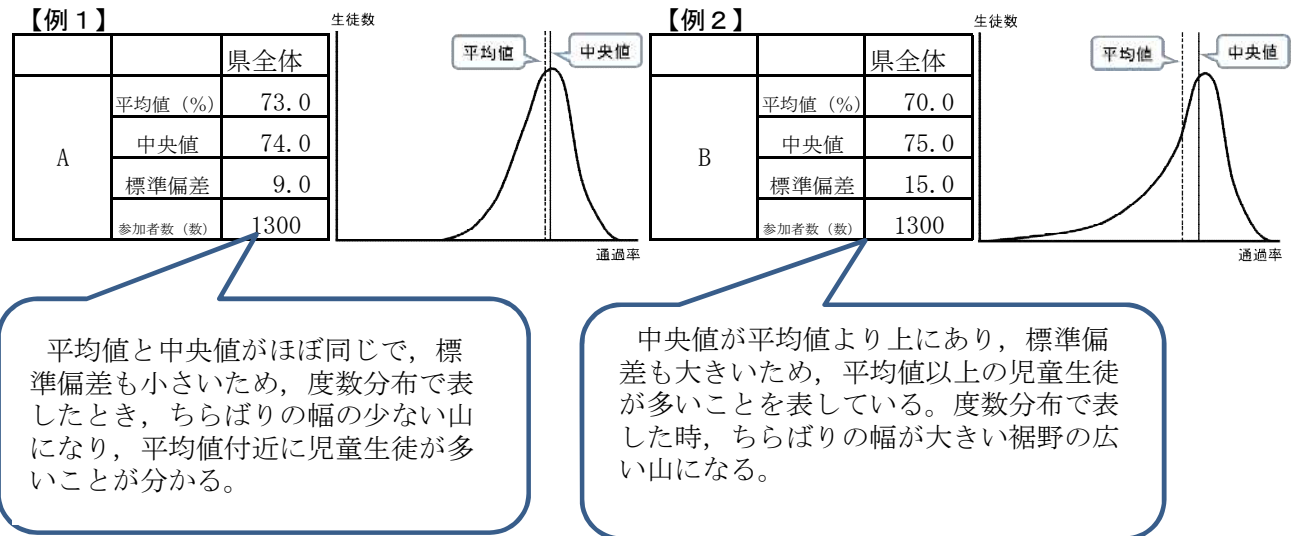
3 地区別の平均通過率

今回、各地区の平均値のみではなく、標準偏差と中央値を示しました。各地区においては、平均値のみでは把握しきれない児童生徒の実態を考察し、今後の指導に生かしていただきたいと考えます。

【語句の説明】

「標準偏差」は平均値を基準とした、データのちらばり具合を表した数。

「中央値」はデータを大きい順に並び替えたときに、ちょうど真ん中に位置する値。



(1) 小学校第5学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値 (%)	72.3	71.8	70.8	72.1	73.6	72.9	72.5	77.9	70.8
	中央値	73.3	72.0	72.0	73.6	73.9	73.8	72.8	79.2	73.7
	標準偏差	9.7	6.7	10.5	9.5	8.8	11.6	9.8	8.0	10.2
	参加者数 (人)	13518	5178	637	943	1603	2039	1870	348	900
社会	平均値 (%)	79.9	78.3	79.3	82.2	80.3	79.9	82.3	84.2	80.3
	中央値	82.5	80.1	80.2	85.2	82.5	83.7	81.5	85.2	83.3
	標準偏差	8.2	6.7	7.3	6.4	7.9	10.2	8.1	7.4	8.5
	参加者数 (人)	13481	5169	634	905	1586	2054	1871	350	912
算数	平均値 (%)	70.6	69.3	69.5	71.4	72.2	71.7	71.5	76.6	68.3
	中央値	72.2	69.8	68.8	71.9	75.0	73.8	71.8	80.6	71.1
	標準偏差	11.1	7.4	11.2	10.3	9.1	13.4	10.6	9.3	13.3
	参加者数 (人)	13472	5172	635	908	1585	2045	1870	348	909
理科	平均値 (%)	73.1	72.2	74.3	72.6	74.5	74.0	73.5	77.5	71.1
	中央値	75.6	72.6	74.6	75.6	77.4	76.9	74.0	79.8	77.1
	標準偏差	10.2	8.1	9.2	8.9	9.3	12.4	9.7	10.3	11.4
	参加者数 (人)	13541	5180	636	945	1610	2043	1873	350	904

(2) 中学校第1学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値(%)	73.6	74.2	73.4	73.0	73.4	73.0	73.4	76.6	71.9
	中央値	73.7	73.6	74.8	71.8	73.2	73.2	74.0	76.0	73.1
	標準偏差	6.8	6.6	9.6	6.0	4.4	3.5	5.4	4.2	8.6
	参加者数(人)	12813	4886	651	908	1473	1966	1736	291	902
社会	平均値(%)	70.3	70.8	71.6	69.1	68.1	69.9	69.3	74.1	72.9
	中央値	71.3	71.0	75.2	68.7	71.1	69.5	67.7	73.2	75.9
	標準偏差	9.1	7.0	12.0	7.1	7.4	5.9	8.9	9.3	10.7
	参加者数(人)	12762	4910	656	892	1442	1984	1674	291	913
数学	平均値(%)	66.0	67.4	67.0	64.4	63.8	65.1	64.2	67.3	67.6
	中央値	66.7	68.0	68.5	65.0	64.5	67.2	65.2	66.7	68.9
	標準偏差	8.5	7.3	8.7	6.6	5.9	6.0	7.2	6.0	12.4
	参加者数(人)	12684	4884	650	888	1433	1962	1669	289	909
理科	平均値(%)	69.4	69.9	69.1	69.2	67.6	69.3	69.0	76.4	69.1
	中央値	71.0	71.3	72.0	70.1	70.3	70.0	69.5	74.1	71.2
	標準偏差	8.0	6.8	10.7	5.7	5.7	6.2	6.9	3.5	10.2
	参加者数(人)	12864	4911	650	907	1480	1983	1738	292	903
英語	平均値(%)	71.5	72.9	75.5	70.0	70.9	71.7	68.9	70.6	67.4
	中央値	72.1	72.9	76.3	70.2	72.4	70.9	69.9	72.2	70.9
	標準偏差	10.0	8.2	15.1	4.7	6.4	7.9	7.4	6.4	13.5
	参加者数(人)	12660	4883	651	855	1431	1971	1668	289	912

(3) 中学校第2学年

		県全体	鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島
国語	平均値(%)	77.3	78.1	76.8	77.1	76.2	76.5	76.8	80.8	77.3
	中央値	77.6	78.2	78.3	77.3	78.3	76.7	76.8	83.1	77.4
	標準偏差	6.4	5.0	8.4	4.4	6.1	5.7	4.6	5.0	7.9
	参加者数(人)	12396	4599	617	869	1508	1871	1806	306	820
社会	平均値(%)	66.8	67.4	68.9	65.8	68.1	66.2	63.1	73.2	67.7
	中央値	67.4	67.5	70.0	66.4	69.6	66.0	64.8	72.9	68.8
	標準偏差	9.5	7.4	11.8	8.7	6.4	5.0	8.3	10.2	12.4
	参加者数(人)	12309	4585	618	850	1495	1880	1760	301	820
数学	平均値(%)	70.2	71.4	69.2	69.3	70.5	68.1	70.2	71.5	69.3
	中央値	70.5	72.1	70.6	71.0	70.5	69.3	71.4	66.1	69.5
	標準偏差	9.9	7.7	9.9	8.5	5.4	6.6	7.4	12.5	14.8
	参加者数(人)	12286	4576	615	843	1493	1869	1766	301	823
理科	平均値(%)	68.6	69.3	70.6	71.1	68.2	67.1	66.8	69.2	68.2
	中央値	68.8	69.2	75.1	69.4	68.7	67.2	67.2	69.4	69.6
	標準偏差	8.2	6.6	10.6	6.8	7.0	6.8	6.4	6.2	10.0
	参加者数(人)	12417	4630	619	868	1507	1863	1806	307	817
英語	平均値(%)	60.4	61.4	59.9	59.2	59.6	61.3	58.6	65.1	58.8
	中央値	60.4	61.9	59.9	60.0	58.7	61.5	58.7	61.3	60.9
	標準偏差	8.6	6.7	10.9	6.5	6.0	7.2	7.1	5.6	12.0
	参加者数(人)	12267	4569	616	843	1488	1872	1760	300	819

Ⅲ 本調査の活用の仕方

- (1) 問題の内容や自校の平均通過率、無解答率等を学校全体で共有する。
 - (2) 自校の成果や課題から要因となった取組を明らかにし、改善策を検討する。
- ※ 本調査は単に対象学年の状況のみを問うものではないため、校内で指導法を共有する際には、学年・教科を超えて行う。特に、学校全体で課題を共有するために、各教科等の年間指導計画の中に重点事項として、取組内容等を位置付ける。

1 自校結果の把握と分析 **Check**

- 県全体の平均通過率を踏まえた、領域や単元ごとの通過率や無解答率の状況に関する分析
- ※ 「V(1) 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布(県全体)」(p.11～) やかごしま学力向上支援Webシステムの分析機能を活用しましょう。



2 自校結果の活用 **Action** ⇨ **Plan** ⇨ **Do**

- 「学びの羅針盤 (p.2, 22)」の活用
- 他校の実践や取組からの学び
 - ※ 市町村教育委員会等と連携を図り、成果の上がっている学校の授業参観を行うなどして効果的な取組を学び、児童生徒の実態に合わせて自校化しましょう。
- 改善に向けた取組の年間指導計画への位置付け
 - ※ 意図的・計画的な指導を行うために、年間指導計画の中に改善を要する取組を位置付けましょう。
- 補充指導の充実
 - ※ 当該単元での指導直後だけでなく、必要に応じて学年を超えて定着度を確認したり、個に応じた補充指導をしたりするなど学校全体(教科全体)で取り組みましょう。
- 「V(3) 各教科の授業改善の視点」(p.13～) 及び「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載されている評価問題の活用
- 児童生徒質問紙や学校質問紙の結果分析と指導方法改善

3 本調査結果を生かした年間指導計画例

国語 年間指導計画 第5学年

〇〇小学校

※ 指導計画に自校の平均通過率、県平均との差、重点項目を朱書き（表中：太字）にしたもの。

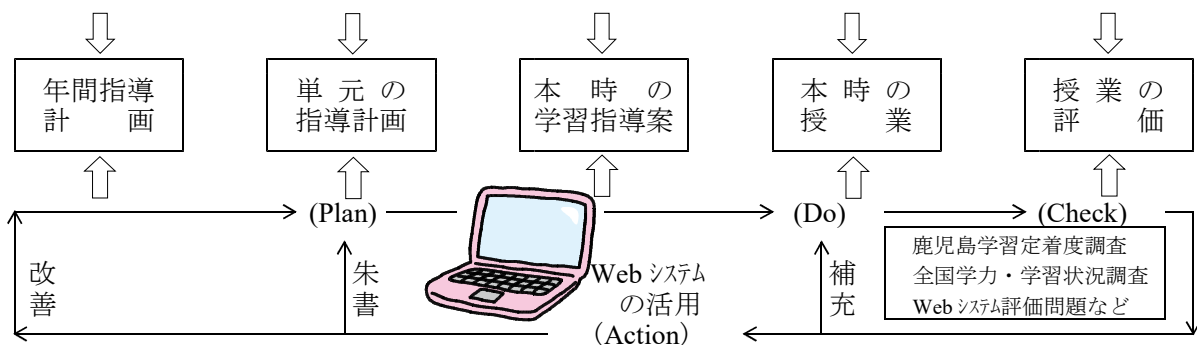
月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
6月 7月	みんなが過ごしやすい町へ 10時間（書道） ◎引用したり、図表やグラフなどを用いかりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)イ） ◎文章の構成や展開、文章の種類とぎの特徴について理解することができる。（知・技(1)イ） ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分組したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)イ） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考案することができる。（思・判・表B(1)イ） ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)イ） ■報告する文章を書く。 ☆より良い社会や学校生活をつくらんと考える題材（道徳、相互的な学習の時間、特別活動） ☆調べたことを報告する文章の書き方を工夫する。（理科、社会、総合的な学習の時間）	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	1 学習の見直しをもつ。 ・身の回りにある、みんなが過ごしやすい場所になるために行われている工夫について、知っていることを話し合う。 ・「調べたことを正確に報告しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。「学習の進め方」を確認する。 2 身の回りの工夫を見つける。 ・道徳や学校の様子を探したり、実際に見学したりして、題材を探す。 3 題材を決め、調べ方を選んで調べる。 ・見つけたものから、特に調べたいものを選ぶ。 ・P73 に示された調べ方の特徴を参考に、適切な方法を選んで調べる。 ・P70「目的に応じて引用するとき」などを参照して、カードの書き留め方について振り返る。 4 報告する文章の構成を考案する。 ・P74 に示されている報告文の構成や、「組み立てメモ」を参考に考案する。 5 報告する文章を書く。 ・P75「文章を長く引用するとき」を参照し、長文を引用するときに方法について知る。必要に応じて、適切な引用のしかたについても復習する。 ・P75-76 を参考に下書きを書く。 ・P77で下書きを読み合い、P75上段に示された観点を参考に話し合う。 ・清書する。 6 読み合って感想を伝え合う。 ・どんなところが分かりやすいか、また、それはなぜなのかに注目する。 7 学習を振り返る。 ・「ありがたもう」で単元の学習を振り返るとともに、「たいせつ」「いかにしよう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)イ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分組したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)イ） ・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考案している。（B(1)イ） ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いかりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)イ） 【慧】粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見直しをもって、報告する文章を書くこととしている。

R3 定着度
4三2 複数の情報の関係づけ
(情報と情報の関係)
県平均38.2%
【自校:-5】

【指導計画見直しのサイクル】

よりよい授業を構想するためには、実践に基づいた指導計画を立てる必要がある。また、指導計画は授業を行った後に適切な評価を行うなどして、改善していかねばならない。そのためには、「計画(Plan)」（年間指導計画、単元の指導計画・評価計画、1単位時間の指導計画・評価規準）—「実施(Do)」（本時の授業）—「評価(Check)」（授業の評価）—「改善(Action)」（計画の見直し）のサイクルを下図のように繰り返しながら、絶えず見直し、改善していくことが大切である。評価に際しては、本調査の積極的な活用を図る。

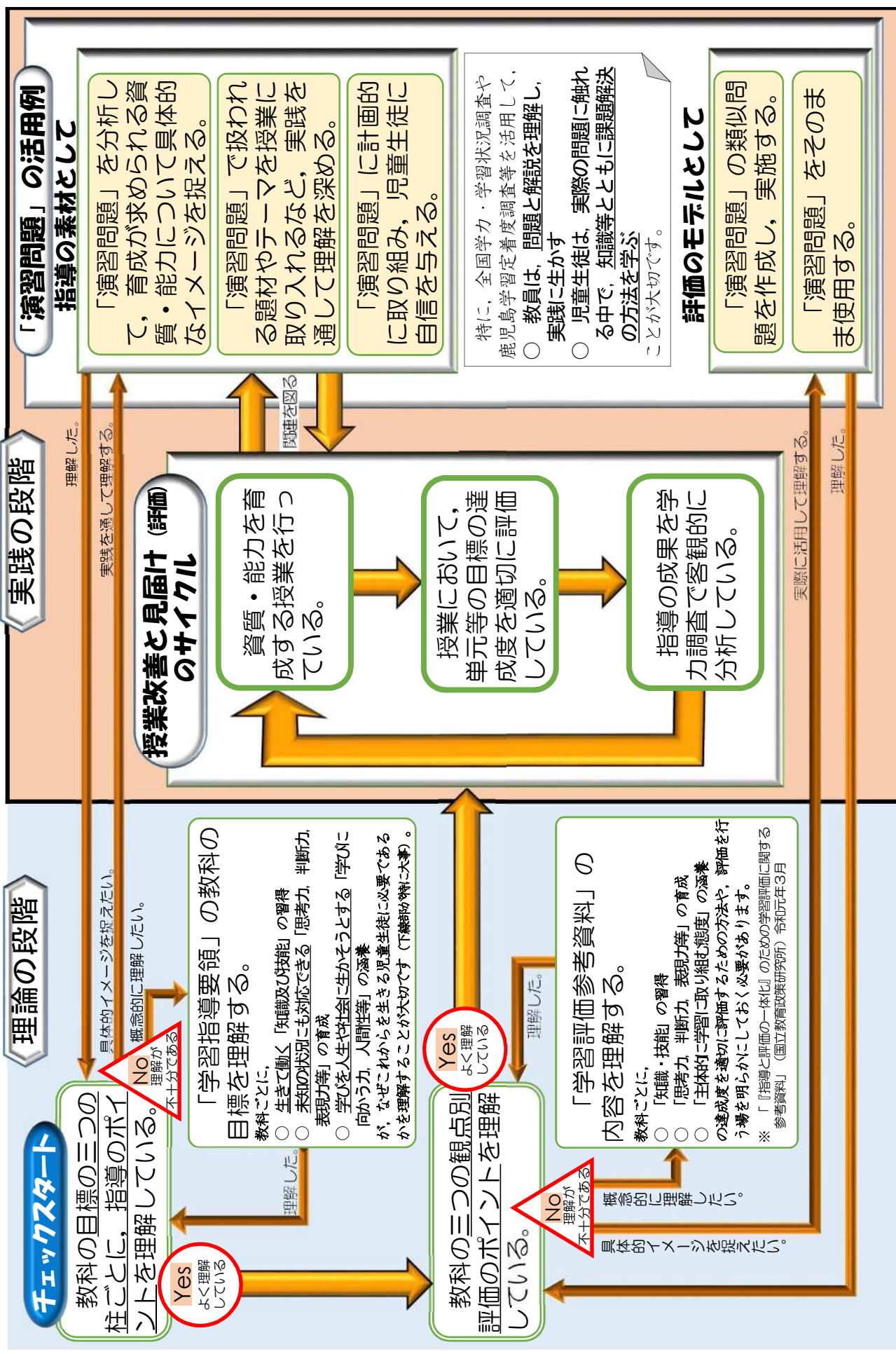
- ・ 学習指導要領及び学習指導要領解説（文部科学省）の熟読、教科書の研究
- ・ 学校、地域、児童生徒の実態把握、学校の教育課程の理解
- ・ 教材研究、教材開発、指導法研究等



未来の創い手を育成する セルフチェックシート

確かな学力を定着させるためには、求められる資質・能力を育成する授業づくりと確実な見届け(評価)のサイクルを確立する必要がありますが、「演習問題」の活用はそのための効果的な取組となります。

※ ここでいう「演習問題」とは、過去の学力調査問題や県教委作成の問題等のことです。これらには、学習指導要領で育成が求められる資質・能力の具体が示されています。



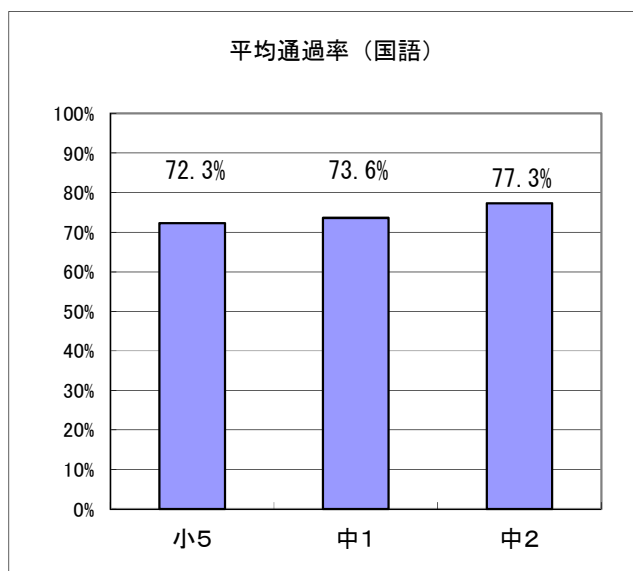
IV 各教科の全体平均通過率

以下、教科ごとに調査実施学年の全体平均通過率を示しており、本県の総合的な学力の定着状況の概要を、教科・学年ごとに把握することができる。

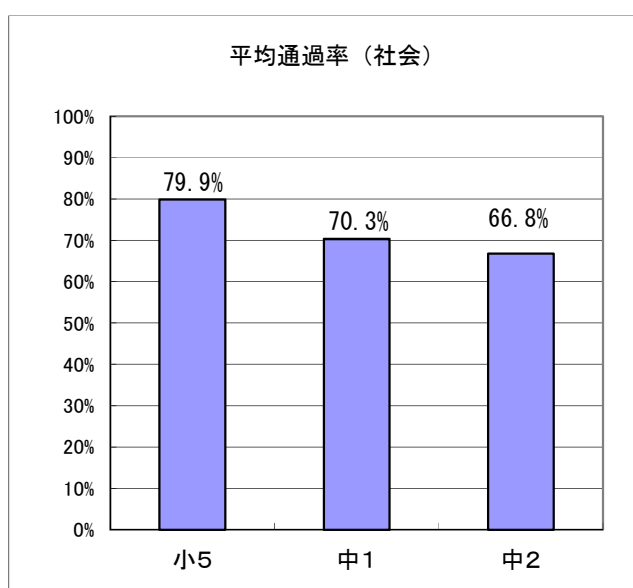
本調査では、設定通過率を「基礎・基本」8割、「思考・表現」5割、全体の通過率を7割に設定し、調査問題を作成している。

本年度の調査では、設定通過率7割を超えた教科が14調査中9教科と、昨年度より1教科増えた。

中1社会、中2社会、中2英語は基礎・基本の問題に課題があり、小5算数、中1数学、中2数学、中2理科、中2英語は思考・表現の問題に課題が見られる。

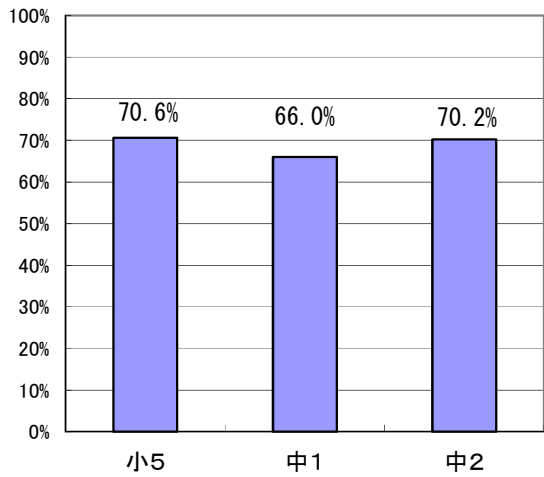


国語	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	74.0%	69.5%	72.3%
中1	73.4%	73.8%	73.6%
中2	77.8%	76.7%	77.3%



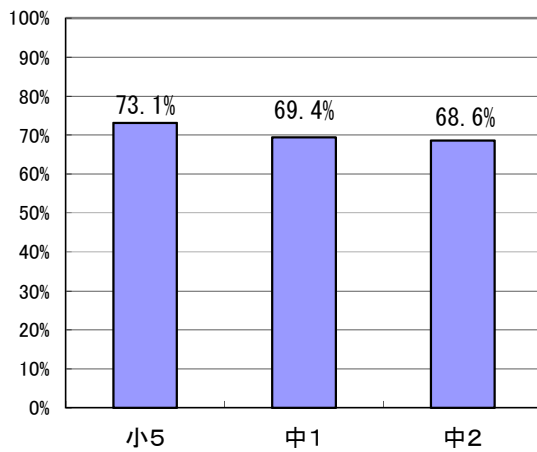
社会	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	82.8%	74.2%	79.9%
中1	69.5%	71.9%	70.3%
中2	67.6%	65.2%	66.8%

平均通過率(算数・数学)



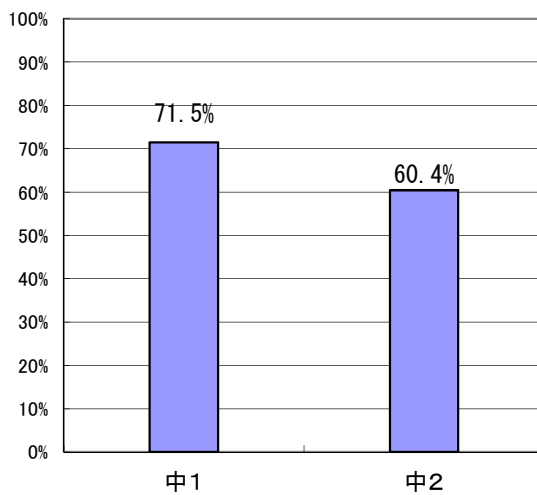
算数・数学	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	77.2%	57.4%	70.6%
中1	75.8%	49.3%	66.0%
中2	76.9%	56.8%	70.2%

平均通過率(理科)



理科	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	79.0%	65.3%	73.1%
中1	72.7%	62.9%	69.4%
中2	77.6%	50.5%	68.6%

平均通過率(英語)



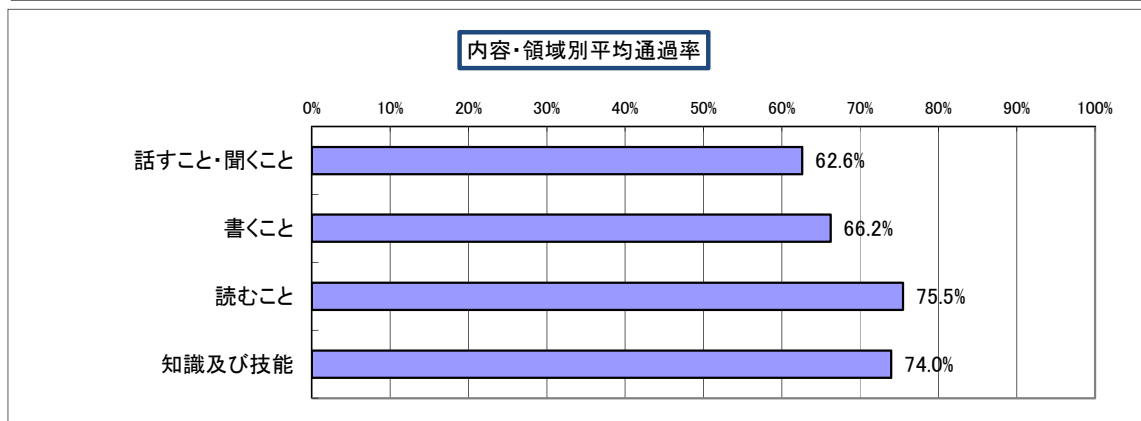
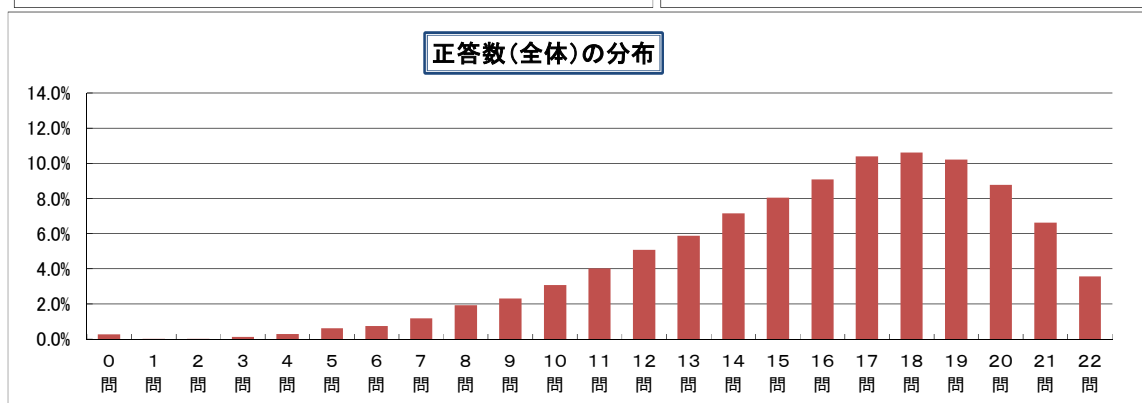
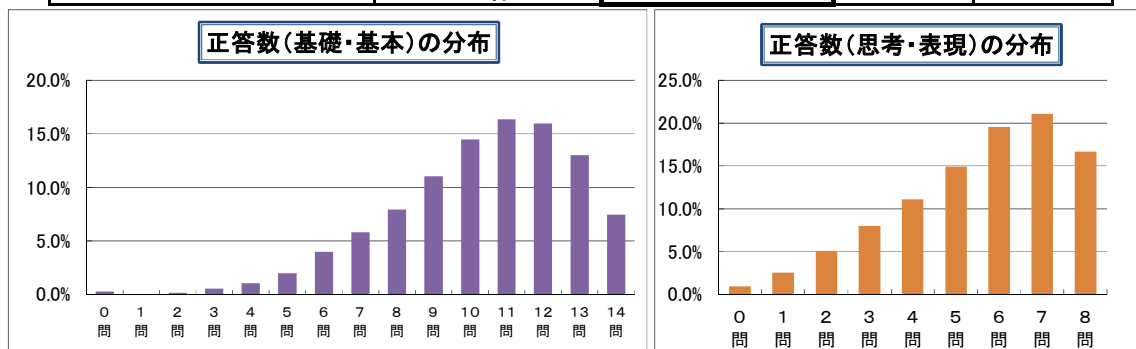
英語	基礎・基本	思考・表現	全体
中1	73.2%	68.2%	71.5%
中2	63.0%	56.4%	60.4%

V 結果の詳細について（授業改善のポイント）

小学校第5学年【国語】

(1) 国語の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	小5	中1	中2	
	基礎・基本	74.0%	73.4%	77.8%
	思考・表現	69.5%	73.8%	76.7%
全体	72.3%	73.6%	77.3%	



- 内容・領域別に見ると、読むことに関して通過率が高くなった。無解答率に関しても昨年度同様に低く、最後まで粘り強く設問に取り組み、解答している児童が多いことがわかる。
- 「知識及び技能」の通過率は74%であり、目標値である80%に届かなかった。特に、大問2の二の主語を問う問題が45.4%、大問2の三の修飾語を問う問題が48.5%と通過率が低かった。
- 「話すこと・聞くこと」の領域に関する設問の正答率が低かった。大問4の三の2の複数の資料を関係付けて答える設問の正答率が、全設問の中で一番正答率が低く、36.3%であった。複数の情報を関係付けて考える問いを授業の中に設定していく必要がある。

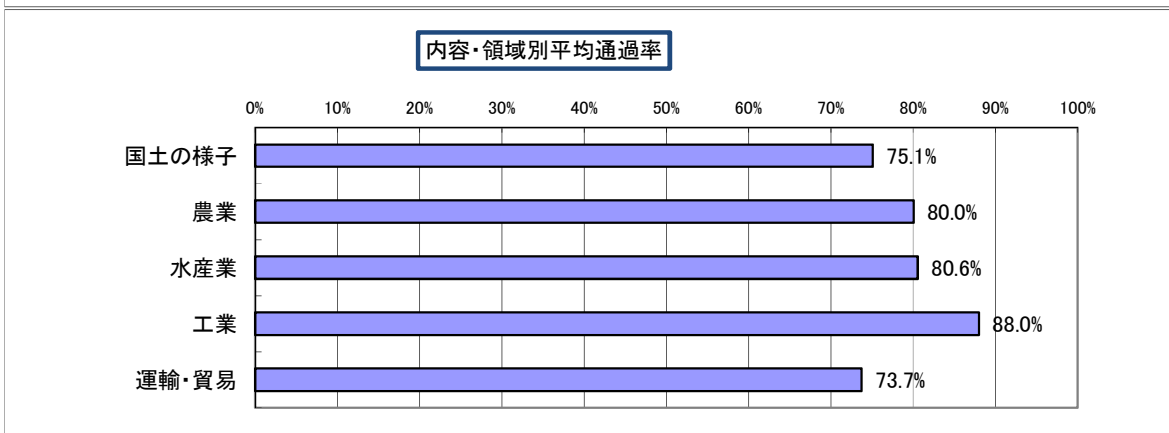
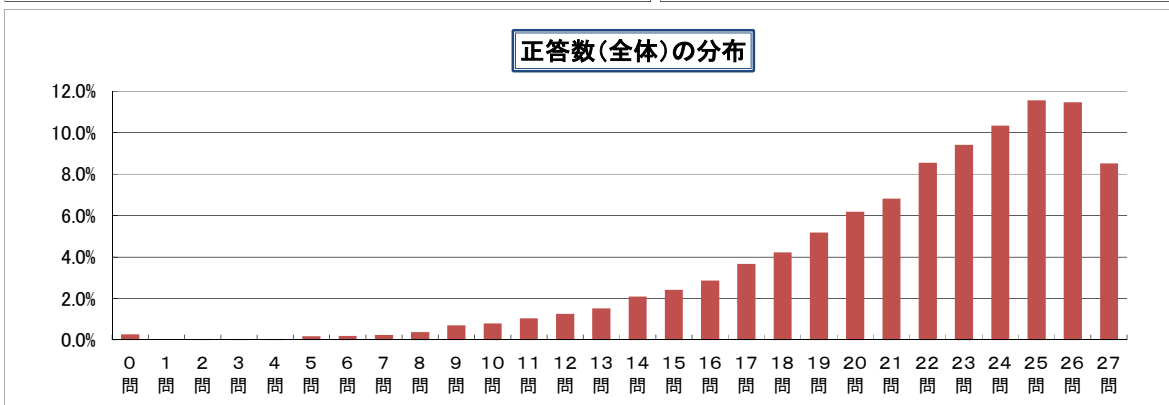
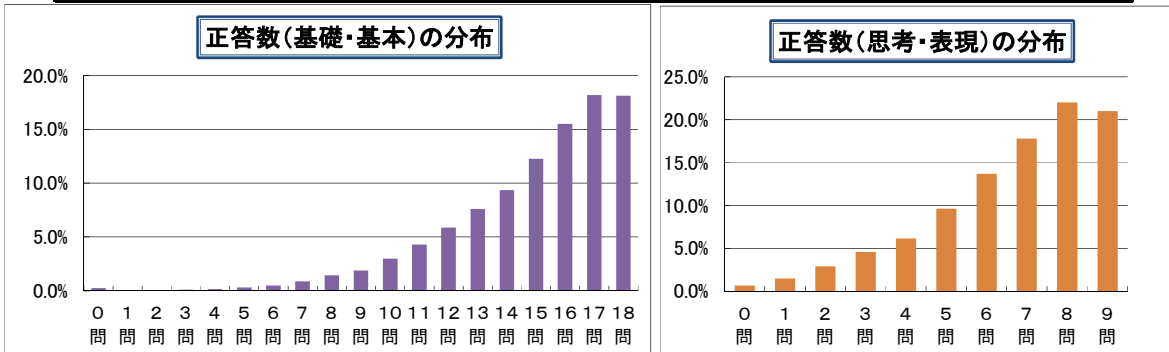
(2) 各設問の分類と平均通過率
国語(小学校第5学年)

	設問			出題学年	問題内容別		内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図
	大問	中間	小問		基礎・基本	思考・表現	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識及び技能	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	
1	1	一	1	小4	○					○	90.3%		0.7%	0.0%		0.0%	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり、書いたりすることができるか。
2			2	小5	○					○	97.2%		0.2%	0.0%		0.0%	
3		二	1	小4	○					○	51.6%		2.2%	0.0%		0.0%	
4			2	小4	○					○	72.5%		3.3%	0.0%		0.0%	
5		三	1	小3	○					○	73.7%		3.9%	0.0%		0.0%	日常使われている簡単な単語についてローマ字で表記されたものを読んだり、書いたりできるか。
6			2	小3	○					○	77.3%		1.7%	0.0%		0.0%	
7	2	一	1	小3	○					○	90.0%		0.1%	0.0%		0.0%	ことわざの意味を理解しているか。
8			2	小4	○					○	84.8%		0.1%	0.0%		0.0%	慣用句の意味を理解しているか。
9		二	1	小2	○					○	45.4%		0.0%	0.0%		0.0%	文の中での主語と述語の関係について理解しているか。
10			2	小3	○					○	48.5%		0.1%	0.0%		0.0%	文の中での修飾と被修飾の関係について理解しているか。
11		三	1	小5	○					○	90.5%		0.1%	0.0%		0.0%	目的や場に応じて、適切な敬語を使うことができるか。
12			2	小4	○					○	83.8%		0.1%	0.0%		0.0%	接続語の果たす役割を理解しているか。
13	3		小3	○					○	93.7%		0.1%	0.0%		0.0%	手紙の形式を理解しているか。	
14	3	一	1	小5	○					○	68.9%	0.3%		0.0%	0.0%	説明文の論の進め方について、筆者の書き方の工夫を捉えることができるか。	
15			2	小5	○					○	67.3%	0.1%		0.0%	0.0%	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるか。	
16		二	1	小5	○					○	72.9%	2.9%		0.0%	0.0%	事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に理解することができるか。	
17			2	小5	○					○	92.7%	0.6%		0.0%	0.0%	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるか。	
18	4	一	1	小4	○	○					50.8%	0.2%		0.0%	0.0%	目的をもって相手に質問し、必要な情報を集めることができるか。	
19			2	小4	○	○					78.0%	2.0%		0.0%	0.0%	必要な情報を集めるために、重要な語句を判断しながらメモに書き留めることができるか。	
20		二	1	小4	○	○					59.0%	4.5%		0.0%	0.0%	話の中心的部分が明確になるように構成を考え、発表することができるか。	
21			2	小5	○					○	36.3%		3.5%	0.0%		0.0%	情報と情報の関係について理解することができるか。
22			3	小4	○	○					66.2%	7.2%		0.0%		0.0%	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができるか。
計				問題数	14	8	3	1	4	14							
				出題割合	63.6%	36.4%	13.6%	4.5%	18.2%	63.6%	74.0%	69.5%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
											72.3%			0.0%			

小学校第5学年【社会】

(1) 社会の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	小5	中1	中2	
	基礎・基本	82.8%	69.5%	67.6%
	思考・表現 全体	74.2%	71.9%	65.2%



- 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は82.8%と高く、定着が十分図られている。ただし、国土に関する用語（「領土」）を問う問題のみが54.0%と低い。児童にとっては難しい言葉が多いため、丁寧に説明するとともに、小テスト等を行うなど、確実に定着を図るための工夫が必要である。
- 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は74.2%と概ね定着が図られているが、雨温図の特徴を説明する問題やグラフの変化から農家が行っている工夫を考える問題の通過率は低くなっている。雨温図については、どこに着目すればいいかなど、ポイントとなる部分に児童が自ら気付けるような指導の工夫が必要である。

(2) 各設問の分類と平均通過率

社会(小学校第5学年)

	設問			出題学年	内容領域別							県平均通過率			校内通過率			出題の意図		
	大問	中間	小問		基礎・基本	思考・表現	地形・気候	農業	水産業	工業	貿易	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率			
1	1	(1)		小5	○		○						77.8%		0.8%	0.0%		0.0%	世界の大陸を正しく理解しているか。	
2		(2)		小5	○		○						74.5%		0.4%	0.0%		0.0%	我が国の領土やその位置について理解しているか。	
3		(3)		小5	○		○						54.0%		4.9%	0.0%		0.0%	国土に関する重要語句を理解しているか。	
4		(4)		小5	○		○						84.8%		2.1%	0.0%		0.0%	地球上の位置を表す仕組みを理解しているか。	
5	2	(1)		小5	○		○						95.6%		0.9%	0.0%		0.0%	日本の気候の特色を理解しているか。	
6		(2)		小5	○		○						75.6%		0.3%	0.0%		0.0%		
7		(3)		小5		○	○							60.0%	2.3%		0.0%	0.0%	各都市の気候の特色を説明できるか。	
8		(4)		小5		○	○							78.3%	1.2%		0.0%	0.0%	気候の特色と、家の作りの工夫の関連を考察することができるか。	
9	3	(1)	ア	小5	○			○					98.0%		0.2%	0.0%		0.0%	資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
10			イ	小5	○			○					94.8%		0.5%	0.0%		0.0%		
11			ウ	小5	○			○					74.6%		0.5%	0.0%		0.0%		
12		(2)		小5		○		○						58.3%	2.7%		0.0%	0.0%	米の生産量と消費量が減少している事実から、農家が行っている工夫を考察することができるか。	
13		(3)	りんご	小5	○			○					95.9%		0.2%	0.0%		0.0%	りんごとみかんの生産量第1位の県を表から読み取り、それらの県の位置を理解しているか。	
14			みかん	小5	○			○					74.8%		0.2%	0.0%		0.0%		
15	(4)		小5		○		○						64.0%	3.2%		0.0%	0.0%	資料から外国産のものの値段が安いことを捉え、生産者の立場から、困ることについて説明できるか。		
16	4	(1)	①	小5	○				○				74.6%		3.4%	0.0%		0.0%	日本の主な暖流と寒流の名称を理解しているか。	
17			②	小5	○				○					69.5%		4.1%	0.0%		0.0%	
18		(2)		小5		○			○					89.9%	0.3%		0.0%	0.0%	資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
19		(3)		小5		○			○					88.3%	0.3%		0.0%	0.0%	調べた事実を比較して共通点を見いだすことができるか。	
20	5	(1)		小5	○					○			96.0%		0.8%	0.0%		0.0%	太平洋ベルトについて理解しているか。	
21		(2)		小5		○				○				68.7%	3.9%		0.0%	0.0%	なぜ、工業地帯・地域が海沿いに多く立地しているのか、その理由を説明できるか。	
22		(3)		小5	○					○				91.6%		1.2%	0.0%	0.0%	図中のグラフから必要な情報を正しく読み取ることができるか。	
23	6	(1)		小5		○				○				81.7%	3.0%		0.0%	0.0%	自動車工場が膨大な部品の在庫を持たないようにするための工夫について説明できるか。	
24		(2)		小5	○					○				73.2%	2.3%	0.0%		0.0%	自動車を注文どおりに作るための工夫について理解しているか。	
25		(3)	資4	小5	○						○			91.7%		0.5%	0.0%		0.0%	社会や人々の願いに合わせて作られた自動車について理解しているか。
26			資5	小5	○						○			93.7%		0.5%	0.0%		0.0%	
27		(4)		小5		○					○				78.8%	3.2%		0.0%	0.0%	製造された自動車が目的に応じて、有効な輸送手段を使って運ばれることについて説明できるか。
計				問題数	18	9	8	7	4	6	2									
				出題割合	66.7%	33.3%	29.6%	25.9%	14.8%	22.2%	7.4%									
												82.8%	74.2%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%			
												79.9%			0.0%					

(3) 社会（授業改善の視点）【小中共通】

ア 出題について

全学年、難易度は例年並みで、当該学年で学習する内容を、基礎的・基本的な問題と思考・表現に関する問題を約2：1の割合で出題。

- ・ 小5は、日本の各地の気候の特色を雨温図の特徴から説明する問題や、日本の食料問題について表や資料から読み取って説明する問題等を出題。
- ・ 中1は、写真や雨温図を基に気候の特色を説明する問題、緯度・経度を活用し、時差等を求める問題、郷土の人物に関する問題等を出題。
- ・ 中2は、促成栽培や過疎など日本の地理に関する問題、江戸時代の大名の配置や参勤交代について説明する問題や江戸時代の政治改革の特徴等を出題。

※ 今年度は中学校において、時差に関する問題を共通して出題したが、来年度以降は、各学年における履修内容を出題予定（時差は中1で履修）

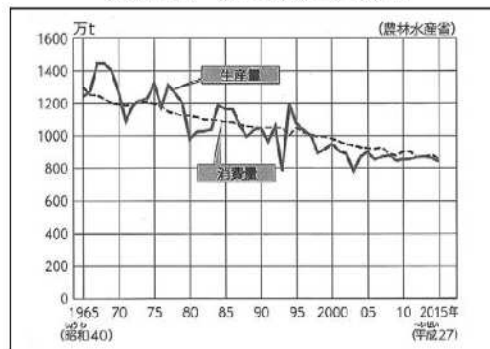
イ 特徴ある問題から【小学校】 3 (2)

(2) 写真1は、米づくりをする農家の人が、インターネットを使って米づくりの工夫や生産の様子を公開している様子です。農家の人は、なぜこのようなことをするのでしょうか。資料2を参考にして、その理由を、下の の中に書きましょう。

(写真1) ある農家のウェブサイト



(資料2) 米の消費量の変化



平均通過率
58.3%

グラフを扱うときは、グラフが示す特徴（急激に変化している部分など）を提示し、そのようになった原因、理由、背景等を考えさせたい。

【解答】

米の消費量が年々少なくなっているため、お米の良さを伝え、（自分の作っている米を）たくさん買ってもらえるようにするため。

ウ 授業改善のポイント【小学校】

「グラフの見方（読み取り方）」⇒「表題の3点・単位の2点・変化の5点」を意識させ、
変化の5点に焦点を当てた授業の実践を行いたい。

- 表題の3点 … 表題・年度・出典
- 単位の2点 … 縦軸（単位）・横軸（単位）
- 変化の5点 … ア 段々上がる・イ 段々下がる・ウ 突然上がる・エ 突然下がる・オ 変化なし
◎ウ、エには特に注意

【指導例】

- 1 「漁業別の生産量の変化」 → 沖合漁業増加，遠洋漁業減少
【令和2年度 鹿児島学習定着度調査(小5) 4 (3) に出題】
- 2 「米の消費量と生産量の変化」 → 消費量，生産量，作付面積の減少
【我が国の農業における食料生産について(小5の教科書)】

エ 特徴ある問題から【中学校】 中1 1 (3), 中2 1 (2)

(2) 地図1中の東京が1月1日の午前0時のとき、ニューヨークは何月何日の何時か、次のア～エから一つを選び、記号で答えよ。ただし、経度15度で1時間の時差が生じ、日本の標準時子午線は兵庫県明石市を通る東経135度、アメリカのニューヨークは西経75度とする。

- ア 12月31日の午前10時 イ 12月31日の午後2時
ウ 1月1日の午前10時 エ 1月1日の午後2時

ア

【中1】 平均通過率 53.2%

【中2】 平均通過率 54.2%

生徒が時差の概念をイメージできるようにしたい。地球儀や掛け地図を使ったり、映像を見せたり、ICT（ソフト等）を活用するなど、授業の工夫を図りたい。定着を図るために、理解させた後は、演習問題に取り組むことが必須である。

オ 授業改善のポイント【中学校】

- 「時差に関する問題」⇒
- 1 時差が生じる原因を考えさせる。
 - 2 生徒がイメージできるようにし、丁寧な説明を行う。
 - 3 問題演習を行う。

【参考】

「緯線が横で、経線が縦」

緯線	・・・横の線	赤道を中心に	北に北緯	南に南緯	※ 90度
経線	・・・縦の線	本初子午線を中心に	東に東経	西に西経	※ 180度

「経度15度＝1時間の時差」

① 1日（24時間）で地球は一回転（360度）するので、1時間で地球は $360 \div 24 = 15$ 度回転する。そのため、経度が15度ずれると1時間の時差が生じる。

『東経と東経』『西経と西経』の時差→ 『経度の差 \div 15』

『東経と西経』の時差→ 『経度の和 \div 15』

- ① 東京（東経135度）とニューヨーク（西経75度）の経度差は、 $135 + 75 = 210$ 度となる。
② 東京とニューヨークの時差は、 $210 \div 15 = 14$ となり、14時間となる。

③ 日付変更線を越えるときは注意する。

東経180度（日付変更線）に近い国ほど時間は進んでいる。

【例】新年を迎える順番 1 日本、2 イギリス、3 アメリカ

- ③ 東京はニューヨークよりも時間が進んでいる。
④ 東京の時刻（1月1日午前0時）より14時間前に戻すと・・・12月31日の午前10時

カ 授業改善のポイント【小中共通】

学習指導要領改訂により、社会的事象そのものが学習内容となっている社会科においては、社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動を取り入れた授業実践が期待されている。

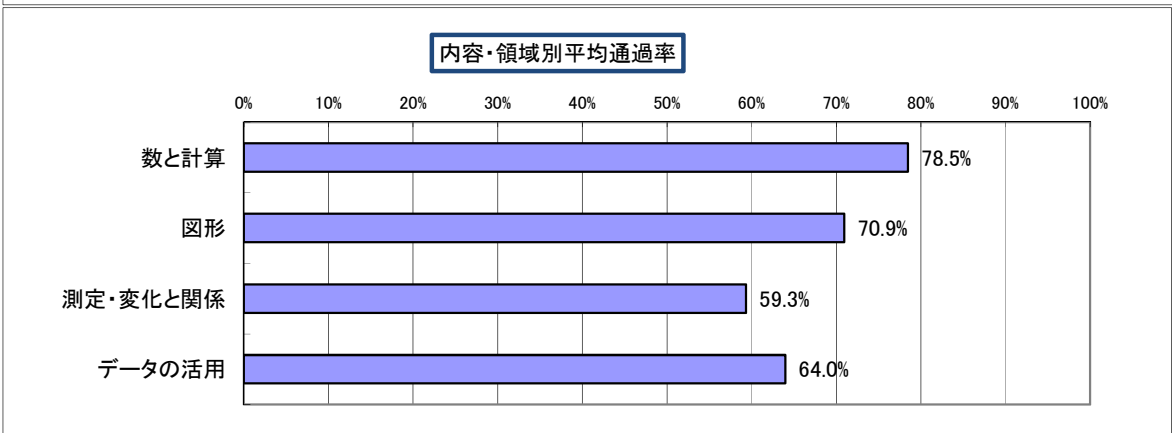
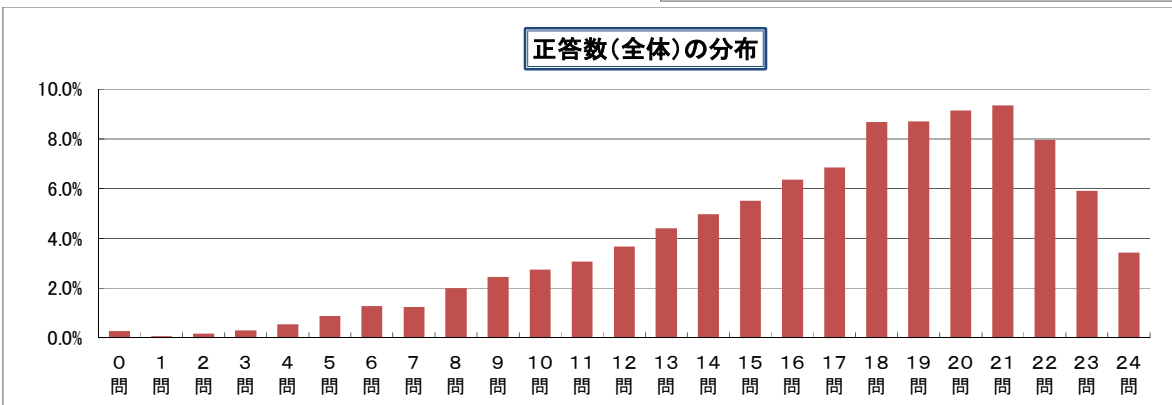
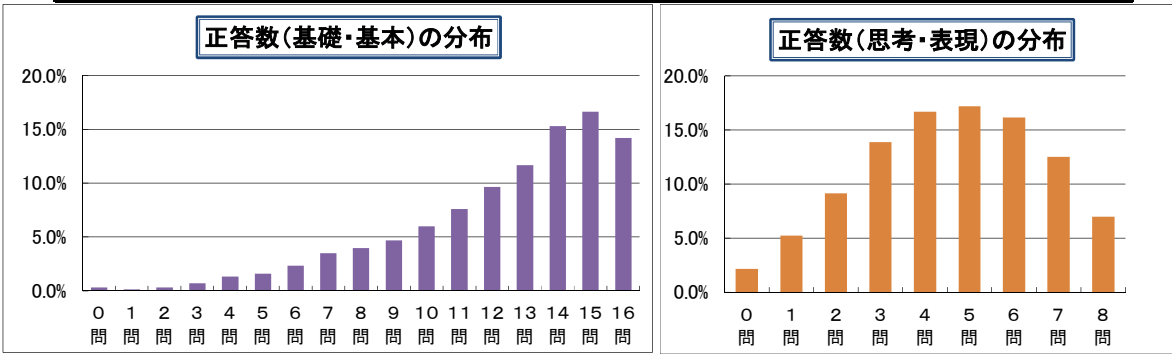
授業では、社会的な見方・考え方を働かせ、ペア・グループ活動などを取り入れながら多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を説明したり論述したりできるようにすることが期待されている。

- 生きて働く知識の習得場面と思考力・判断力・表現力等の育成場面を、授業にバランスよく取り入れる。考えさせる場面を必ず入れ、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。
- ICTを積極的かつ効果的に活用する。また、新聞記事等を活用して、タイムリーな話題を提供し、政治等に関心をもたせる。あわせて、自分たちの住んでいる郷土についても関心をもたせる工夫をする。
- 定期的に復習する場面を取り入れる。小テスト等で重要語句などの基礎・基本の定着を図る。また、かごしま学力向上支援Webシステム上の評価問題等で思考力・表現力の育成を図る。

小学校第5学年【算数】

(1) 算数の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	77.2%	75.8%	76.9%
	全体	57.4%	49.3%	56.8%
		70.6%	66.0%	70.2%



- 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は77.2%であった。昨年度の課題であった小数と小数の乗法の問題は71.0%と少し改善したが、計算のきまりにしたがって正しく計算する問題は68.3%と昨年度と比べると若干下がっている。筆算のしやすさの確認や、計算する順序など授業での工夫を再度図りたい。
- 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は57.4%で、昨年度と比べると3.7%向上した。「変化と関係」、「データの活用」領域に改善が見られる。特に、「速さ」や「折れ線グラフ」が改善している。日々の授業で根拠をもって説明することを大切にされた教師の具体的な働きかけを行っている成果といえる。
- 今後も、授業の中で、表やグラフ等を積極的に活用し、表から分かること、グラフを使って言えることなどを、タブレットを効果的に活用しながら自分の考えを構築したり、さらにペアやグループで交流するなどして、考えを深めることができるような活動を積極的に取り入れたい。

(2) 各設問の分類と平均通過率

算数(小学校第5学年)

設問	出題学年			問題内容別		内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図
	大問	中問	小問	基礎・基本	思考・表現	数と計算	図形	測定変化と関係	データの活用	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	
1	(1)		小2	○		○				98.0%		0.0%	0.0%		0.0%	2位数同士の繰り上がりのある加法を、正しく計算することができるか。
2	(2)		小3	○		○				85.1%		0.2%	0.0%		0.0%	小数と整数の減法を、位をそろえて正しく計算することができるか。
3	1	(3)	小5	○		○				75.0%		1.1%	0.0%		0.0%	異分母の帯分数の減法を、正しく計算することができるか。
4	(4)		小5	○		○				71.0%		0.6%	0.0%		0.0%	小数と小数の乗法を、正しく計算することができるか。
5	(5)		小5	○		○				68.3%		0.9%	0.0%		0.0%	計算のきまりにしたがって正しく計算することができるか。
6	2	(1)	小5	○		○				72.0%		1.3%	0.0%		0.0%	乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係を、正しく理解しているか。
7	(2)		小5	○		○				84.1%		0.6%	0.0%		0.0%	数量の関係を数直線に表すことができるか。
8	3	①	小5	○		○				82.1%		1.1%	0.0%		0.0%	最小公倍数の意味を正しく理解し、利用することができるか。
9	②	小5	○		○					73.6%		1.4%	0.0%		0.0%	最小公倍数から、条件に合う色画用紙の枚数を求めることができるか。
10	(2)	小5	○		○					75.5%		2.4%	0.0%		0.0%	最大公約数の意味を正しく理解し、利用することができるか。
11	4	(1)	小4	○		○				76.3%		0.2%	0.0%		0.0%	四角形の対角線の性質を、正しく理解しているか。
12	(2)	小5	○		○					82.8%		0.2%	0.0%		0.0%	合同な三角形を作図するために必要な条件を理解しているか。
13	5		小4	○		○				84.1%		0.2%	0.0%		0.0%	分度器を用いて、180°より大きい角の測り方を理解しているか。
14	6		小4	○		○				61.3%		0.4%	0.0%		0.0%	立方体の構成要素及びそれらの位置関係について理解しているか。
15	7	(1) ①②③	小4	○		○				88.2%		0.5%	0.0%		0.0%	2つの数量の関係を見だし、表に整理することができるか。
16	(2)	小4	○		○					57.4%		0.8%	0.0%		0.0%	2つの数量の関係を見だし、利用することができるか。
17	8	(1) ①②③	小5		○			○		79.4%	3.3%		0.0%		0.0%	示された時間の求め方を理解し、正しく説明することができるか。
18	(2)	小5		○				○		59.5%	7.5%		0.0%		0.0%	速さと時間と道のりをもとに必要な条件を適切に判断し、説明することができるか。
19	9	(1) ①②	小5		○			○		80.8%	1.8%		0.0%		0.0%	示された四角形をもとに、四角形の内角の和を説明することができるか。
20	(2)	小5		○				○		40.3%	12.1%		0.0%		0.0%	示された四角形の面積の求め方を理解し、その求め方を正しく説明することができるか。
21	10	(1)	小4		○			○		84.8%	1.0%		0.0%		0.0%	データを正しく読み取り、条件と照らし合わせて判断することができるか。
22	(2)	小5		○				○		46.7%	2.5%		0.0%		0.0%	異種の二つの量の関係に着目し、適切なグラフを選択することができるか。
23	(3)	小5		○				○		24.9%	12.1%		0.0%		0.0%	単位量当たりの大きさの考え方を使得、目的に応じた数値で表すことができるか。
24	(4)	小4		○				○		43.1%	14.5%		0.0%		0.0%	表や目盛りの間隔が異なる2つの折れ線グラフを比べ、それぞれの変化量を読み取り、変化の様子を説明することができるか。
計		問題数	16	8	10	6	6	2								
		出題割合	66.7%	33.3%	41.7%	25.0%	25.0%	8.3%								
									77.2%	57.4%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%		
									70.6%			0.0%				

(3) 算数（授業改善の視点）

ア 出題について

<小学校>

- ・ 基礎・基本，思考・表現の設問の数は，ほぼ例年どおりで出題。
- ・ 過去の鹿児島学習定着度調査の通過率の低い設問の類題を出題。
- ・ 異種の二つの量の関係に着目し，適切なグラフを選択する設問を出題。

イ 特徴ある問題から

<小学校>

小5：10の（4）

指導事項：

2つの折れ線グラフから変化の様子を説明すること。

通過率：

43.1%

調査の結果から，2量の目盛りの違いに留意し，言葉や数を使って説明する折れ線グラフの問題に課題があることが分かった。

子どもたちの誤答傾向から，冒頭にある表と混同したり，折れ線グラフの傾きに惑わされたりする傾向が見られた。

令和2年度の鹿児島学習定着度調査の最終問題と類似した内容であるが，その際の正答率は35.3%であったので，昨年度よりもグラフの見方及び説明する力は向上している。

一方，依然として通過率が低いのは，2量のうちの一方（縦軸）の目盛りの違いに気付いていないことが挙げられる。グラフを作成したり，傾きを読み取る前に，グラフの目盛にも着目させたりする指導が必要である。

ウ 授業改善のポイント

<小学校>

表やグラフを根拠として説明する問題に苦手意識をもっていることが考えられる。そこで，以下のようなことを意識して授業を行うことが重要である。

○表やグラフの枠（最大値や最小値など）を意識させる発問，板書を行う。

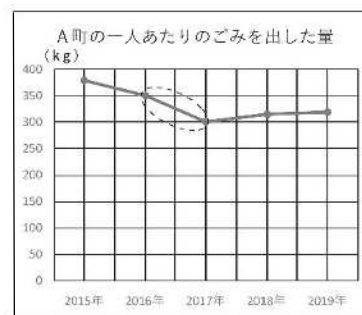
（実際に，枠がないところからグラフを描く時間も取り入れる）

○グラフを比較させ，量や数値を根拠に説明する活動を取り入れる。

10 ひろみさんとそうたさんはA町とB町のごみの量を調べています。下の表は，1年間のA町とB町のごみの量をまとめたものです。次の(1)～(4)の各問いに答えましょう。

A町とB町の1年間のごみの量（トン）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
A 町	1254	1620	1716	1917	2160
B 町	666	689	693	715	720



ひろみ

折れ線グラフの変わり方を見ると，2016年から2017年にかけて，A町もB町も一人あたりのごみを出した量は下がっているよ。A町に比べて，B町の方が大きく下がっているね。だから，2016年から2017年にかけて，B町の方が一人あたりのごみを出した量のへり方は大きいね。

(4) ひろみさんの考えの下線部分は正しくありません。その理由を一人あたりのごみを出した量に着目して，言葉や数を使って書きましょう。

(理由)

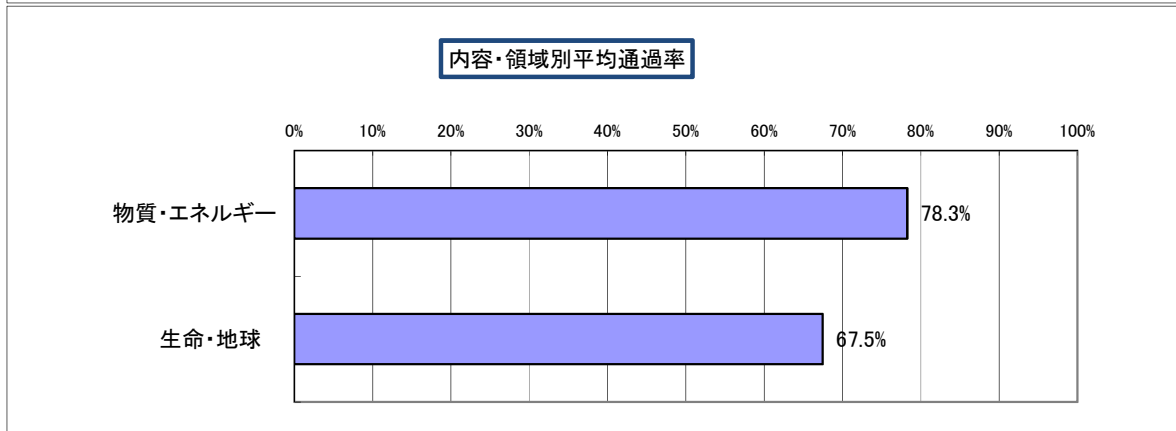
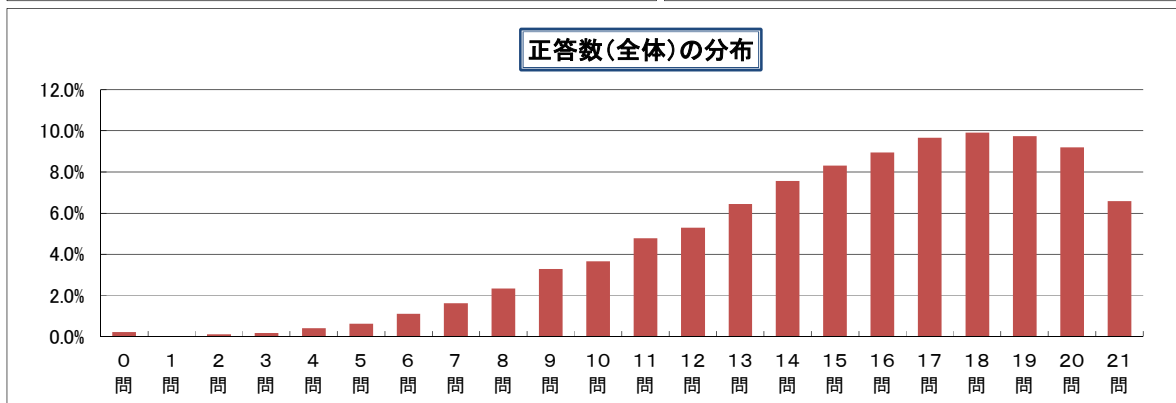
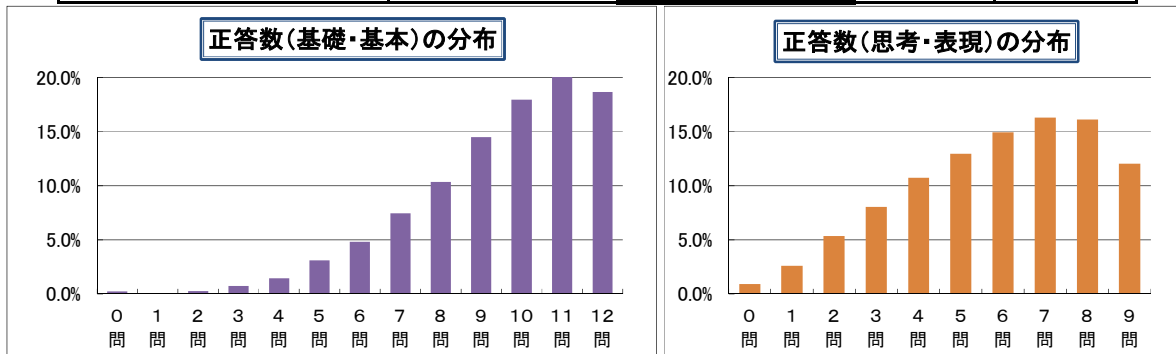
2016年から2017年にかけて，A町は一人あたりのごみの量がおよそ350kgから300kgまで50kgへっていて，B町は360kgから330kgまでおよそ30kgしかへっていない。

だから，A町にくらべてB町の方が一人あたりのごみの量のへり方が大きいとはいえない。

小学校第5学年【理科】

(1) 理科の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	基礎・基本	79.0%	72.7%	77.6%
	思考・表現	65.3%	62.9%	50.5%
	全体	73.1%	69.4%	68.6%



- 「基礎・基本」の平均通過率は79.0%で概ね良好であるが、小3の学習内容である、大問6(3)の時間経過に伴う太陽の動きに関する問いの通過率が56.3%と低くなっている。
- 「思考・表現」の平均通過率は65.3%で概ね良好であるが、大問2(2)の乾電池のつなぎ方による電流の大きさと向きに関する問いの通過率が49.3%、大問6(4)で牛乳瓶の外側について水滴の生じる理由を説明する問いの通過率は49.8%とやや低くなっている。
- 内容・領域別の通過率については、生命・地球領域が67.5%とやや低くなっている。日常的に理科的な見方・考え方を発揮しながら、身の回りの現象を考えていくことが必要である。

(2) 各設問の分類と平均通過率

理科(小学校第5学年)

設問	設問			出題学年	問題内容別		内容領域別		県平均通過率			校内通過率			出題の意図
	大問	中間	小問		基礎・基本	思考・表現	A 物質・エネルギー	B 生命・地球	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	
1		1	小5	○			○	84.0%		1.4%	0.0%		0.0%	発芽するときに使われる養分をでんぷんと理解しているか。	
2	1	2	小5		○		○		63.8%	0.2%		0.0%	0.0%	条件を制御して実験方法を計画することができるか。	
3		3	小5	○			○	79.0%		0.5%	0.0%		0.0%	植物の成長に必要な条件を理解しているか。	
4		1	小4	○			○	88.1%		0.3%	0.0%		0.0%	乾電池の向きを変えると、回路に流れる電流の向きが変わることを理解しているか。	
5	2	2	小4		○		○		49.3%	0.1%		0.0%	0.0%	乾電池のつなぎ方による電流の大きさと向きを考慮することができるか。	
6		1	小4	○			○	77.9%		0.1%	0.0%		0.0%	金属のあたためり方を理解しているか。	
7	3	2	小4	○			○	78.5%		0.1%	0.0%		0.0%	水のあたためり方を理解しているか。	
8		3	小4		○		○		59.1%	0.4%		0.0%	0.0%	空気のあたためり方を身の回りの生活に活用して考えることができるか。	
9		1	小5	○			○	63.8%		0.4%	0.0%		0.0%	花粉はおしべの先にあることと、ヘチマやアサガオの花のつくりを理解しているか。	
10	4	2	小5	○			○	65.8%		0.1%	0.0%		0.0%	顕微鏡の適切な使い方を理解しているか。	
11		3	小5		○		○		70.6%	1.4%		0.0%	0.0%	結実に関する実験について、条件制御の視点から実験方法の妥当性を考えることができるか。	
12		1	小3	○			○	93.1%		0.4%	0.0%		0.0%	磁石は鉄でできた物を引きつけることを理解しているか。	
13	5	2	小3	○			○	83.8%		0.3%	0.0%		0.0%	磁石の同極は退け合うことを理解しているか。	
14		3	小3		○		○		74.2%	0.3%		0.0%	0.0%	磁石の性質を理解した上で、磁化したくぎの極を考慮することができるか。	
15		1	小5		○		○		63.4%	0.6%		0.0%	0.0%	天気の変化と雲の動きを関係付けて考えることができるか。	
16	6	2	小5		○		○		78.4%	1.4%		0.0%	0.0%	実験結果と侵食する働きを防ぐ取組を関係付けて考えることができるか。	
17		3	小3	○			○	56.3%		0.3%	0.0%		0.0%	時間経過に伴う太陽の動き方を理解しているか。	
18		4	小4		○		○		49.8%	1.6%		0.0%	0.0%	自然事象から、水の姿の変化を考慮することができるか。	
19		1	小5	○			○	87.2%		0.2%	0.0%		0.0%	メスシリンダーの正しい使い方を理解しているか。	
20	7	2	小5	○			○	90.7%		0.3%	0.0%		0.0%	物が溶ける前と物が溶けた後の重さは変わらないことを理解しているか。	
21		3	小5		○		○		79.0%	0.3%		0.0%	0.0%	物が溶けた後、時間が経過しても溶けた物は水の中で均一に広がっていることと、目に見えない粒子のイメージを結び付けて考えることができるか。	
計				問題数	12	9	11	10							
				出題割合	57.1%	42.9%	52.4%	47.6%	79.0%	65.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
								73.1%			0.0%				

(3) 理科（授業改善の視点）【小中共通】

ア 出題について

- ・ 全学年、基礎的・基本的な問題を中心に、例年並みの「思考・表現」に関する問題も出題。
- ・ 小5は、大問6で日常的に見られる事象について、理科的な見方・考え方を発揮させる場面設定を行い、学習した各単元の内容を活用して解答する問題を出題。
- ・ 中1は、大問5で小学校学習内容の地層のでき方に関する問題、中1の内容から大問6、7で実験結果から粒子モデルを推測する問題を出題。
- ・ 中2は、中1の内容から、大問4でかき層を基に柱状図を作成する問題、中2の内容から大問3で気象、大問7で化学変化の未反応分の物質の質量を求める問題を出題。

イ 特徴ある問題から（小学校） 小5 6

6 太郎さんたちは、5月に鹿児島県のA市に1泊2日で宿泊学習に行きました。次の各問いに答えましょう。

宿泊学習 1日目 夜

太郎： 明日の活動も楽しみだね。

正子： そうだね。
明日の朝、日の出を見たいね。

太郎： 太陽は、(①) から出て、(②) を通り、(③) にしずんでいくから、(①) の空を見るといいね。



(3) 会話文中の①～③には、どの方位が入るでしょうか。次のア～エの組み合わせのうち最も適切なものを1つ選び、記号を に書きましょう。


ア ①西 ②北 ③東	エ	平均通過率 56.3%
イ ①西 ②南 ③東		
ウ ①東 ②北 ③西		
エ ①東 ②南 ③西		

宿泊学習 2日目

正子： 朝食の牛にゅう、おいしそうだね。

太郎： あれっ、冷たい牛にゅうが入ったびんの外側に水てきがついているよ。どうしてかな。

正子： 本当だね。びんの外側に水てきがついたのは、(④) からだね。



(4) 会話文中の(④)に入る言葉を、「空気中」「水じょう気」という言葉を2つとも使って書きましょう。

空気中の水じょう気が冷やされて、水にもどった

平均通過率
49.8%

◇ 次の二点を意識して日々の指導を！

① 教師自身が日常的に見られる事象等について、問いかけを意図的に行う。

② 「同じです。いいと思います。」で終わらせず、なぜ、そう考えたのかなど、自分と他者の意見を比較しながら考えを深める場面を大切にする。

※ 児童は日常的に理科の見方・考え方を発揮しながら、協働して課題解決できるようになる。

中1 7 下の【手順】のように、ロウを状態変化させる実験を行った。次の各問いに答えなさい。

【手順】

①

ビーカーに入れたロウを加熱して液体にし、液面の高さに印をつける。

②

ビーカーごと液体のロウの質量をはかる。

③

ビーカーを冷やして、ロウを固体にする。

④

ビーカーごと固体のロウの質量をはかる。

※ 微視的な事象について、実験結果を基に、質量や体積等を踏まえ、粒子の数に着目して適切なモデルを選択できる(自分で描く)力を育成する。(大問6とも関連)

(3) 固体のロウが、液体のロウに変化したときの様子を、粒子のモデルで考えた。固体のロウを図2のモデルとしたときに、液体の粒子のモデルはどのように表されるか。最も適切なものを次のア～オから1つ選び、記号で答えよ。

また、それを選んだ理由について簡単に説明せよ。ただし、図2及びア～オの粒子1粒は同じ質量を持ち、粒の大きさは体積の大きさを示すものとする。

図2

固体の粒子のモデル

ア

イ

ウ

※ ウは図2と同じ図である。

エ

オ

平均通過率
38.8%

中2 7 図1のように、ステンレスの皿の上にマグネシウムの粉末をうすく広げて熱し、空気中の酸素と反応させたところ、酸化マグネシウムに変化しました。

(3) 表2は、A～Eの5つの試料は別のX班の実験結果を表している。また、図3は表1の実験結果を使って、「マグネシウムの質量」と「結びついた酸素の質量」の関係を表したものである。

次の文は、実験に参加した太郎さんと次郎さんが、X班の実験結果について考察しているときの会話である。会話文中の(ア)、(イ)に当てはまる値を答えよ。

なお、下の会話文中の「グラフ」は図3のグラフを示している。

	X班
マグネシウムの質量 [g]	1.50
酸化マグネシウムの質量 [g]	2.10
結びついた酸素の質量 [g]	0.60

太郎: X班の結果はグラフから予想できる値と比べて、質量の増加が小さいね。

次郎: そうだね。グラフから予測すると酸素が(ア)g不足していると思うよ。

太郎: 酸素が不足しているということは、加熱後の物質の中には、まだ酸素と結びついていない単体のマグネシウムが残っているはずだね。

次郎: グラフから考えると、単体のマグネシウムは(イ)g残っていると思われるよ。

ア: 0.40 イ: 0.60

図3

マグネシウムの質量と結びついた酸素の質量の関係

平均通過率
39.2%

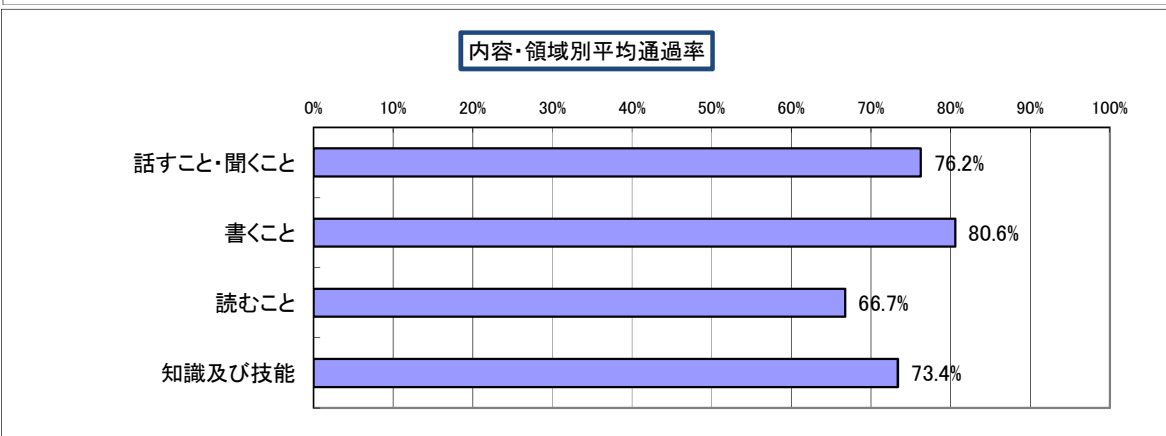
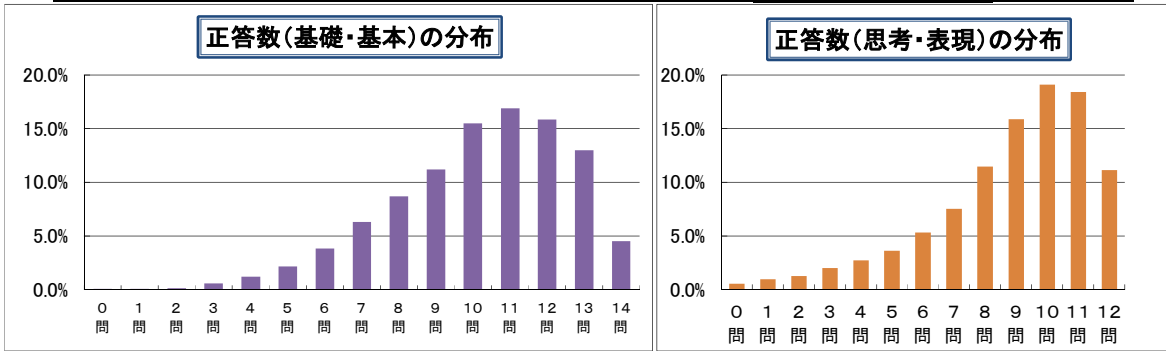
※ 問題中にグラフがなくても、表に示される数値から自分でグラフ化(変化の傾向をつかむ)し、計算とグラフを併用し、解答していく力を育成する。

エ 授業改善のポイント【小中共通】

- 小5の太陽の通り道の方位を答える問題は56.3%, 中2の等圧線から気圧を読み取る問題は27.6%, 高気圧や低気圧の風の吹き出し、吹き込みに関する問題は28.6%と通過率が低い。特に、自然観察等が関係する単元は一度学習して終わりではなく、単元での学習終了後、学習した内容やそれに関する事象に興味・関心を持続、向上させる工夫を行う。(授業開始前や終了後にICTを活用した情報提供や児童生徒への問い掛けを意図的、計画的に行うことが効果的である。)
- 系統性(単元間、小・中のつながり)を意識した指導の充実を図る。そのために、教師自ら、他校種、他学年の鹿児島学習定着度調査の問題を解いてみるのが大切である。(小5: 大問2, 3, 5, 6(3), (4), 中1: 大問5, 中2: 大問4, 5は、前年度以前の指導内容)
- 小学校では「問題解決の過程」、中学校では「探究の過程」を踏まえた授業を展開する。特に、自分の考えを再構築する過程を大切にす。また、単元によって、自分の考えを文字だけでなく、図やモデル、グラフ等を使って整理する場面も十分に確保することが重要である。

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	74.0%	73.4%	77.8%
	全体	69.5%	73.8%	76.7%
		72.3%	73.6%	77.3%



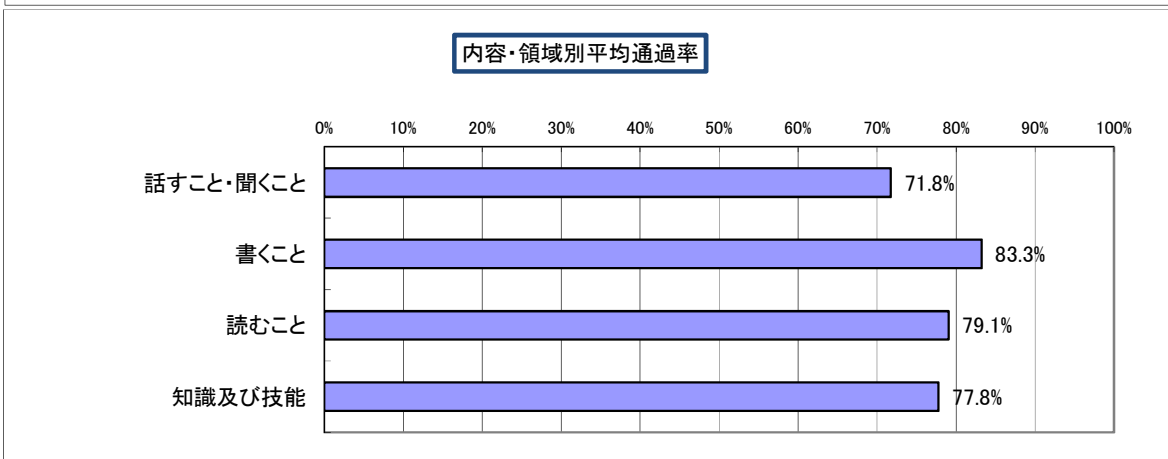
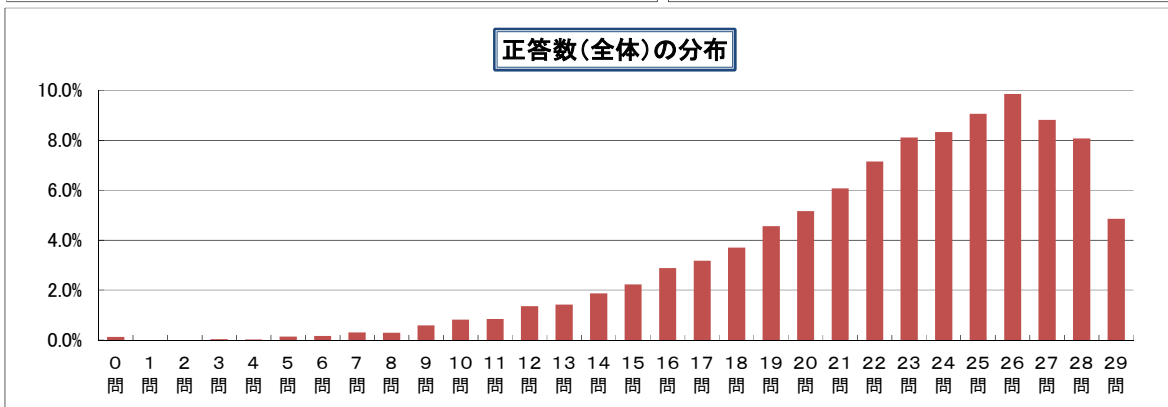
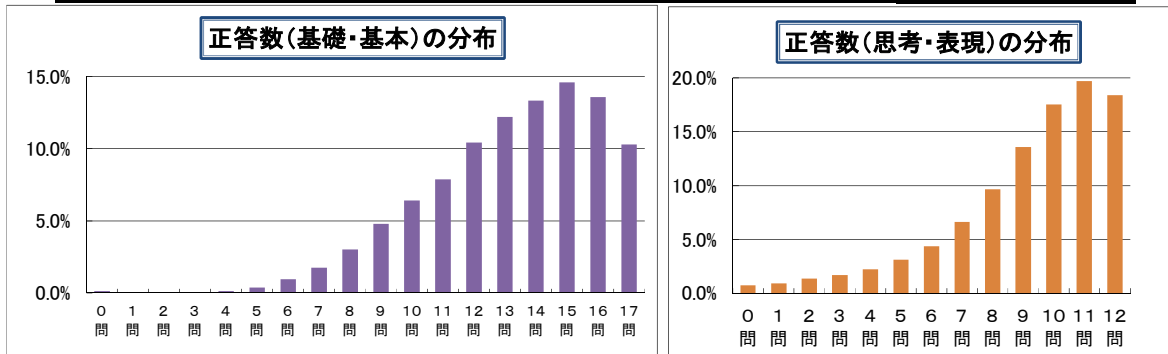
- 「読むこと」以外の領域においては、目標通過率の7割を超えた。無答率も昨年度より低くなっており、生徒の粘り強く取り組む姿が見られる。
- 「読むこと」の領域では、説明文の読解を中心に出题したが、大問3の一、抜けている段落の内容を、文章全体から考えて適切な位置に入れる設問や、大問3の五文章の内容を読解し、適切な短い文で抜き出す設問に課題が見られた。文章全体の構成を考える指導や内容を要約する指導が必要である。
- 「知識及び技能」では、大問1の二で問われている漢字と同じ漢字を使っている熟語を答える設問が、全設問の中で正答率が一番低かった。漢字学習においては、学習すべき漢字だけではなく熟語や関連する漢字等、一つの文字から幅広く学習していく必要がある。

(2) 中1各設問の分類と平均通過率
国語(中学校第1学年)

設問	大問	中間	小問	出題学年	問題内容別			内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図
					基礎・基本	思考・表現	話す・聴くこと	書くこと	読むこと	知識及び技能	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率		
1	1		1	小6	○					○	97.6%		0.1%	0.0%		0.0%	小学校学習漢字(音)を正しく読むことができるか。	
2			2	小6	○					○	88.9%		1.2%	0.0%		0.0%	小学校学習漢字(訓)を正しく読むことができるか。	
3			3	小3 小5	○						○	59.6%		2.3%	0.0%		0.0%	小学校学習漢字を正しく書くことができるか。
4			二	小2	○						○	28.8%		0.1%	0.0%		0.0%	文意や熟語の意味から正しい漢字を判断することができるか。
5			三	小6	○						○	64.6%		4.0%	0.0%		0.0%	漢字の部首名を正しく答えることができるか。
6			四	中1	○						○	80.0%		0.1%	0.0%		0.0%	文節を理解し、適切に区切ることができるか。
7			五	小4	○						○	80.3%		0.1%	0.0%		0.0%	例文からことわざの意味を考え、似た意味の言葉を選ぶことができるか。
8			六	中1	○						○	69.5%		0.2%	0.0%		0.0%	表現技法について理解しているか。
9			七	小4	○						○	72.6%		0.1%	0.0%		0.0%	例文から故事成語の意味を捉え、正しい意味を判断することができるか。
10			八	小4	○						○	90.6%		0.1%	0.0%		0.0%	例文から慣用句の意味を考え、似た意味の慣用句を選ぶことができるか。
11	2		一	中1	○					○	76.6%		3.8%	0.0%		0.0%	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができるか。	
12			二	中1	○					○	66.1%		0.1%	0.0%		0.0%	古文の文脈を適切に捉え、古語の意味を理解することができるか。	
13			三	中1	○						○	80.6%		0.1%	0.0%		0.0%	文脈に即して、古語の意味を捉えることができるか。
14	3		一	中1		○				○		44.2%	1.3%		0.0%	0.0%	段落の役割などを意識して、文章の構成を捉えることができるか。	
15			二	小5 小6	○						○	70.9%		0.3%	0.0%		0.0%	主語と述語との関係について、理解することができるか。
16			三	中1		○					○	75.4%		0.3%		0.0%	0.0%	文の前後の関係を正しく捉え、叙述に即して内容を理解することができるか。
17			四	小5 小6		○					○	90.5%		0.4%		0.0%	0.0%	文章と図表を結び付けて内容を理解することができるか。
18			五	中1		○					○	56.9%		7.9%		0.0%	0.0%	文章の要旨を捉え、筆者の考えを捉えることができるか。
19			六	①	中1		○				○	89.1%		4.5%		0.0%	0.0%	文章の要旨を捉え、筆者の考えに対して自分の考えをもつことができるか。
20				②	中1		○				○	72.1%		5.4%		0.0%	0.0%	
21	4		一	中1		○	○				80.0%		5.7%		0.0%	0.0%	目的や意図に応じて、題材を整理することができるか。	
22			二	中1		○	○				70.0%		0.6%		0.0%	0.0%	目的や場面に応じて伝え合う内容を検討することができるか。	
23			三	中1		○	○				79.3%		0.9%		0.0%	0.0%	相手の反応を踏まえながら、表現を工夫することができるか。	
24			四	中1		○	○				67.3%		4.5%		0.0%	0.0%	必要に応じて記録し、話の内容を捉えることができるか。	
25			五	①	中1		○	○				92.3%		6.0%		0.0%	0.0%	話し合いの話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるか。
26	②	中1			○	○				68.5%		6.6%		0.0%	0.0%			
計		問題数		14	12	6	2	4	14									
		出題割合		53.8%	46.2%	23.1%	7.7%	15.4%	53.8%									
										73.4%	73.8%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%			
										73.6%			0.0%					

(3) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	74.0%	73.4%	77.8%
	全体	69.5%	73.8%	76.7%
		72.3%	73.6%	77.3%



- 全ての内容・領域において平均通過率は7割を超えた。また、無解答率の割合も昨年度より減少した。四領域の中では「話すこと・聞くこと」にやや課題が見られた。
- 「知識及び技能」では、形容詞の活用形を問う設問の正答率が低かった。例年通過率が低い内容であるが、今年度は、出題の形式を、なぜその活用形になるのか、考え方のプロセスを文章化した問いに変更した。これらの考え方のプロセスをしっかりと指導していく必要がある。
- 大問3の五、適切な接続語を選ぶ設問や説明文の読解の大問3の六、複数の資料を関係付けて答える設問の通過率が低かった。複数の情報を関係付けて考える設問を授業の中に位置付けていく必要がある。

(4) 中2各設問の分類と平均通過率

国語(中学校第2学年)

大問	設問			問題内容別		内容領域別					県平均通過率			校内通過率			出題の意図
	大問	中問	小問	出題学年	基礎・基本	思考・表現	話すことと書くこと	読むこと	語句	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率		
																基礎・基本	
1		1	小6	○					○	99.8%		0.0%	0.0%		0.0%	小学校学習漢字(訓)を正しく読むことができるか。	
2		2	小6 小5	○					○	99.0%		0.1%	0.0%		0.0%	小学校学習漢字(音)を正しく読むことができるか。	
3		3	小6	○					○	56.1%		8.8%	0.0%		0.0%	小学校学習漢字を正しく書くことができるか。	
4		4	小4 小5	○					○	67.3%		2.2%	0.0%		0.0%	小学校学習漢字を正しく書くことができるか。	
5	1	1	中2	○					○	59.3%		0.4%	0.0%		0.0%	形容詞の活用形を理解しているか。	
6		2	小5 中2	○					○	79.5%		0.2%	0.0%		0.0%	敬語の種類を理解して、書くことができるか。	
7		三	小4 中2	○					○	84.8%		0.2%	0.0%		0.0%	熟語の構成を理解しているか。	
8		1	小4	○					○	87.8%		0.2%	0.0%		0.0%	慣用句を理解しているか。	
9		2	小4 中1	○					○	76.0%		0.5%	0.0%		0.0%	ことわざと故事成語を理解しているか。	
10		五	小6 中1	○					○	62.0%		9.0%	0.0%		0.0%	漢字の部首名を正しく答えることができるか。	
11	六	中1	○					○	83.3%		0.5%	0.0%		0.0%	行書の特徴を理解しているか。		
12	2	一	中1	○					○	93.5%		0.1%	0.0%		0.0%	古語の意味を理解しているか。	
13		二	中2	○					○	93.3%		0.6%	0.0%		0.0%	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができるか。	
14		三	中2	○					○	69.9%		1.6%	0.0%		0.0%	言葉の意味を考え、内容を解釈することができるか。	
15		四	中2	○					○	75.7%		0.4%	0.0%		0.0%	古文を読んで、文意を捉えることができるか。	
16	3	I	中2	○				○		88.0%	3.8%		0.0%	0.0%	文章の内容を正しく捉えることができるか。		
17		II	中2	○				○		90.5%	4.5%		0.0%	0.0%	文章の内容を正しく捉えることができるか。		
18		二	中2	○				○		86.6%	0.4%		0.0%	0.0%	文章の内容を正しく捉えることができるか。		
19		三	中2	○				○		67.2%	0.7%		0.0%	0.0%	文章の表現の工夫を捉えることができるか。		
20		四	中1	○				○		70.0%		1.7%	0.0%		0.0%	品詞について理解できているか。	
21		五	中1	○				○		65.1%		0.6%	0.0%		0.0%	文意を捉えて、適切な接続後を選ぶことができるか。	
22		六	中2	○				○		62.9%	2.6%		0.0%	0.0%	文章と資料とを結び付けて、その関係を踏まえて、内容を解釈することができるか。		
23	七	①	中2	○			○			87.2%	5.6%		0.0%	0.0%	文章を読んで理解したことや考えたことを、知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるか。(観点①)		
24		②	中2	○			○			79.3%	5.8%		0.0%	0.0%	文章を読んで理解したことや考えたことを、知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるか。(観点②)		
25	4	一	小5・6	○	○					92.1%	0.7%		0.0%	0.0%	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合うことができるか。		
26		二	中2	○	○					74.7%	0.8%		0.0%	0.0%	論理の展開を捉えながら注意して聞くことができるか。		
27		①	中1	○	○					75.8%	2.1%		0.0%	0.0%	資料を用いて自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるか。		
28		②①	中1	○	○					72.3%	8.4%		0.0%	0.0%	根拠の適切さを考え、自分の考えをまとめることができるか。(観点①)		
29		②②	中1	○	○					43.8%	9.0%		0.0%	0.0%	根拠の適切さを考え、自分の考えをまとめることができるか。(観点②)		
計				問題数	17	12	5	2	5	17							
				出題割合	58.6%	41.4%	17.2%	6.9%	17.2%	58.6%							
											77.8%	76.7%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
											77.3%			0.0%			

(5) 国語（授業改善の視点）

ア 出題について

- ・ 基礎・基本，思考・表現の設問の数は，ほぼ例年どおりで出題。
- ・ 説明文を中心としながら，「書くこと」もしくは「話すこと・聞くこと」と関連させた複合的な問題を，授業展開を意識して出題。
- ・ 複数の情報を関係付けて答える設問を出題。
- ・ 「構成」を問うような設問を出題。
- ・ 文章中の言葉（叙述）を根拠として取り上げ，自分の考えを説明する設問を出題。
- ・ リーディングスキルテストは単独で扱わず，大問の中で出題。（中2大問③の二など）

イ 特徴ある問題から

中2：④の三の2の②

指導事項：【話すこと・聞くことエ】

根拠の適切さを考え，自分の考えをまとめることができるか。（観点②）

通過率：43.8%

調査の結果から，自分の意見の根拠を文章から抜き出し，根拠を明確にして書くことに課題があることが分かった。

昨年度は，物語文において，場面の雰囲気に関する自分の意見を，描写（叙述）から抜き出して答える問題を出題し，その通過率は70.1%であった。今回は昨年度よりも通過率が低くなっている。

文種は異なるが，自分の意見を，根拠を明確にして（根拠となる叙述を取り上げて）答えることに課題があり，なおかつ継続していることが分かる。

中2：①の二の1

指導事項：【話すこと・聞くことエ】

形容詞の活用形をについて理解しているか。

通過率：59.3%

「話し合い」の流れを踏まえて，どのような紹介カードが良いか，カードに書かれている文を根拠として取り上げて，自分の意見を書く問題。

2 次は，本田さんが準備していた「おすすめ本の紹介カード」A、Bである。これらを読んだ上で，【おすすめ本の紹介カードについての話し合い】の流れに沿って，本田さんの□にふさわしい発言を次の条件に従って書け。

条件1 AかBのどちらを選ぶかを一文目に書くこと。

条件2 二文目以降には，なぜそれを選んだのか，選んだ理由が分かるように，「おすすめ本の紹介カード」の中から表現を抜き出して「」で示しながら書くこと。

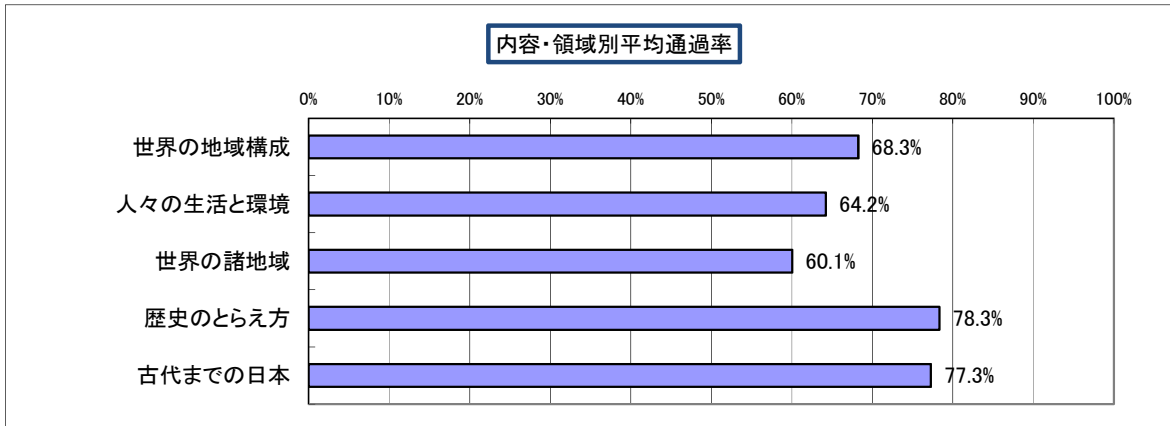
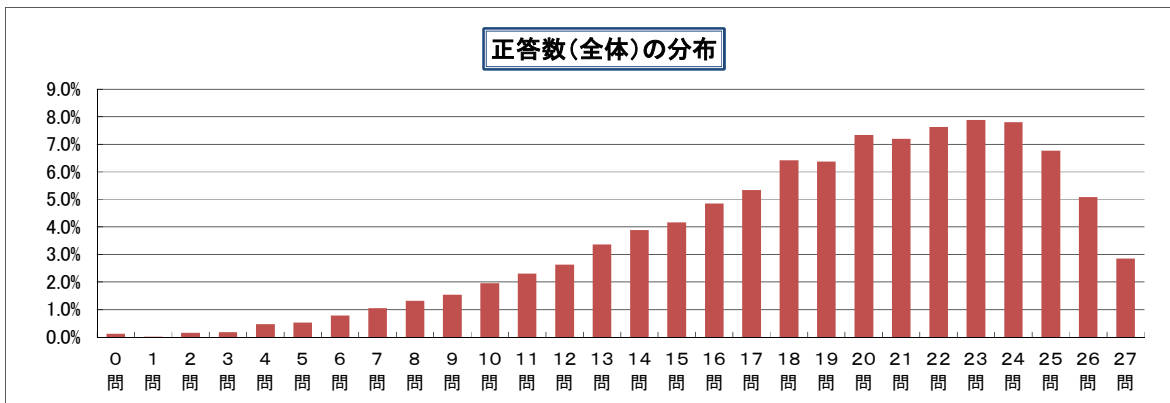
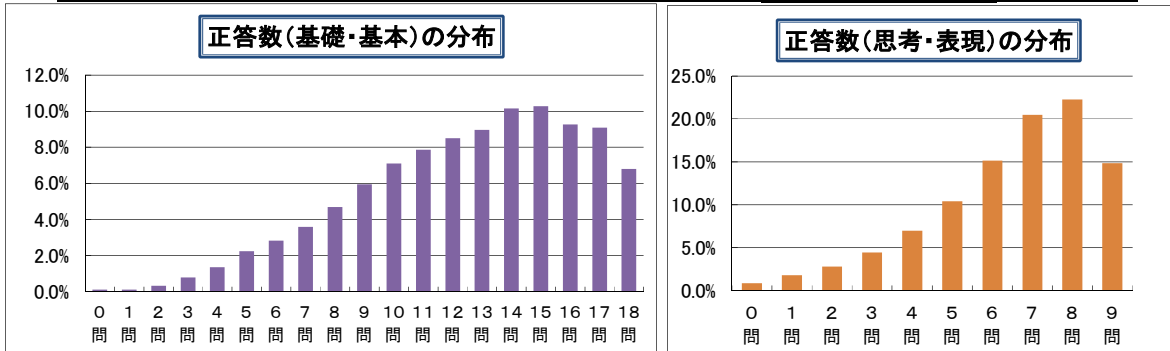
ウ 授業改善のポイント

- 自分の意見の根拠を叙述に求める指導を行う。（なぜそう考えるの，その考えは，どこの文章からそう思うの。）
- 自分の意見とその根拠となる文章中の叙述（文章中の言葉）を明確にして，書かせたり発言させたりする活動を行う。（板書やワークシートにも根拠となる叙述と自分の意見を区別して書かせるようにする。）
- 文法の学習では，なぜその答えになるのかについて，考え方のプロセスを繰り返し指導する。

中学校第1学年【社会】

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	基礎・基本	82.8%	69.5%	67.6%
	思考・表現	74.2%	71.9%	65.2%
	全体	79.9%	70.3%	66.8%



- 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は69.5%であり、時差を求める問題が53.2%、東南アジア諸国連合(ASEAN)を問う問題が43.7%と極端に低い。生徒が時差の概念や地図上の位置をイメージできるよう丁寧に説明し、演習を繰り返し、苦手意識を払拭したい。社会科は教科の特性上、用語の理解等暗記事項が多いことから、定期的に復習する場面が必要である。
- 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は71.9%と概ね高い。歴史的事象の背景や原因等を考えさせる授業が行われていると推察できる。引き続き実践したい。地理的分野においては、資料から読み取る問題の通過率が低い。雨温図の学習においては、一つの都市の位置や気候の特色を重点的に調べる学習をすることで、着目するポイントが分かるようになり、資料の読み取りにも有効である。

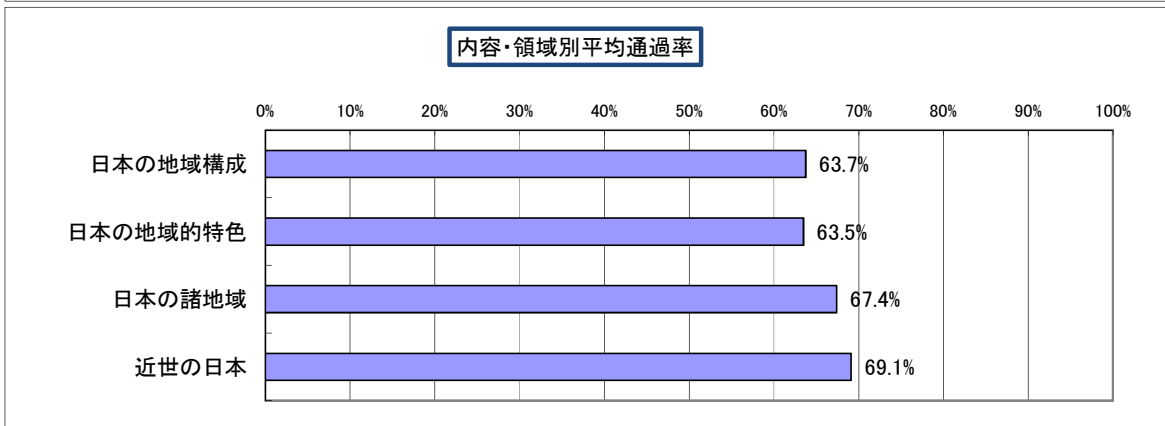
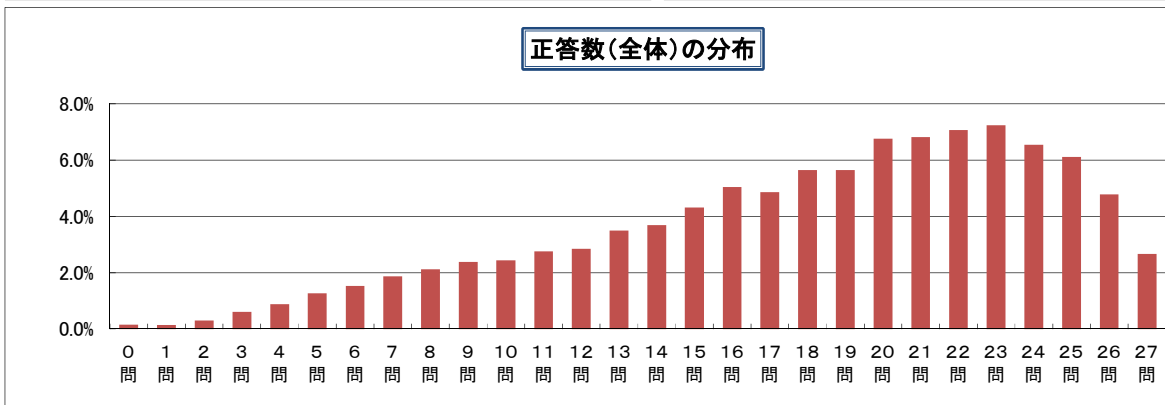
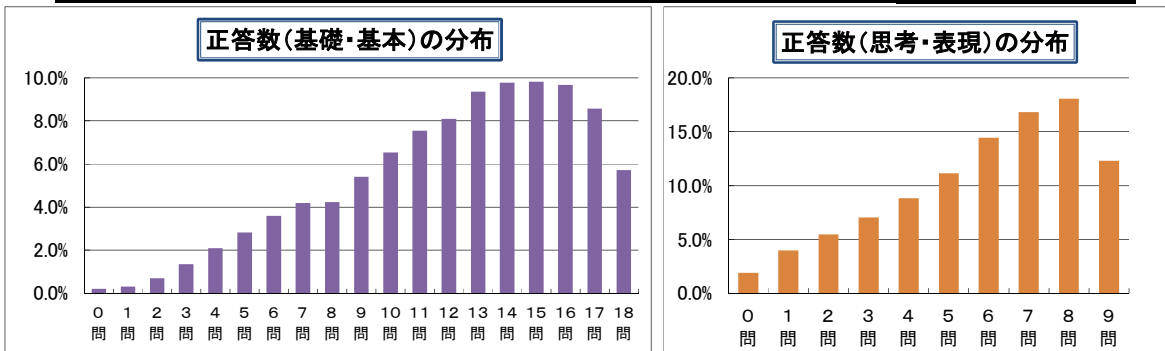
(2) 中1各設問の分類と平均通過率

社会(中学校第1学年)

設問	大問	中間	小問	出題学年	問題内容別		内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図		
					基礎・基本	思考・表現	世界の地域構成	世界各地の人の生活と環境	世界の諸地域	古代の日本	歴史のらえ方	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現		無解答率	
1	1	(1)		中1	○		○					76.9%		0.1%	0.0%		0.0%	赤道の位置を世界地図上で正しく理解しているか。	
2		(2)		中1		○	○						78.8%	0.1%		0.0%	0.0%	正距方位図の特徴について判断できるか。	
3		(3)		中1	○		○					53.2%		0.3%	0.0%		0.0%	時差の求め方について、理解しているか。	
4		(4)		中1	○		○					64.0%		0.3%	0.0%		0.0%	日本と同緯度、同経度にある国の首都を正しく理解しているか。	
5	2	(1)		中1	○			○				84.7%		0.2%	0.0%		0.0%	気候帯の特色と分布を理解しているか。	
6		(2)		中1	○			○				61.0%		0.3%	0.0%		0.0%	寒帯で暮らす人々の生活の様子を理解しているか。	
0		(3)		中1		○		○					70.1%	2.3%		0.0%	0.0%	雨温図から熱帯地方の建物の特徴を読み取ることができるか。	
8		(4)		中1		○		○					41.2%	5.4%		0.0%	0.0%	イスラム教の特徴について説明できるか。	
9	3	(1)		中1	○				○			63.7%		0.2%	0.0%		0.0%	ヨーロッパの自然環境について理解しているか。	
10		(2)		中1	○				○			82.2%		0.2%	0.0%		0.0%	ヨーロッパ統合による人々の生活の変化について理解しているか。	
11		(3)		中1		○			○				46.7%	8.5%		0.0%	0.0%	ヨーロッパに流入する外国人労働者の資料を読み取り、ヨーロッパ内外から移住する労働者がドイツ、フランスなどに多く集まっていることを説明できるか。	
12		(4)		中1	○				○				51.4%		5.7%	0.0%		0.0%	西アジアに石油が多く分布していることを理解しているか。
13		(5)		中1	○				○				43.7%		10.8%	0.0%		0.0%	東南アジアの地域連合の名称を理解しているか。
14		(6)		中1		○			○					72.7%	5.1%		0.0%	0.0%	工業化が進み、輸出品が米や原油などの第一次産品から機械類などの第二次産品に変化していることを読み取ることができるか。
15	4	(1)		中1	○					○			65.6%		0.4%	0.0%		0.0%	古代文明の位置とそれぞれの特色について理解しているか。
16		(2)		中1	○					○			85.5%		4.7%	0.0%		0.0%	2世紀ごろの世界の東西交流であるシルクロードについて理解しているか。
17		(3)		小6 中1	○					○			59.8%		1.0%	0.0%		0.0%	縄文時代の思想を反映している土偶を理解しているか。
18		(4)		小6 中1		○				○			82.8%		3.4%		0.0%	0.0%	弥生時代における農耕文化の広まりと社会の変化について資料を考察し、説明できるか。
19		(5)		小6 中1	○					○			84.1%		4.0%	0.0%		0.0%	我が国に多く見られる古墳の名称を理解しているか。
20	5	(1)		中1		○				○			90.5%	0.5%		0.0%	0.0%	十七条の憲法を、正しく読み取ることができるか。	
21		(2)		中1	○					○			75.5%		0.6%	0.0%		0.0%	7世紀半ばの東アジアの様子について理解しているか。
22		(3)		中1		○				○			87.3%		4.7%		0.0%	0.0%	奈良時代の農民の生活について、資料を基に説明できるか。
23		(4)		小6 中1		○				○			77.1%		8.0%		0.0%	0.0%	摂関政治の特徴について説明できるか。
24		(5)		中1	○					○			64.6%		0.8%	0.0%		0.0%	各時代の建造物を写真から判断できるか。
25	6	(1)		中1	○					○			77.4%		1.2%	0.0%		0.0%	世紀の表し方を理解しているか。
26		(2)		中1	○					○			63.9%		8.0%	0.0%		0.0%	時代を区分する表し方を理解しているか。
27		(3)		小6	○					○			93.6%		0.5%	0.0%		0.0%	鹿児島出身の人物が行ったことについて理解しているか。
計				問題数	18	9	4	4	6	10	3	△			△				
				出題割合	66.7%	33.3%	14.8%	14.8%	22.2%	11.1%	37.1%								
										69.5%	71.9%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%				
										70.3%			0.0%						

(3) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	82.8%	69.5%	67.6%
	全体	74.2%	71.9%	65.2%
		79.9%	70.3%	66.8%



- 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は67.6%であり、地理では、時差を求める問題が54.2%、歴史では、江戸幕府による政治改革を古い順に並びかえる問題が48.5%と低い。生徒が時差の概念や時代の流れをイメージできるよう丁寧に説明し、演習を繰り返し、苦手意識を払拭したい。また、政治改革の特色を比較させて、その違いを説明させたりするなど、授業での工夫が必要である。
- 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は65.2%である。地理では、発電所の分布から立地条件を説明する問題が40.5%、歴史では、豊臣秀吉が行った刀狩及び太閤検地の目的等を説明する問題が49.6%と低い。これらの問題は、設問そのものをめあてとして設定し、1時間の授業の中で取り扱うことが可能である。

(4) 中2各設問の分類と平均通過率

社会(中学校第2学年)

設問	設問			出題学年	問題内容別		内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図	
	大問	中間	小問		基礎・基本	思考・表現	日本の地域構成	日本の地域的特色	日本の諸地域	近世の日本	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率		
1	1	(1)		中2	○		○					70.8%		0.2%	0.0%		0.0%	日本と同緯度、同経度にある国の首都を理解しているか。
2		(2)		中2	○		○					54.2%		0.3%	0.0%		0.0%	時差の求め方について、理解しているか。
3		(3)		小5 小6 中2	○		○					40.2%		6.5%	0.0%		0.0%	既習事項である地域の様々な特色をもとに、都道府県の名称と位置を理解しているか。
4		(4)		小5 中2	○		○					76.9%		8.4%	0.0%		0.0%	北方領土の位置と名称を理解しているか。
5		(5)		中2			思考3	○					76.5%	8.2%		0.0%	0.0%	排他的経済水域を失うことで、日本の資源が得られなくなることを説明できるか。
6	2	(1)		中2	○		○					64.3%		7.9%	0.0%		0.0%	世界の造山帯について理解しているか。
7		(2)		中2			思考1	○				54.7%	4.9%		0.0%	0.0%	雨温図の特色や地形図から、高松市の気候の特徴や土地利用について説明できるか。	
8		(3)		中2	○		○					69.6%		0.9%	0.0%		0.0%	鉱産資源の主な産出地を理解しているか。
9		(4)		中2			思考2	○				40.5%	3.7%		0.0%	0.0%	日本の発電所の分布について、発電所の立地条件から説明できるか。	
10		(5)		中2			思考2	○				88.3%	0.6%		0.0%	0.0%	日本の貿易品目の変化を読み取ることができるか。	
11	3	(1)		中2	○				○			76.9%		0.4%	0.0%		0.0%	近畿地方の人々の生活について、歴史的な背景から理解しているか。
12		(2)		中2	○				○			70.0%		8.5%	0.0%		0.0%	過疎の状況や過疎化が進んでいる地域について理解しているか。
13		(3)		中2			思考3			○		52.5%	7.4%		0.0%	0.0%	宮崎県では、ビニルハウスなどの施設を利用した野菜の促成栽培が行われていることを説明できるか。	
14		(4)		中2	○					○		70.3%		1.2%	0.0%		0.0%	中京工業地帯の特色について理解しているか。
15	4	(1)		中2	○					○		69.3%		14.1%	0.0%		0.0%	中世ヨーロッパの文化の動きについて理解しているか。
16		(2)		中2	○					○		67.0%		0.8%	0.0%		0.0%	新航路の開拓やその目的について理解しているか。
17		(3)		中2			思考3				○		89.7%	1.8%		0.0%	0.0%	鉄砲の伝来が戦国大名の戦い方に大きな影響を与えたことを説明できるか。
18		(4)		中2			思考3				○		49.6%	10.3%		0.0%	0.0%	豊臣秀吉が行った刀狩や太閤検地、その目的等について説明できるか。
19		(5)		中2	○						○		57.8%		0.6%	0.0%		0.0%
20	5	(1)		中2	○						○	81.6%		4.2%	0.0%		0.0%	江戸幕府を開いた人物について理解しているか。
21		(2)		中2	○						○	76.1%		1.1%	0.0%		0.0%	鎖国以前の江戸幕府の外交関係について理解しているか。
22		(3)		中2			思考3				○		68.5%	9.4%		0.0%	0.0%	江戸幕府による外様大名の配置の特色や参勤交代の負担について説明できるか。
23		(4)		中2	○						○		77.9%		1.6%	0.0%		0.0%
24	6	(1)		中2	○						○	71.8%		0.7%	0.0%		0.0%	当時新しくつくられた農具により、作業の能率や生産力が向上したことを理解しているか。
25		(2)		中2	○						○	48.5%		1.0%	0.0%		0.0%	江戸幕府による政治改革の特徴について理解しているか。
26		(3)		中2			思考3				○		66.7%	11.3%		0.0%	0.0%	円形の署名を作成した理由を説明できるか。
27		(4)		中2	○						○		73.8%		0.9%	0.0%		0.0%
計				問題数	18	9	5	5	4	13								
				出題割合	66.7%	33.3%	18.5%	18.5%	14.8%	48.1%								
												67.6%	65.2%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
												66.8%				0.0%		

(5) 社会（授業改善の視点）【小中共通】

ア 出題について

全学年、難易度は例年並みで、当該学年で学習する内容を、基礎的・基本的な問題と思考・表現に関する問題を約2:1の割合で出題。

- ・ 小5は、日本の各地の気候の特色を雨温図の特徴から説明する問題や、日本の食料問題について表や資料から読み取って説明する問題等を出題。
- ・ 中1は、写真や雨温図を基に気候の特色を説明する問題、緯度・経度を活用し、時差等を求める問題、郷土の人物に関する問題等を出題。
- ・ 中2は、促成栽培や過疎など日本の地理に関する問題、江戸時代の大名の配置や参勤交代について説明する問題や江戸時代の政治改革の特徴等を出題。

※ 今年度は中学校において、時差に関する問題を共通して出題したが、来年度以降は、各学年における履修内容を出題予定（時差は中1で履修）

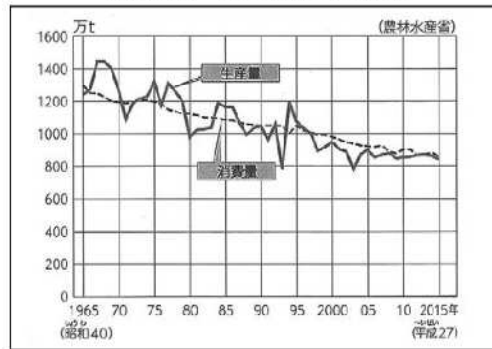
イ 特徴ある問題から【小学校】 3 (2)

- (2) 写真1は、米づくりをする農家の人が、インターネットを使って米づくりの工夫や生産の様子を公開している様子です。農家の人は、なぜこのようなことをするのでしょうか。資料2を参考にして、その理由を、下の□の中にかきましょう。

(写真1) ある農家のウェブサイト



(資料2) 米の消費量の変化



平均通過率
58.3%

グラフを扱うときは、グラフが示す特徴（急激に変化している部分など）を提示し、そのようになった原因、理由、背景等を考えさせたい。

【解答】

米の消費量が年々少なくなっているため、お米の良さを伝え、（自分の作っている米を）たくさん買ってもらえるようにするため。

ウ 授業改善のポイント【小学校】

「グラフの見方（読み取り方）」⇒「表題の3点・単位の2点・変化の5点」を意識させ、
変化の5点に焦点を当てた授業の実践を行いたい。

○表題の3点 … 表題・年度・出典

○単位の2点 … 縦軸（単位）・横軸（単位）

○変化の5点 … ア 段々上がる・イ 段々下がる・ウ 突然上がる・エ 突然下がる・オ 変化なし
◎ウ、エには特に注意

【指導例】

- 1 「漁業別の生産量の変化」 → 沖合漁業増加，遠洋漁業減少
【令和2年度 鹿児島学習定着度調査(小5)4 (3) に出題】
- 2 「米の消費量と生産量の変化」 → 消費量，生産量，作付面積の減少
【我が国の農業における食料生産について(小5の教科書)】

エ 特徴ある問題から【中学校】 中1 1 (3), 中2 1 (2)

(2) 地図1中の東京が1月1日の午前0時のとき、ニューヨークは何月何日の何時か、次のア～エから一つを選び、記号で答えよ。ただし、経度15度で1時間の時差が生じ、日本の標準時子午線は兵庫県明石市を通る東経135度、アメリカのニューヨークは西経75度とする。

- | | |
|----------------|---------------|
| ア 12月31日の午前10時 | イ 12月31日の午後2時 |
| ウ 1月1日の午前10時 | エ 1月1日の午後2時 |

ア

【中1】 平均通過率 53.2%

【中2】 平均通過率 54.2%

生徒がイメージできるようにしたい。地球儀や掛け地図を使ったり、映像を見せたり、ICT(ソフト等)を活用するなど、授業の工夫を図りたい。定着を図るために、理解させた後は、演習問題に取り組むことが必須である。

オ 授業改善のポイント【中学校】

- 「時差に関する問題」⇒
- 1 時差が生じる原因を考えさせる。
 - 2 生徒がイメージできるようにし、丁寧な説明を行う。
 - 3 問題演習を行う。

【参考】

「緯線が横で、経線が縦」

緯線	・・・横の線	赤道を中心に	北に北緯	南に南緯	※90度
経線	・・・縦の線	本初子午線を中心に	東に東経	西に西経	※180度

「経度15度＝1時間の時差」

① 1日(24時間)で地球は一回転(360度)するので、1時間で地球は $360 \div 24 = 15$ 度回転する。そのため、経度が15度ずれると1時間の時差が生じる。

『東経と東経』『西経と西経』の時差→ 『経度の差 \div 15』
『東経と西経』の時差→ 『経度の和 \div 15』

- ① 東京(東経135度)とニューヨーク(西経75度)の経度差は、 $135 + 75 = 210$ 度となる。
- ② 東京とニューヨークの時差は、 $210 \div 15 = 14$ となり、14時間となる。

② 日付変更線を越えるときは注意する。
東経180度(日付変更線)に近い国ほど時間は進んでいる。

【例】新年を迎える順番 1 日本, 2 イギリス, 3 アメリカ

- ③ 東京はニューヨークよりも時間が進んでいる。
- ④ 東京の時刻(1月1日午前0時)より14時間前に戻すと・・・12月31日の午前10時

カ 授業改善のポイント【小中共通】

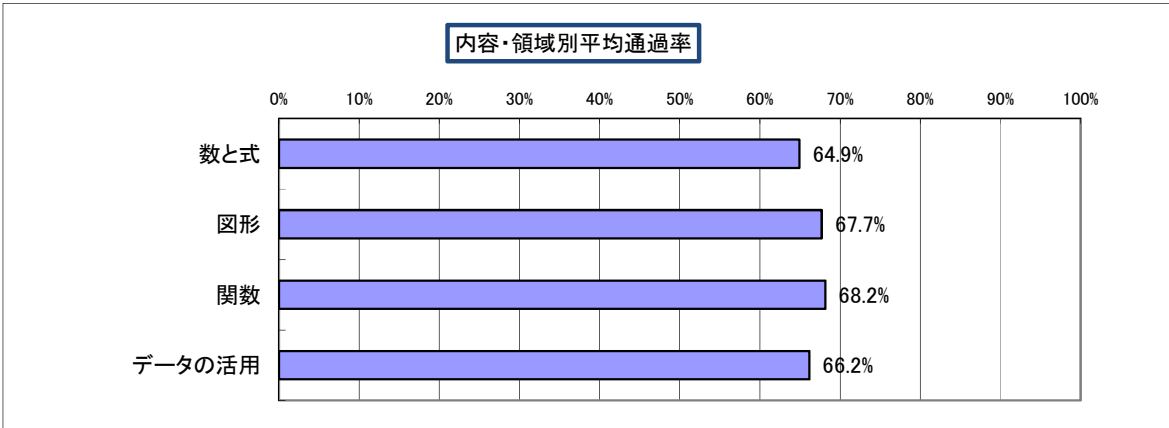
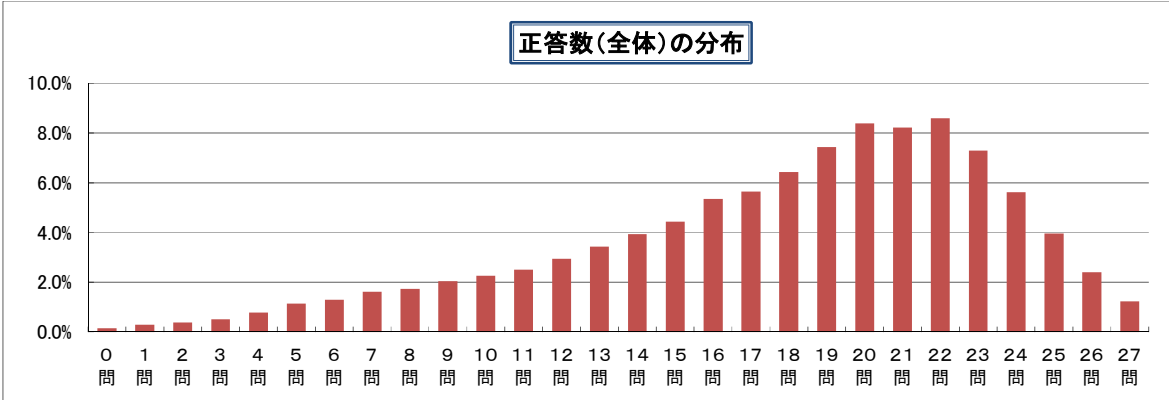
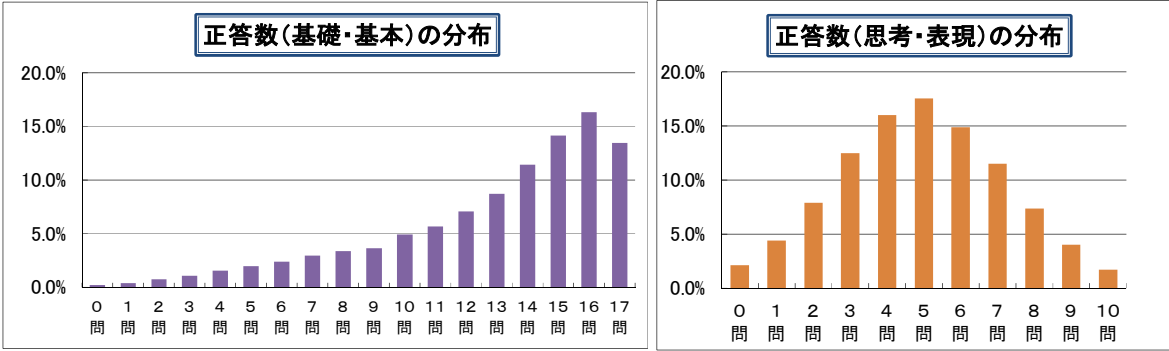
学習指導要領改訂により、社会的事象そのものが学習内容となっている社会科においては、社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動を取り入れた授業実践が期待されている。

授業では、社会的な見方・考え方を働かせ、ペア・グループ活動などを取り入れながら多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を説明したり論述したりできるようにすることが期待されている。

- 生きて働く知識の習得場面と思考力・判断力・表現力等の育成場面を、授業にバランスよく取り入れる。考えさせる場面を必ず入れ、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。
- ICTを積極的かつ効果的に活用する。また、新聞記事等を活用して、タイムリーな話題を提供し、政治等に関心をもたせる。あわせて、自分たちの住んでいる郷土についても関心をもたせる工夫をする。
- 定期的に復習する場面を取り入れる。小テスト等で重要語句などの基礎・基本の定着を図る。また、かごしま学力向上支援Webシステム上の評価問題等で思考力・表現力の育成を図る。

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	基礎・基本	77.2%	75.8%	76.9%
	思考・表現	57.4%	49.3%	56.8%
	全体	70.6%	66.0%	70.2%



- 「基礎・基本」の平均通過率は75.8%である。分配法則を使い同類項をまとめる問題が67.1%、式の値の問題が66.3%、不等式を立式する問題が68.1%、三角柱の体積を求める問題が67.0%、規則性を理解し条件に合った長方形の面積を求める問題が41.9%であり、特に定着を図りたい問題である。
- 「思考・表現」の平均通過率は49.3%である。垂線となることを数学的に説明する問題が29.7%、2つの数量の差を文字式を用いて解決する問題が7.6%、2つの数量の差をグラフを用いて説明する問題が46.2%（無答率14.8%）、方程式や式の値等を用いて説明を完成させる問題が29.2%、代表値を用いて判断する問題が26.8%（無解答率13.2%）であり、課題となっている。
- 数量を文字式で表したり、値を代入したりすることを通して、文字式を活用した数量の感覚を伸ばしていくなど、知識・技能を活用することを大切にして、深い理解が図られるようにしたい。

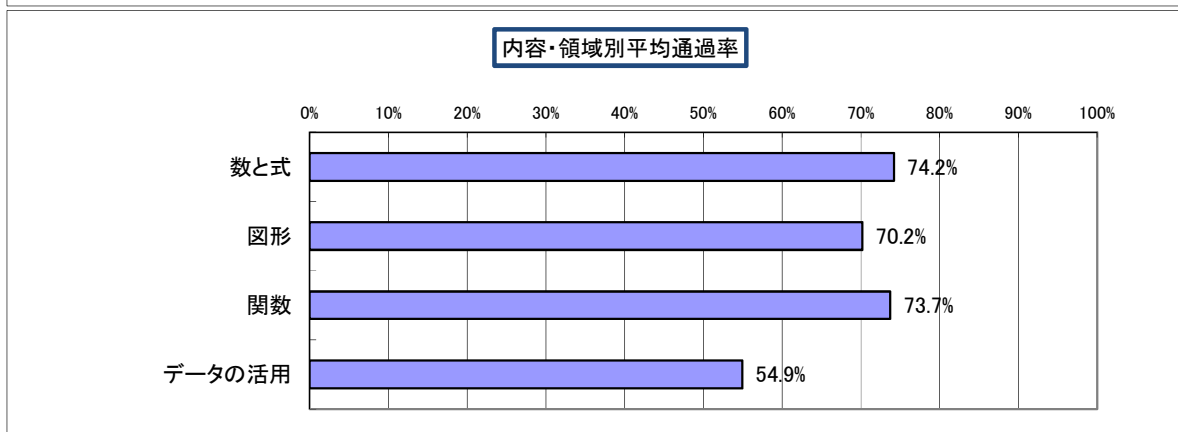
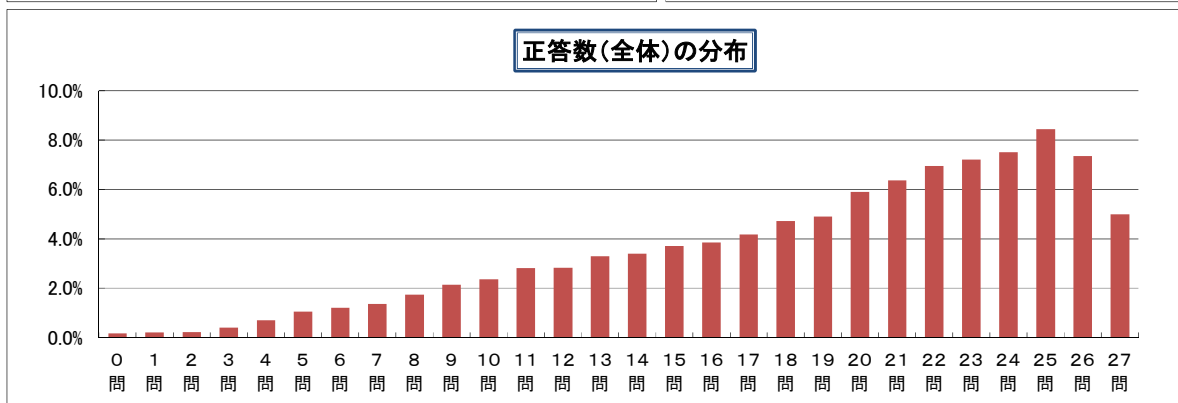
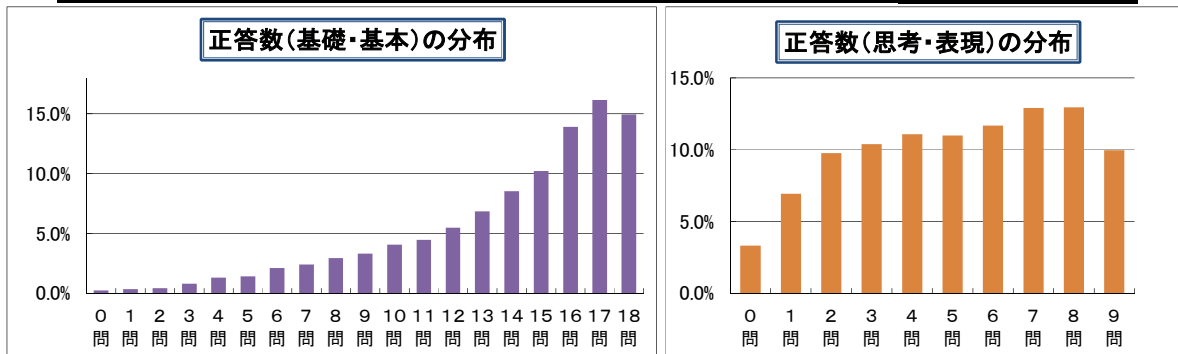
(2) 中1各設問の分類と平均通過率

数学(中学校第1学年)

	設問			出題 学年	問題内容別		内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図	
	大問	中問	小問		基礎・基本	思考・表現	数と式	図形	関数	データの活用	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率		
1			(1)	中1	○		○				93.6%		0.2%	0.0%		0.0%	正・負の数の加法の計算ができるか。	
2			(2)	中1	○		○				80.9%		0.4%	0.0%		0.0%	累乗の計算ができるか。	
3		1	(3)	中1	○		○				83.3%		1.0%	0.0%		0.0%	正・負の数の四則の混じった計算ができるか。	
4			(4)	中1	○		○				77.7%		3.2%	0.0%		0.0%	1次式と数の除法の計算ができるか。	
5			(5)	中1	○		○				67.1%		3.2%	0.0%		0.0%	分配法則を使い、同類項をまとめることができるか。	
6		2		中1	○		○				77.8%		0.4%	0.0%		0.0%	絶対値の意味を理解しているか。	
7		3		中1		○	○					83.9%	2.1%		0.0%	0.0%	正・負の数を利用して、平均値を求める式をつくることができるか。	
8		1		中1	○		○				80.3%		0.9%	0.0%		0.0%	数を素数の積で表すことができるか。	
9		2		中1	○		○				66.3%		2.7%	0.0%		0.0%	文字に数を代入し、式の値を求めることができるか。	
10		3		中1	○		○				81.1%		3.5%	0.0%		0.0%	1次方程式を解くことができるか。	
11		4		中1	○		○				68.1%		3.3%	0.0%		0.0%	具体的な事象から数量関係を捉え、不等式で表すことができるか。	
12		5		小6	○			○			69.1%		0.8%	0.0%		0.0%	グラフから、数量関係が比例の関係であることを見いだすことができるか。	
13		6		小6	○				○		82.7%		1.0%	0.0%		0.0%	「落ち」や「重なり」がないように図を完成させ、組み合わせを考えることができるか。	
14		1		小6	○			○			67.0%		2.4%	0.0%		0.0%	三角柱の体積を求めることができるか。	
15	3	2		小5		○		○				90.3%	1.8%		0.0%	0.0%	底面に着目し、頂点の数を求めることができるか。	
16		3		小5		○		○				75.8%	2.3%		0.0%	0.0%	面の数、頂点の数、辺の数の間の関係からきまりを見つけることができるか。	
17		1		中1	○			○			75.5%		0.7%	0.0%		0.0%	回転移動の性質を理解しているか。	
18		2		中1		○		○				29.7%	2.7%		0.0%	0.0%	角の二等分線の作図の説明や図を基にして、垂線となることの根拠を判断することができるか。	
19		1	(1)	中1	○		○				41.9%		2.2%	0.0%		0.0%	問題の指示された条件に従って、面積を求めることができるか。	
20		5	(2)	中1		○	○					35.2%	3.6%		0.0%	0.0%	規則性に気づき、文字式を用いて表現することができるか。	
21		2		中1		○	○					7.6%	7.4%		0.0%	0.0%	条件を変えることによって、新たな問題を文字式を使って解決できるか。	
22		1		小6	○				○		89.2%		2.6%	0.0%		0.0%	比例の関係を用いて数量を求めることができるか。	
23		6	2	小6		○			○			46.2%	14.8%		0.0%	0.0%	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか。	
24			3	中1		○	○					29.2%	5.6%		0.0%	0.0%	方程式やグラフを用いて、具体的な場面で活用することができるか。	
25		1		小6	○					○	87.4%		3.3%	0.0%		0.0%	ドットプロットと度数分布表を関連させて考えることができるか。	
26		7	2	小6		○						26.8%	13.2%		0.0%	0.0%	適切な代表値を選択し、判断することができるか。	
27			3	小6		○						67.7%	3.6%		0.0%	0.0%	度数分布表やドットプロットや度数分布表を読み取り、判断することができるか。	
計				問題数	17	10	15	5	3	4								
				出題割合	63.0%	37.0%	55.6%	18.5%	11.1%	14.8%								
										75.8%	49.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%			
										66.0%			0.0%					

(3) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	77.2%	75.8%	76.9%
	全体	57.4%	49.3%	56.8%
		70.6%	66.0%	70.2%



- 「基礎・基本」の平均通過率は76.9%である。等式の変形の問題が69.7%（無解答率7.7%）、連立方程式の問題が64.2%（無解答率8.0%）、作図の説明の問題が65.1%、範囲の問題が56.6%、最頻値の問題51.9%（無解答率11.5%）であり、特に定着を図りたい問題である。
- 「思考・表現」の平均通過率は、56.8%である。文字式による説明の問題が53.7%、数のきまりを予想する問題が46.6%（無解答率12.8%）、式で表された性質を形が変化する図形に適用する問題が54.8%、伴って変わる数量の求め方を説明する問題が51.6%（無解答率18.7%）、代表値を用いて判断する問題が66.8%、2つの度数分布多角形から主張の理由を説明する問題が44.5%（無解答率19.8%）であり、課題となっている。
- 式の計算から図形の説明に至るまで、文字式で表されていることの意味がしっかりと理解されるよう丁寧に取り扱い、式や表、グラフを用いて自らの考えを書いたり、伝えたりする取組を大切にしたい。また、データの活用で学んだ知識・技能を活用する場面を十分に取り入れていくことが必要である。

(4) 中2各設問の分類と平均通過率

数学(中学校第2学年)

設問	出題学年			問題内容別		内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図
	大問	中問	小問	基礎・基本	思考・表現	数と式	図形	関数	データの活用	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率	
1	1	(1)	中1	○		○				94.7%		0.1%	0.0%		0.0%	正・負の数の四則の混じった計算ができるか。
2		(2)	中2	○		○				83.9%		0.5%	0.0%		0.0%	多項式と多項式の減法ができるか。
3		(3)	中2	○		○				84.3%		0.5%	0.0%		0.0%	負の符号が付いた単項式の累乗の計算ができるか。
4		(4)	中2	○		○				91.9%		1.7%	0.0%		0.0%	単項式どうしの除法ができるか。
5	2		中2	○		○				74.6%		3.1%	0.0%		0.0%	文字に数を代入し、式の値を求めることができるか。
6			中2	○		○				69.7%		7.7%	0.0%		0.0%	等式の性質を用いて、等式を変形できるか。
7	2	1	中2	○		○				64.2%		8.0%	0.0%		0.0%	加減法や代入法を利用して、連立方程式を解くことができるか。
8		2	中2	○		○				92.2%		3.4%	0.0%		0.0%	数量の関係を捉え、2元1次方程式を立式できるか。
9	3	1	中1	○				○		88.7%		0.7%	0.0%		0.0%	表から比例の特徴を捉え、xの値に対応するyの値を求めることができるか。
10		2	中1	○				○		74.9%		0.4%	0.0%		0.0%	反比例のグラフの特徴を理解しているか。
11	4	1	中1	○				○		65.1%		0.4%	0.0%		0.0%	垂線の作図方法を理解しているか。
12		2	中1	○				○		64.8%		0.3%	0.0%		0.0%	円柱と円錐の体積の関係を理解しているか。
13		3	中2	○				○		67.0%		0.5%	0.0%		0.0%	多角形の内角の和の公式や多角形の外角の性質を使うことができるか。
14		4	中2	○				○		88.7%		1.2%	0.0%		0.0%	平行線の性質を用いて角度を求めることができるか。
15	5	1	中2		○	○					53.7%	1.0%		0.0%	0.0%	式から問題場面における考察の対象を捉えることができるか。
16		2	中2		○	○					60.2%	10.8%		0.0%	0.0%	予想された考えを、文字を利用して説明することができるか。
17		3	中2		○	○					46.6%	12.8%		0.0%	0.0%	発展的に考え、予想した事柄を説明することができるか。
18	6	1	中2	○				○		75.3%		4.3%	0.0%		0.0%	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているか。
19		2	中2		○	○					75.6%	0.7%		0.0%	0.0%	正しく証明を読み取り、式が示す根拠を答えることができるか。
20		3	中2		○	○					54.8%	0.6%		0.0%	0.0%	すでに示された課題解決の内容を、新たな課題に活用できるか。
21	7	1	中1	○				○		95.8%		1.3%	0.0%		0.0%	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるか。
22		2	中1		○			○			57.6%	1.1%		0.0%	0.0%	与えられた情報から、比例定数が表す意味を判断することができるか。
23		3	中1		○				○		51.6%	18.7%		0.0%	0.0%	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか。
24	8	1	中1	○					○	56.6%		6.3%	0.0%		0.0%	資料から範囲を求めることができるか。
25		2	中1		○				○		66.8%	1.5%		0.0%	0.0%	中央値を用いて資料の傾向をとらえ説明することができるか。
26		3	中1	○					○	51.9%		11.5%	0.0%		0.0%	度数分布表において、最頻値を求めることができるか。
27		4	中1		○				○		44.5%	19.8%		0.0%	0.0%	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるか。
計		問題数	18	9	11	7	5	4								
		出題割合	66.7%	33.3%	40.7%	25.9%	18.5%	14.8%								
									76.9%	56.8%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%		
									70.2%			0.0%				

(5) 数学（授業改善の視点）

ア 出題について

<中学校>

- ・ 基礎・基本，思考・表現の設問の数は，ほぼ例年どおりで出題。
- ・ 過去の鹿児島学習定着度調査や全国学力・学習状況調査の通過率の低い設問の類題を出題。
- ・ 文字式や表，グラフから言えることを説明する設問を出題。

イ 特徴ある問題から

<中学校>

中1：[6]の3，中2：[5]の1

指導事項：

中1：方程式やグラフを具体的な場面で活用することができる。

中2：式から問題場面における考察の対象を捉えることができる。

通過率：中1 29.2%

中2 53.7%

調査の結果から，文字式や式の値，方程式の意味を理解し，式の意味を読み取ったり，説明等に活用したりする問題に課題があることが分かった。

中1 調査における分配法則の計算，式の値，不等式の立式，中2 調査の等式の変形，連立方程式の計算など，文字式を用いた基本的な知識・技能についても十分とはいえない結果であった。

文字式を用いた説明については，規則性の問題だけでなく，図形の性質を説明する問題においても使用され，数学的な表現として重要な役割を担っていることから，生徒の理解の状況を丁寧に把握していく必要がある。

ウ 授業改善のポイント

<中学校>

上記で述べている，式を用いて表現する力だけでなく，表やグラフからいえる特徴等を用いて表現する力を身に付けていくために，次のようなことを授業で行うことが重要である。

○式，表，グラフがどのような意味をもっているのか，生徒に立ち止まって考えさせる。

（例えば，式が表す意味，数の対応，変化の仕方，座標の意味等）

○事象を観察させ，生徒個々が言えそうだと考えることを書かせ，主張させる。

中1

6 鈴木先生は，保健室用にたくさんの消毒液を購入するために購入先としてA社とB社を考えている。右の表は，A社とB社の消毒液の価格を表したものである。

鈴木先生は，下のグラフのように，A社とB社における消毒液の量と価格の関係を表した。次の1～3の各問いに答えなさい。

A社とB社の消毒液の価格

A社	100mLで150円
B社	50mLで100円

3 鈴木先生が消毒液を注文しようとするとき，A社は300円の送料がかかり，B社は送料が無料であることがわかった。太一さんが鈴木先生に，消毒液の量によってどちらの会社の代金が安くなるのかについて聞いたところ，次のように説明してくれた。①には当てはまる数を，②と③にはA社かB社のどちらかを書け。

鈴木先生の説明

まず，どちらの会社も代金が同じになる消毒液の量を考えてみましょう。
 A社の消毒液は1mLあたり1.5円，B社の消毒液は1mLあたり2円ですね。
 だから，消毒液をx mL買ったときにそれぞれの会社に支払う代金は，
 A社は， $(1.5x + 300)$ 円，B社は， $2x$ 円と表されます。これらの代金が等しいので，
 $1.5x + 300 = 2x$
 という方程式が成り立ちます。この方程式を解くと， $x =$ ① になります。
 つまり，① mLまでは②の方が安くて，① mLより多く注文するときは③の方が安くなりますね。

中2

5 太一さんと桜子さんは，連続する整数の和がどんな数になるかを調べています。このとき，次の1～3の各問いに答えなさい。

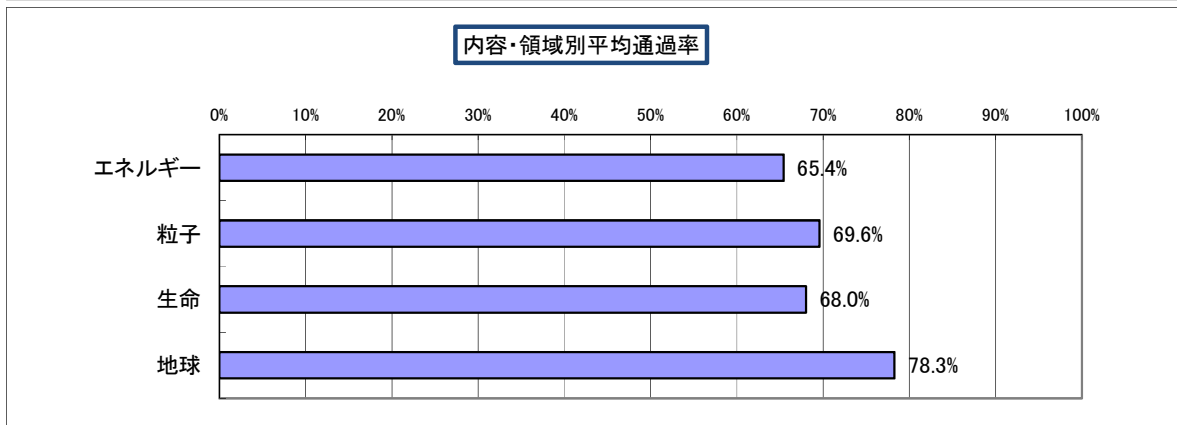
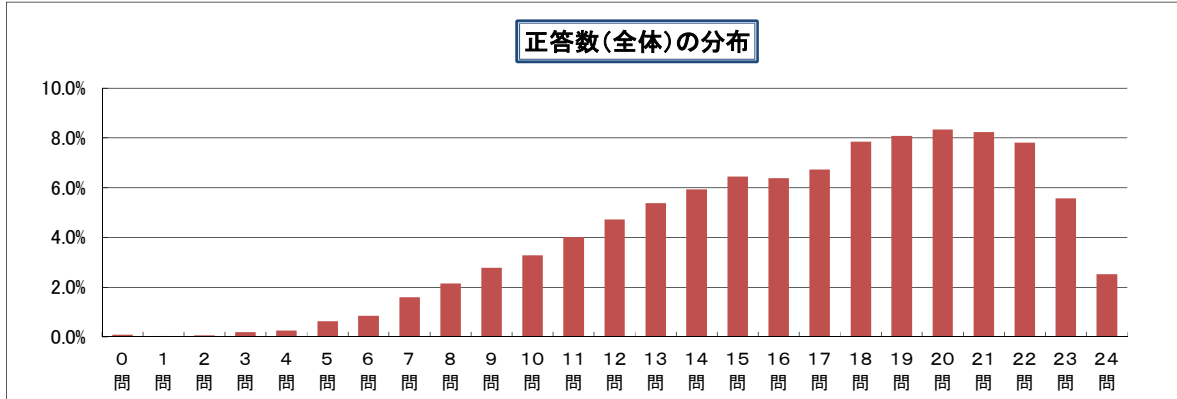
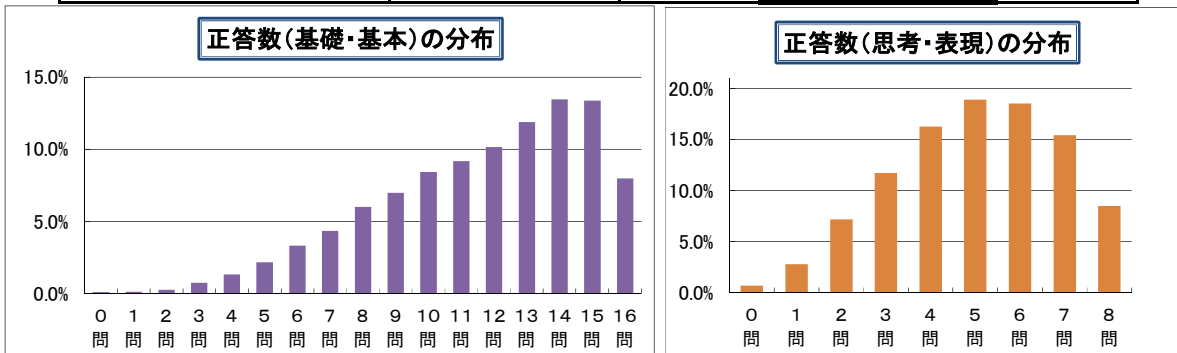
1 太一さんは，連続する3つの整数の和がどんな数になるかを調べて予想した。

太一さんの説明の下線部 $3(n+1)$ からいえることは，「連続する3つの整数の和は，3の倍数である。」のほかにも，どのようなことがあるか。次のア～エの中から1つ選び，記号で答えよ。

- ア 連続する3つの整数のうち最も小さい整数と最も大きい整数の和は，いつでも中央の整数の2倍である。
- イ 連続する3つの整数の和は，いつでも最も小さい整数の3倍である。
- ウ 連続する3つの整数の和は，いつでも中央の整数の3倍である。
- エ 連続する3つの整数の和は，いつでも最も大きい整数の3倍である。

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	79.0%	72.7%	77.6%
	全体	65.3%	62.9%	50.5%
		73.1%	69.4%	68.6%



- 「基礎・基本」の平均通過率は72.7%であり、やや課題が見られる。大問6(1)②の溶液の質量の問いが53.8%、大問8(2)メスシリンダーの読みは48.0%と通過率が低い。質量パーセント濃度に関する問いは、言葉による式を立式できるが、具体的な数値をグラフから読み取り立式することができない。また、メスシリンダーの読みに関する問いは、目分量での読み取る技能が不十分である。
- 「思考・表現」の平均通過率は62.9%である。大問4(2)の音の要素と波形の関連を言葉でまとめる問いが55.1%、大問7(3)の状態変化における質量保存の概念をモデル化する問いが38.8%と通過率が低くなっている。
- 内容・領域別の通過率のバランスは概ね良好で、地球領域は小学校からの出題であり、基本的な知識等が身に付いている。

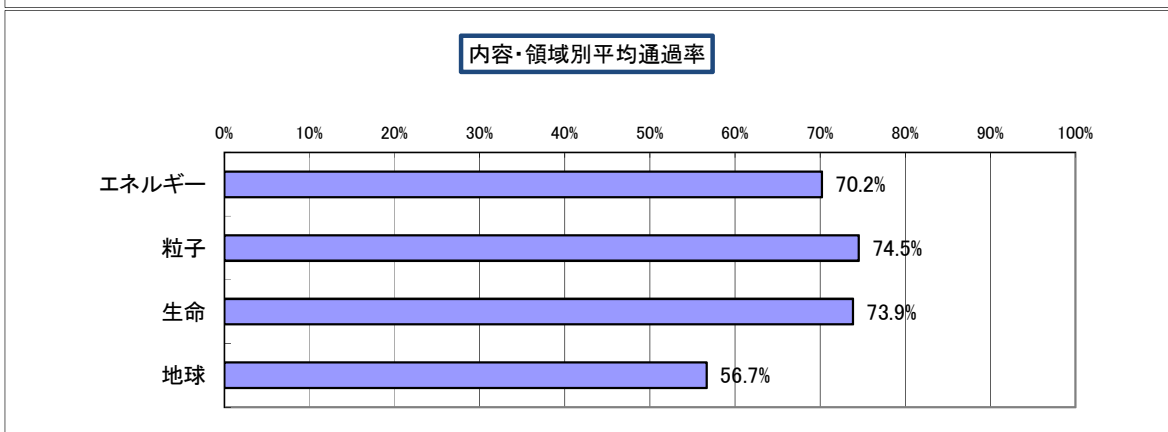
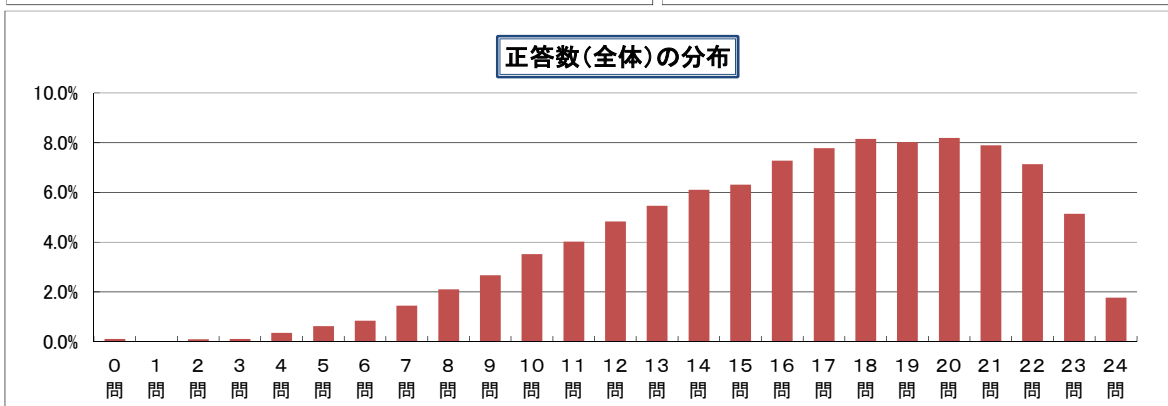
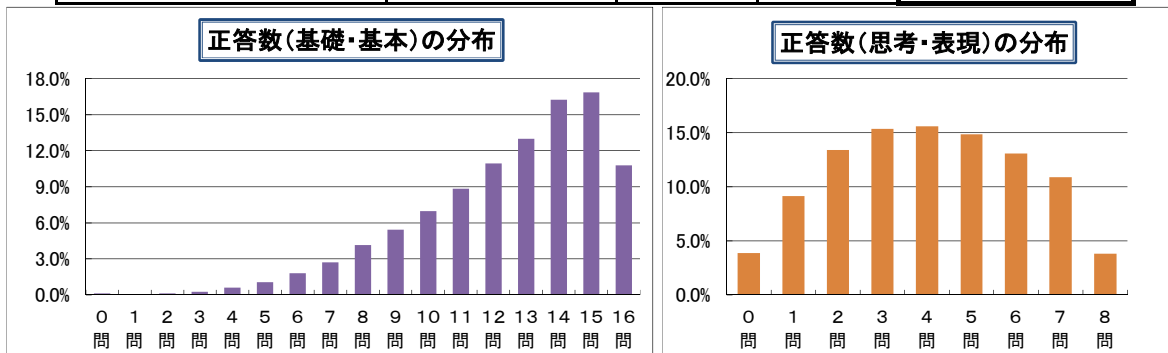
(2) 中1各設問の分類と平均通過率

理科(中学校第1学年)

設問	大問	中問	小問	出題学年	問題内容別			内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図		
					基礎・基本	思考・表現		エネルギー	粒子	生命	地球	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率			
1	1	1	中1	○						○			77.6%		0.1%	0.0%		0.0%	植物の成長に伴う変化について理解しているか。	
2		2	中1	○						○			62.6%		0.1%	0.0%		0.0%	被子植物と裸子植物の働きで共通する点を理解しているか。	
3		3	中1		○						○			69.9%	0.4%		0.0%	0.0%	裸子植物の花と種子の関係を理解し、種子のでき方を考えることができるか。	
4	2	1	中1	○						○			75.1%		3.1%	0.0%		0.0%	軟体動物の特徴を理解しているか。	
5		2	中1	○						○			58.1%		0.1%	0.0%		0.0%	魚類の特徴について理解しているか。	
6		3	中1	○							○			64.7%		0.2%	0.0%		0.0%	両生類と魚類を分類する観点を理解し、分類の観点を理解しているか。
7	3	1	中1	○						○			67.8%		0.2%	0.0%		0.0%	物質の境界面で起こる光の屈折を理解しているか。	
8		2	中1	○						○			78.1%		2.6%	0.0%		0.0%	全反射について理解しているか。	
9	4	1	中1	○						○			77.1%		0.2%	0.0%		0.0%	音を伝える物体について理解しているか。	
10		2	中1		○					○			55.1%	4.6%		0.0%	0.0%	おもりの数を増やす以外の音を高くする方法を考えたことができるか。		
11		3	中1		○					○			48.5%	0.4%		0.0%	0.0%	与えられた条件から音の高低や大小について波形と関連付けて考えることができるか。		
12	5	1	小5	○						○			96.7%		0.2%	0.0%		0.0%	流れる水の働きについて理解しているか。	
13		2	小6		○					○			61.2%	0.3%		0.0%	0.0%	流れる水の働き及び堆積物の粒の大きさにより地層のでき方を考えることができるか。		
14		3	小6	○						○			76.9%		0.3%	0.0%		0.0%	地層のでき方による構成物の特徴の違いを理解しているか。	
15	6	1①	中1	○						○			80.1%		0.8%	0.0%		0.0%	溶液は溶質と溶媒から成り立つことを理解しているか。	
16		1②	中1	○						○			53.8%		5.1%	0.0%		0.0%	溶液の質量は溶媒と溶質の和であることを理解しているか。	
17		2	中1		○					○			75.8%		0.8%		0.0%	0.0%	水温が上がったときの水溶液の様子を、粒子のモデルを使って表現することができるか。	
18	7	1	中1	○						○			89.9%		0.4%	0.0%		0.0%	ロウが状態変化するとき、体積は変化することを理解しているか。	
19		2	中1	○						○			75.8%		0.4%	0.0%		0.0%	ロウが状態変化するとき、質量は変化しないことを理解しているか。	
20		3	中1		○					○			38.8%	3.7%		0.0%	0.0%	固体から液体への状態変化のようすを、粒子のモデルで考えることができるか。		
21	8	1	中1	○						○			80.2%		0.4%	0.0%		0.0%	金属の特徴を理解しているか。	
22		2	中1	○						○			48.0%		1.6%	0.0%		0.0%	メスシリンダーの値を読み取り、物体の体積を求めることができるか。	
23		3	中1		○					○			74.8%	1.8%		0.0%	0.0%	質量と体積の値から密度を求め、金属を同定できるか。		
24		4	中1		○					○			78.6%	1.2%		0.0%	0.0%	密度の大小によって水に油が浮くことを体積と質量の関係を表したグラフを基に考えることができるか。		
計		問題数		16	8	5	10	6	3											
		出題割合		66.7%	33.3%	20.8%	41.7%	25.0%	12.5%											
												72.7%	62.9%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%			
												69.4%			0.0%					

(3) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	79.0%	72.7%	77.6%
	全体	65.3%	62.9%	50.5%
		73.1%	69.4%	68.6%



- 「基礎・基本」の平均通過率は77.6%であり、概ね知識は定着している。どの設問もほぼ7割以上の通過率だが、大問3(2)の等圧線の読みが27.6%の通過率で、無答率も4.0%となっており、基本的な天気図の見方に関する技能の定着が不十分である。
- 「思考・表現」の平均通過率は50.5%である。大問3(3)の高気圧、低気圧の風の吹き出し、吹き込みから風向を推測する問いが28.6%、大問7(3)のグラフ、表の数値から未反応のマグネシウムの質量を求める問いが通過率39.2%である。モデル図を参考に風向を推測したり、比例関係を利用して、物質の未反応量を算出したりに課題がある。
- 内容・領域別の通過率は、地球領域以外の3領域では概ね良好であるが、地球領域の気象に関する単元に課題がある。

(4) 中2各設問の分類と平均通過率

理科(中学校第2学年)

設問	出題学年			問題内容別		内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図	
	大問	中間	小問	基礎・基本	思考・表現	エネルギー	粒子	生命	地球	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率		
1	1		1	中2	○			○		77.8%		0.0%	0.0%		0.0%	道管の配置を立体的に理解しているか。	
2			2	中2	○			○		70.8%		0.0%	0.0%		0.0%	道管の名称を理解しているか。	
3			3	中1 中2	○			○		93.0%		0.0%	0.0%		0.0%	顕微鏡のしくみを理解しているか。	
4			4	中2		○			○		43.5%	0.0%		0.0%	0.0%	植物内の水の移動について蒸散と吸水を関係付けて考えることができるか。	
5	2		1	中2	○			○		70.9%		0.3%	0.0%		0.0%	ペネジクト液の反応を理解しているか。	
6			2	中2	○			○		83.1%		0.1%	0.0%		0.0%	だ液に含まれる消化酵素を理解しているか。	
7			3	中2	○			○		78.1%		0.1%	0.0%		0.0%	デンプンはブドウ糖に分解されて体内に吸収されることを理解しているか。	
8	3		1	中2	○				○	76.2%		0.2%	0.0%		0.0%	前線の記号を理解しているか。	
9			2	中2	○				○	27.6%		4.0%	0.0%		0.0%	天気図上の等圧線を正しく読み取ることができるか。	
10			3	中2		○			○		28.6%	0.3%		0.0%	0.0%	高気圧、低気圧と風の吹き方との関係を正しく考えることができるか。	
11			4	中2		○			○		53.7%	0.3%		0.0%	0.0%	高気圧、低気圧、前線の移動から、天気の変り変わりを推測することができるか。	
12	4		1	中1	○				○	91.7%		0.3%	0.0%		0.0%	基本的に地層は下の方が古いことを理解しているか。	
13			2	中1		○			○	79.0%	3.0%		0.0%	0.0%	各地点の地層の重なり方を見て、どの標高に何が堆積しているかを推定することができるか。		
14			3	中1		○			○	39.8%	3.2%		0.0%	0.0%	中に含まれている粒の形から堆積岩を見分けることができるか。		
15	5		1	中1	○		○			93.9%		1.6%	0.0%		0.0%	1つの物体にはたらく2力が釣り合う条件を理解しているか。	
16			2	中1	○		○			69.5%		0.3%	0.0%		0.0%	1つの物体にはたらく2力が釣り合う条件を理解しているか。	
17			3	中1		○	○				47.3%	4.9%		0.0%	0.0%	物体にはたらく垂直抗力を、力の矢印を使って図示することができるか。	
18	6		1	中2	○			○		83.4%		3.4%	0.0%		0.0%	安全に配慮した正しい実験操作とその方法を理解しているか。	
19			2	中2	○			○		91.6%		0.3%	0.0%		0.0%	塩化コバルト紙の性質を理解しているか。	
20			3	中2	○			○		82.3%		0.3%	0.0%		0.0%	フェノールフタレイン溶液の色の変化から、物質の性質が変化したことを理解しているか。	
21			4	中2	○			○		64.8%		7.3%	0.0%		0.0%	化学変化「分解」の意味を理解しているか。	
22	7		1	中2	○			○		87.5%		2.9%	0.0%		0.0%	実験データを使い、結びついた酸素の質量を計算することができるか。	
23			2	中2		○		○			73.0%	2.2%		0.0%	0.0%	分子を理解し、酸素分子をモデルで表すことができるか。	
24			3	中2		○		○			39.2%	4.8%		0.0%	0.0%	グラフをもとに、酸素と結びついていないマグネシウムの質量を求めることができるか。	
計		問題数			16	8	3	7	7								
		出題割合			66.7%	33.3%	12.5%	29.2%	29.2%								
										77.6%	50.5%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%		
													0.0%				

(5) 理科（授業改善の視点）【小中共通】

ア 出題について

- ・ 全学年，基礎的・基本的な問題を中心に，例年並みの「思考・表現」に関する問題も出題。
- ・ 小5は，大問6で日常的に見られる事象について，理科的な見方・考え方を発揮させる場面設定を行い，学習した各単元の内容を活用して解答する問題を出題。
- ・ 中1は，小学校の内容から大問5で地層のでき方に関する問題，中1の内容から，大問6，7で実験結果から粒子モデルを推測する問題を出題。
- ・ 中2は，中1の内容から，大問4でかぎ層を基に柱状図を作成する問題，中2の内容から大問3で気象，大問7で化学変化の未反応分の物質の質量を求める問題を出題。

イ 特徴ある問題から（小学校） 小5 6

6 太郎さんたちは，5月に鹿児島県のA市に1泊2日で宿泊学習に行きました。次の各問いに答えましょう。

宿泊学習 1日目 夜

太郎： 明日の活動も楽しみだね。

正子： そうだね。
明日の朝，日の出を見たいね。

太郎： 太陽は，（ ① ）から出て，（ ② ）
を通り，（ ③ ）に少しずついくから，
（ ① ）の空を見るといいね。



(3) 会話文中の①～③には，どの方位が入るでしょうか。次のア～エの組み合わせのうち最も適切なものを1つ選び，記号を に書きましょう。

- ア ①西 ②北 ③東
イ ①西 ②南 ③東
ウ ①東 ②北 ③西
エ ①東 ②南 ③西

エ

平均通過率
56.3%

宿泊学習 2日目

正子： 朝食の牛にゅう，おいしそうだね。

太郎： あれっ，冷たい牛にゅうが入ったびんの外側に水てきがついているよ。どうしてかな。

正子： 本当だね。びんの外側に水てきがついたのは，（ ④ ）からだね。



(4) 会話文中の（ ④ ）に入る言葉を，「空気中」「水じょう気」という言葉を2つとも使って書きましょう。

空気中の水じょう気が冷やされて，水にもどった

平均通過率
49.8%

◇ 次の二点を意識して日々の指導を！

- ① 教師自身が日常的に見られる事象等について，問いかけを意図的に行う。
- ② 「同じです。いいと思います。」で終わらせず，なぜ，そう考えたのかなど，自分と他者の意見を比較しながら考えを深める場面を大切にする。

※ 児童は日常的に理科の見方・考え方を発揮しながら，協働して課題解決できるようになる。

中1 [7] 下の【手順】のように、ロウを状態変化させる実験を行った。次の各問いに答えなさい。

【手順】

①

ビーカーに入れたロウを加熱して液体にし、液面の高さに印をつける。

②

ビーカーごと液体のロウの質量をはかる。

③

ビーカーを冷やして、ロウを固体にする。

④

手順②のように、右の皿の分銅は置いた状態のまま、ビーカーごと、上皿でんびんで質量をはかる。
ビーカーごと固体のロウの質量をはかる。

※ 微視的な事象について、実験結果を基に、質量や体積等を踏まえ、粒子の数に着目して適切なモデルを選択できる(自分で描く)力を育成する。(大問6とも関連)

(3) 固体のロウが、液体のロウに変化したときの様子を、粒子のモデルで考えた。固体のロウを図2のモデルとしたときに、液体の粒子のモデルはどのように表されるか。最も適切なものを次のア～オから1つ選び、記号で答えよ。

また、それを選んだ理由について簡単に説明せよ。ただし、図2及びア～オの粒子1粒は同じ質量を持ち、粒の大きさは体積の大きさを示すものとする。

図2

固体の粒子のモデル

ア

イ

ウ

※ ウは図2と同じ図である。

エ

オ

平均通過率 38.8%

中2 [7] 図1のように、ステンレスの皿の上にマグネシウムの粉末をうすく広げて熱し、空気中の酸素と反応させたところ、酸化マグネシウムに変化しました。

(3) 表2は、A～Eの5つの試料は別のX班の実験結果を表している。また、図3は表1の実験結果を使って、「マグネシウムの質量」と「結びついた酸素の質量」の関係を表したものである。

次の文は、実験に参加した太郎さんと次郎さんが、X班の実験結果について考察しているときの会話である。会話文中の(ア)、(イ)に当てはまる値を答えよ。

なお、下の会話文中の「グラフ」は図3のグラフを示している。

	X班
マグネシウムの質量 [g]	1.50
酸化マグネシウムの質量 [g]	2.10
結びついた酸素の質量 [g]	0.60

図3

マグネシウムの質量と結びついた酸素の質量の関係

太郎: X班の結果はグラフから予想できる値と比べて、質量の増加が小さいね。

次郎: そうだね。グラフから予測すると酸素が(ア)g不足していると思うよ。

太郎: 酸素が不足しているということは、加熱後の物質の中には、まだ酸素と結びついていない単体のマグネシウムが残っているはずだね。

次郎: グラフから考えると、単体のマグネシウムは(イ)g残っていると思われるよ。

ア: 0.40 イ: 0.60

平均通過率 39.2%

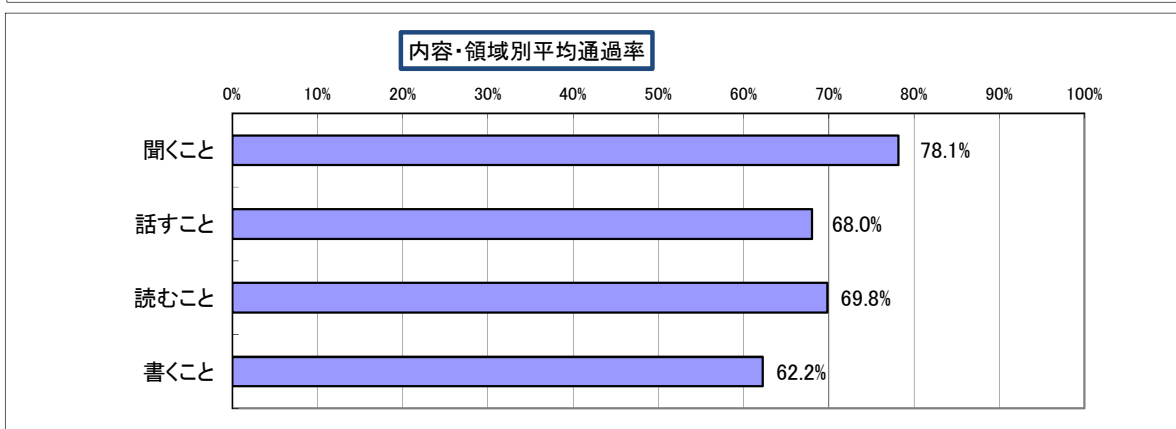
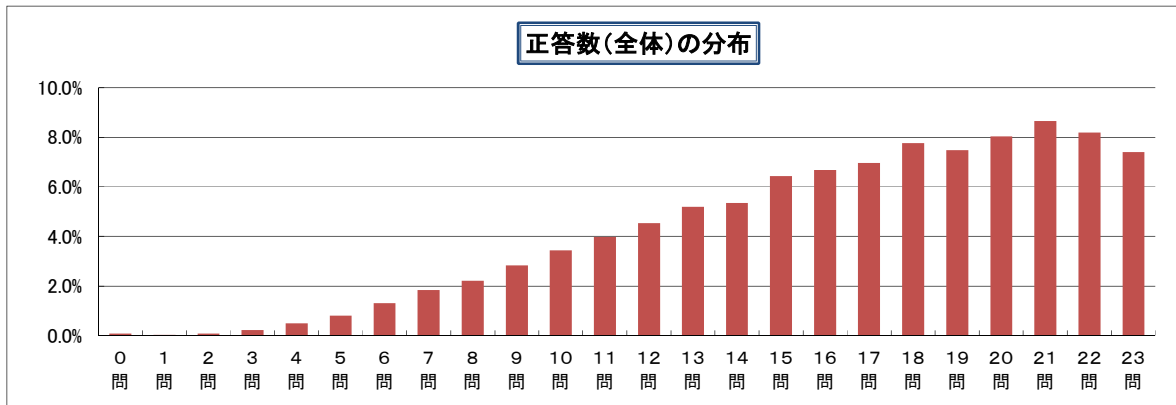
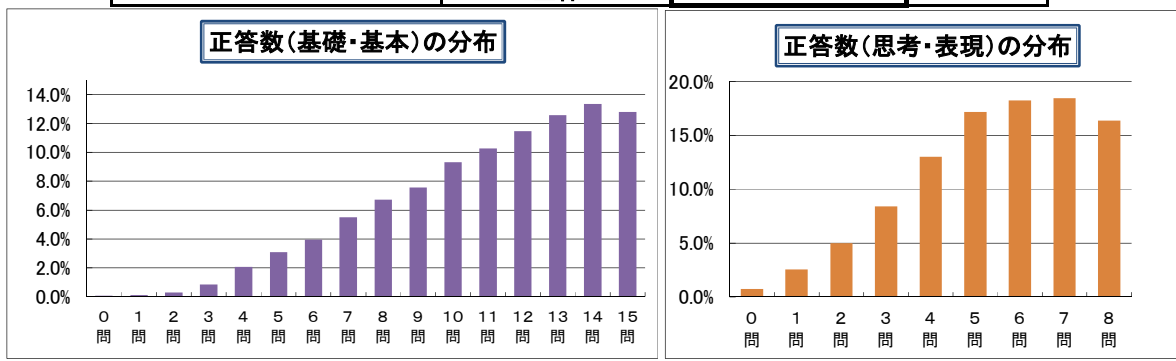
※ 問題中にグラフがなくても、表に示される数値から自分でグラフ化(変化の傾向をつかむ)し、計算とグラフを併用し、解答していく力を育成する。

エ 授業改善のポイント【小中共通】

- 小5の太陽の通り道の方位を答える問題は56.3%, 中2の等圧線から気圧を読み取る問題は27.6%, 高気圧や低気圧の風の吹き出し、吹き込みに関する問題は28.6%と通過率が低い。特に、自然観察等が関係する単元は一度学習して終わりではなく、単元での学習終了後、学習した内容やそれに関する事象に興味・関心を持続、向上させる工夫を行う。(授業開始前や終了後にICTを活用した情報提供や児童生徒への問い掛けを意図的、計画的に行うことが効果的である。)
- 系統性(単元間、小・中のつながり)を意識した指導の充実を図る。そのために、教師自ら、他校種、他学年の鹿児島学習定着度調査の問題を解いてみるのが大切である。(小5: 大問2, 3, 5, 6(3), (4), 中1: 大問5, 中2: 大問4, 5は、前年度以前の指導内容)
- 小学校では「問題解決の過程」、中学校では「探究の過程」を踏まえた授業を展開する。特に、自分の考えを再構築する過程を大切にす。また、単元によって、自分の考えを文字だけでなく、図やモデル、グラフ等を使って整理する場面も十分に確保することが重要である。

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率	基礎・基本	中1	中2
	思考・表現	73.2%	63.0%
	全体	68.2%	56.4%
		71.5%	60.4%



- 「基礎・基本」については、平均通過率が目標の80%を越えたのは15問中4問であり、昨年度より2問増えた。また、昨年度よりも通過率が改善した問題が10問であり、改善が図られつつある。一方で、語順整序の問題は昨年度よりも通過率が下がっており、特に be 動詞を使った否定文の語順を答える問題は10ポイント以上低くなっている。
- 「思考・表現」については、平均通過率が目標の50%を越えたのは8問中7問であった。「聞くこと」の領域は、まとまりのある英語を聞いて必要な情報を捉える新規問題の平均通過率が90%を越えるなど、目的に応じて英語を聞いて理解する力は身に付いていると思われる。一方、昨年度と比較して平均通過率が低くなった課題としては、ポスターの内容を表す英文を選択する問題と、日常的な話題について読んだことから概要を把握し、自分の考えを書く問題がいずれも20ポイント以上低くなっていることが挙げられる。

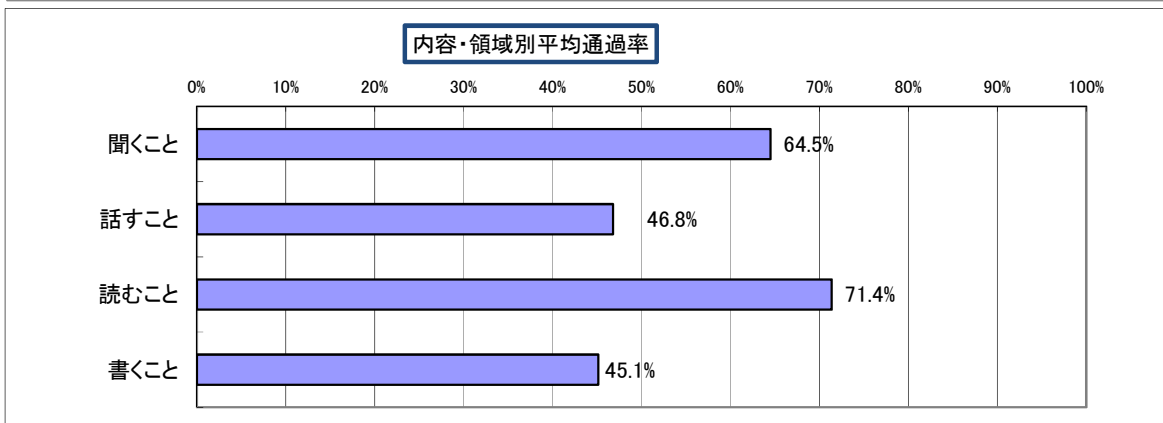
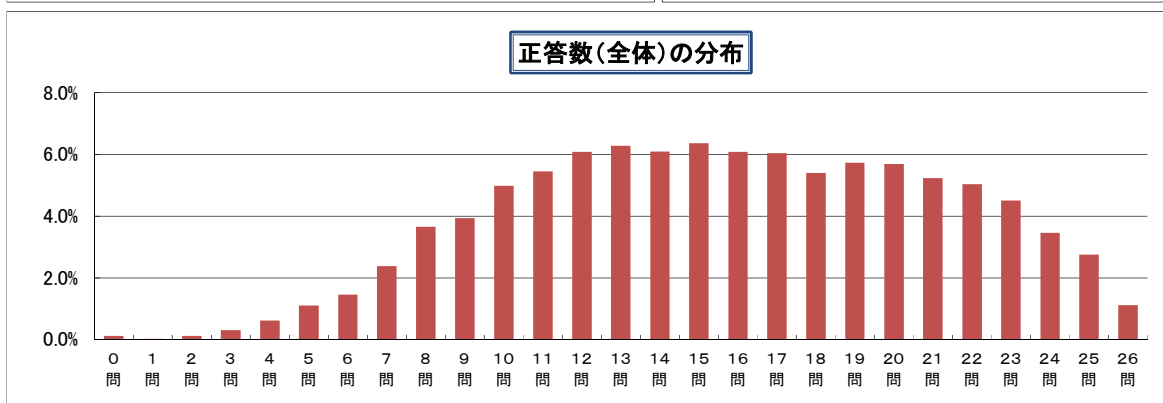
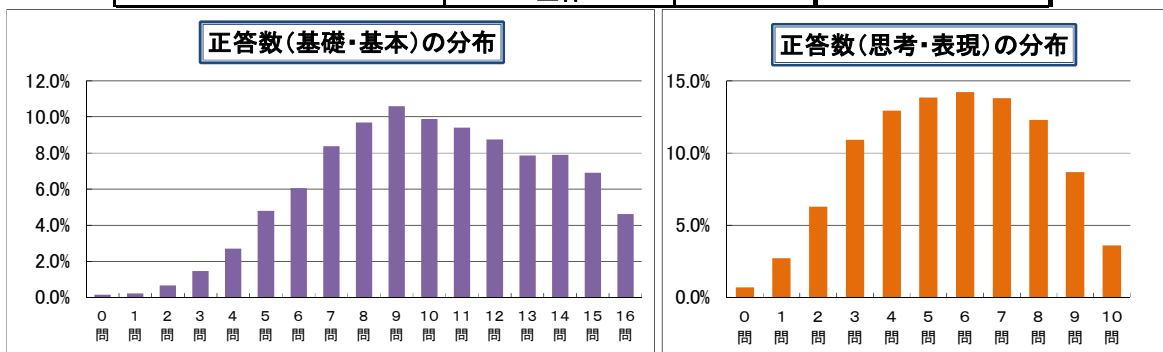
(2) 中1各設問の分類と平均通過率

英語（中学校第1学年）

設問	大問	中問	小問	出題学年	問題内容別				内容領域別				県平均通過率			校内通過率			出題の意図						
					基礎・基本	思考・表現	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	基礎・基本	思考・表現	無解答率	基礎・基本	思考・表現	無解答率									
1		(1)		中1	○		○					83.3%		0.0%	0.0%			0.0%	日常的な場面における英語を聞いて、適切な絵を選択することができるか。						
2	1	(2)		中1	○		○					88.7%		0.0%	0.0%			0.0%	日常的な場面における英語を聞いて、適切な絵を選択することができるか。						
3		(3)		中1	○		○					65.2%		0.0%	0.0%			0.0%	日常的な話題に関する対話を聞いて、適切な絵を選択することができるか。						
4		(1)		中1	○		○	○				76.8%		0.1%	0.0%			0.0%	身近な話題に関する応答となるよう、適切な文を選ぶことができるか。						
5	2	(2)		中1	○		○	○				75.6%		0.1%	0.0%			0.0%	身近な話題に関する応答となるよう、適切な文を選ぶことができるか。						
6		(3)		中1	○		○	○				49.8%		0.1%	0.0%			0.0%	身近な話題に関する応答となるよう、適切な文を選ぶことができるか。						
7	3			中1		思・表 ₁	○						91.0%	0.1%		0.0%		0.0%	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を捉えることができるか。						
8	4			中1	○		○	○				76.5%		0.1%	0.0%			0.0%	コミュニケーション場面から考えられる質問を選択することができるか。						
9		(1)		中1	○		○					95.6%		1.0%	0.0%			0.0%	自己紹介を聞いて、その内容を捉えることができるか。						
10	5	(2)		中1		思・表 ₂	○	○					78.8%	4.1%		0.0%		0.0%	捉えた内容について適切に応じることができるか。						
11	6			中1	○				○			77.7%		0.1%	0.0%			0.0%	表と対話文の内容を把握し、適切な語を選択することができるか。						
12		(1)		中1	○				○			79.5%		0.2%	0.0%			0.0%	対話文の内容を把握し、適切な語を選択することができるか。						
13	7	(2)		中1		思・表 ₁			○				51.6%	0.3%		0.0%		0.0%	ポスターの内容を表す英文を選択することができるか。						
14		①		中1	○				○			84.7%		0.2%	0.0%			0.0%	対話文の内容を正確に把握し、対話の流れに合う疑問文を選択することができるか。						
15	8	②		中1	○				○			57.5%		0.3%	0.0%			0.0%	対話文の内容を正確に把握し、対話の流れに合う疑問文を選択することができるか。						
16		(2)		中1		思・表 ₁			○				80.6%	0.3%		0.0%		0.0%	英文の概要を把握し、話題として適切なものを選ぶことができるか。						
17	9			中1		思・表 ₁			○				57.1%	0.5%		0.0%		0.0%	英文の要点を把握し、文脈から判断して適切な英文を選択することができるか。						
18	10			中1		思・表 ₂			○				33.7%	8.3%		0.0%		0.0%	日常的な話題について読んだことから概要を把握し、自分の考えを書くことができるか。						
19		(1)		中1	○			○	○			57.6%		0.8%	0.0%			0.0%	be動詞を使った否定文の正しい語順を答えることができるか。						
20	11	(2)		中1	○			○	○			63.0%		0.8%	0.0%			0.0%	疑問詞＋名詞を使った疑問文の正しい語順を答えることができるか。						
21	12			中1	○			○	○			66.1%		3.0%	0.0%			0.0%	対話の流れから判断して、適切な語を補って英文を完成させることができるか。						
22		A		中1		思・表 ₃			○				92.5%	2.6%		0.0%		0.0%	自己紹介を書く相手や目的を意識して、まとまりのある英文を書くことができるか。						
23	13	B				思・表 ₃			○				60.6%	2.6%		0.0%		0.0%							
計				問題数	15	8	10	8	8	5	73.2%			68.2%			1.1%			0.0%			0.0%		
				出題割合	65.2%	34.8%	40.0%	32.0%	32.0%	20.0%															
										71.5%			0.0%												

(3) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		中1	中2
	基礎・基本	73.2%	63.0%
	思考・表現	68.2%	56.4%
	全体	71.5%	60.4%



- 「基礎・基本」について、平均通過率が目標の80%を超えたのは15問中4問であり、昨年度と同数であった。昨年度よりも通過率が改善した問題が9問であり、改善が図られつつある。一方で、語順整序の問題、文脈から判断して適切な英語を書く問題や、与えられた情報について英文を書く問題については、正答率が30%に満たず、無解答率が10%を超える問題も見られた。また、正答数の少ない層が増えており、全体の正答数の分布にばらつきが多くなる要因となっている。
- 「思考・表現」について、平均通過率が目標の50%を超えたのは8問中5問であり、昨年度より3問増えた。新学習指導要領を踏まえた出題に対応できる生徒が増えつつあると思われる。ただし、英語を聞いたり読んだりした後に書く問題については、昨年度よりもやや改善しているが、無解答率が20%前後と依然として高い。与えられたテーマについてまとまりのある英文を書く問題については、内容の適切さが50%を超えた。また、正確さが約8ポイント上がるなど、やや改善が見られる。

(4) 中2各設問の分類と平均通過率

英語（中学校第2学年）

	設問			出題 学年	問題内容別				内容領域別			県平均通過率			校内通過率			出題の意図	
	大問	中問	小問		基礎・ 基本	思考・ 表現	聞く こと	話す こと	読む こと	書く こと	基礎・ 基本	思考・ 表現	無解答率	基礎・ 基本	思考・ 表現	無解答率			
1		(1)		中1	○		○						44.3%		0.1%	0.0%		0.0%	日常的な場面における英語を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
2	1	(2)		中2	○		○						79.9%		0.0%	0.0%		0.0%	日常的な場面における英語を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
3		(3)		中2	○		○						73.7%		0.0%	0.0%		0.0%	日常的话题に関する対話を聞いて、適切な絵を選択することができるか。
4	2			中1・2		思・表1	○							89.5%	0.1%		0.0%	0.0%	まとまりのある英語の概要を理解することができるか。
5		(1)		中1・2		思・表2	○							68.1%	0.2%		0.0%	0.0%	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を捉えることができるか。
6		(2)		中1・2		思・表1	○							47.3%	0.4%		0.0%	0.0%	まとまりのある英語を聞いて、要点を捉えることができるか。
7	4			中2		思・表1	○	○						48.6%	18.6%		0.0%	0.0%	聞いて把握した内容について、適切に応じることができるか。
8		(1)		中2	○				○				68.3%		0.3%	0.0%		0.0%	英文を読んで、文脈から判断して適切な語を選択することができるか。
9		①		中2	○				○				65.1%		0.2%	0.0%		0.0%	文と文のつながりに注意して、正しい英文を選択することができるか。
10		②		中2	○				○				83.3%		0.2%	0.0%		0.0%	文と文のつながりに注意して、正しい英文を選択することができるか。
11		(1)		中2		思・表1			○					76.3%	0.1%		0.0%	0.0%	説明文の概要を的確に捉え、説明されているものを選択することができるか。
12		(2)		中2	○				○				82.8%		0.2%	0.0%		0.0%	説明文の内容を正確に捉え、正しい絵を選択することができるか。
13		(3)		中2	○				○				93.1%		0.4%	0.0%		0.0%	グラフの内容を正しく表す英文を選択することができるか。
14				中2	○				○				91.1%		0.4%	0.0%		0.0%	
15		(1)		中2		思・表1			○					45.8%	0.5%		0.0%	0.0%	まとまりのある英文を読んで、概要を理解することができるか。
16		(2)		中2		思・表1			○					62.5%	0.9%		0.0%	0.0%	まとまりのある英文を読んで、要点を理解することができるか。
17	8			中2		思・表2			○					45.3%	23.4%		0.0%	0.0%	社会的な話題について、自分の考えが書けるよう概要を読み取ることができるか。
18		(1)		中2	○				○				77.1%		0.5%	0.0%		0.0%	助動詞を伴う否定文の用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
19		(2)		中2	○				○				54.9%		0.5%	0.0%		0.0%	二つの目的語をとる動詞の用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
20		(3)		中2	○				○				46.0%		0.7%	0.0%		0.0%	不定詞の副詞的用法を理解し、正しい語順を答えることができるか。
21	10			中1	○				○				29.1%		14.0%	0.0%		0.0%	対話文中の空所に当てはまる表現を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現できるか。
22		(1)		中1	○				○				55.3%		6.8%	0.0%		0.0%	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるか。
23		(2)		中1	○				○				39.7%		9.0%	0.0%		0.0%	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるか。
24		(3)		中2	○				○				23.6%		12.8%	0.0%		0.0%	与えられた情報に基づいて、不定詞を伴う3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるか。
25		内容		中1・2		思・表3			○					51.9%	14.1%		0.0%	0.0%	与えられたテーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英文を書くことができるか。
26		正確		中1・2		思・表3			○					28.6%	14.1%		0.0%	0.0%	
計				問題数	16	10	7	8	10	9									
				出題割合	61.5%	38.5%	33.3%	38.1%	47.6%	42.9%									
										63.0%			56.4%			4.6%			
										0.0%			0.0%			0.0%			
										60.4%						0.0%			

(5) 英語（授業改善の視点）

【読むこと】

ア 出題について

- ・ 社会的な話題について、自分の考えが書けるよう概要を読み取ることができるか。

イ 特徴ある問題から

- ・ 中2大問8 120語程度の英文を読み、質問に答える問題

8 次は、中学生のカイト（Kaito）が書いた英文です。これを読んで考えたことを英文で書く宿題が出ました。あなたの考えを英文で書きなさい。なお、英文はIまたはWeで書き始めること。

I'm going to talk about this book. It's a book about Malala. Do you know her?
 Malala was born in Pakistan. Her father made schools for boys and girls there. She liked to go to school, but from 2008, the girls couldn't learn at school. She started to write about her life. Many people in the world read her blog and knew about the difficult times of the people in Pakistan.
 In 2012, Malala was shot, but she lived. And she got the Nobel Prize in 2014.
 Malala thinks that every boy and girl has the right to go to school, but in some places now, many boys and girls can't. They sometimes have to work for their family.

(正答例) (I think) Japanese students are happy.

We are happy (because we can go to school).

I hope everyone can go to school. など

通過率 45.3% 無解答率 23.4%

考えられる課題

- 初見の英語の概要や要点を捉える読み方が身に付いていない。
- 読んだ内容について、自分の考えや気持ちを表出することに慣れていない。
- 実際のコミュニケーション場面を想定した問題に慣れていない。

ウ 授業改善のポイント（英文の読ませ方の基本的な指導方法については、令和2年度報告書を参照）

□ 年間を通じて初見の英文に触れさせる。

初見の英文を最後まで読み通す力を付ける必要があります。指導に当たっては、適度な難易度の自作教材を複数用意して読ませるほかに、教科書本文を活用する方法もあります。後者のポイントは、内容理解の活動前に言語材料の指導を終わらせることです。単元前半は言語材料に慣れ親しませ、その後、既習の知識のみを頼りに本文の内容理解の活動を行います。

□ テキストタイプに応じた内容把握の指導を行う。

一文ずつ時間をかけて日本語訳する活動に終始するのではなく、テキストタイプに応じた発問の工夫を行います。発問は英語で行い、学習形態を工夫しながら生徒にも英語で答えさせるようにします。

テキストタイプ	読み取るべき内容
ニュースやアナウンスなどの日常的な話題の文章	必要な情報（キーワードなど）
物語などの時系列に語られる文章	概要（話の大まかな流れ）
説明文やスピーチなどのメッセージを含む文章	要点（筆者が述べたいこと）

□ 実際のコミュニケーション場面を想定した上で、読んで（あるいは聞いて）理解した内容について、自分の考えや気持ちを話したり書いたりする活動を継続的に行う。

表現活動では、「何のために」、「誰に対して」などの目的を明確にします。発音や発言内容の質を高める方法としては、音読指導の徹底が効果的です。単語での発話も認めた上で、相手を複数回変えてやり取りに習熟させたり、優れたペアを紹介した後に活動を再開する「中間指導」を行ったりすることで、表現の量や質を高めていきます。書く活動を話す活動の後に位置付けることで、スムーズに取り組めるようになります。

□ 表現の「適切さ」を評価し、生徒の意欲を高める。

「思考・表現」を問う問題では「コミュニケーションの目的、場面、状況に応じた適切さ」を評価します。文法的な誤りを含んでいても、コミュニケーションに支障をきたさない誤りであり、「適切」と判断できる表現は正解とする問題を取り入れるなど、評価の在り方を見直して、生徒の表現しようとする意欲を引き出しましょう。

【書くこと】

ア 出題について

- 対話文中の空所に当てはまる表現を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現させる問題を出題。
- 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文、不定詞を伴う3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く問題を出題。

イ 特徴ある問題から

- 中2大問9 基本文の語順を答える問題
- 中2大問10 対話の場面を理解し、英文を完成させるために適切な表現を答える問題
- 中2大問11 基本文を用いて、第3者を紹介するための英文を書く問題

9 次の(1)から(3)までのそれぞれが自然な対話となるように、の部分に〔〕内の語句を並べかえて英文を完成させなさい。答えは、左から順に記号で書きなさい。(※〔〕は省略)

(1) 自宅で
A: Can I go shopping now?
B: No, you **can not go out**. Dinner is ready.
通過率 77.1% (R2 類似 (It is not mine.) 75.3%)

(2) 放課後に
A: Tomorrow is Meg's birthday.
I **will give her a bag**.
She usually uses old one.
B: Sounds great.
通過率 54.9% (R2 類似 (... show me your book?) 64.0%)

(3) 登校中に
A: What did you do yesterday?
B: I went to **the zoo to see koalas** with my family.
通過率 46.0% (R2 類似 (... restaurant to have dinner ...) 75.3%)

10 例を参考にして、話が成り立つように、()内の語に不足している語を補って、英文を完成させなさい。なお、()内の語は、必要に応じて形を変えること。

冬休み (winter vacation) 明けに、教室で

Chris: What did you do in the winter vacation?
Takashi: My family and I went to see our grandparents in Yakushima. (stay → **We stayed**) there for a week.
Chris: Wow! Wonderful!

通過率 29.1% 無解答率 14.0%

11 次の表の(1)から(3)は、ある男子中学生に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

(1)

出身	Korea	☞ He is from Korea.
----	-------	---------------------

通過率 55.3% 無解答率 6.8%

(2)

住んでいる都市	London	☞ He lives in London.
---------	--------	-----------------------

通過率 39.7% 無解答率 9.0%

(3)

将来の夢	歌手 (singer) になること	☞ He wants to be a singer. His dream is to be a singer.
------	-------------------	---

通過率 23.6% 無解答率 12.8%

考えられる課題

- 各学年で習得させるべき基本文(否定文、二つの目的を取る動詞、不定詞)が定着していない。
- 代名詞などの言語材料をコミュニケーション場面で使いこなす力を身に付けさせていない。
- 過去の調査から明らかになっている課題を解決させないまま調査を受けさせている。

ウ 授業改善のポイント

□ 定着までの段階を細かく設定する。

基本文の指導に当たっては、例えば、①英語を聞いたり読んだりする活動を通して、場面や状況から意味を理解する段階、②場面や状況を意識しながら、書かれた英語をすらすらと気持ちを込めて読む段階、③言いたい表現を英語ですらすらと気持ちを込めて言う(日本語を英語に直す)段階、④目的や場面、状況等に応じて英語で話す段階、⑤自分が話した英語を書く段階など、細かな段階を設定して定着を図ります。

□ コミュニケーション場面で知識を活用させながら、徐々に正確さを高めていく。

既習事項を自在に使いこなせるようになるには、それらをコミュニケーション場面で使う経験を繰り返す必要があります。身に付けるべき表現を使う必然性のある場面を設定した上で、誤りがあったら修正を加えながら、徐々に表現の正確さを高めていきましょう。既習事項の意味や用法を振り返らせたいときは、要点をプレゼンテーションソフトのスライドにまとめて大型テレビ等に提示することで、短時間で繰り返し復習することができます。

□ 意図的に英語を使用し、やり取りを通して英語力を高める。

生徒が既習の知識の多様な用法に気付き、自在に使いこなせるようになるまで、教師自身が粘り強く英語を使用することが大切です。教師の自然な英語使用は、生徒にとって、相手にうまく伝わらない時や言い間違えた時の対処法などを学ぶ機会にもなります。日頃から自分の考えや気持ちを含めて、平易な英語で生徒に語るようにしましょう。

VI 児童生徒質問紙と学校質問紙の結果概要

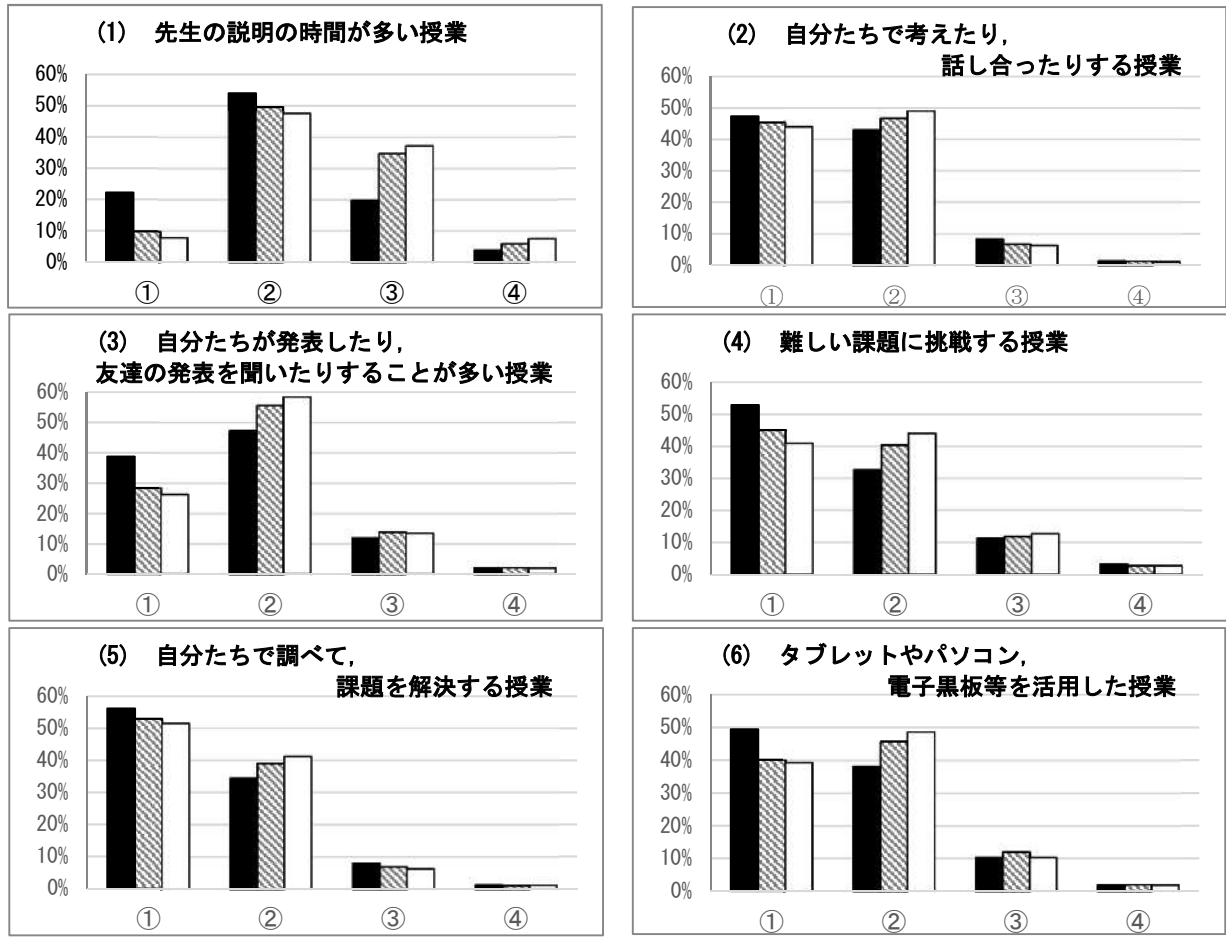
1 児童生徒質問紙の結果概要

(1) 授業中の学習に対する満足度

2 あなたは、次のような授業で学んでいて、どのように感じますか。

- ① とてもやりがいを感じる ③ あまりやりがいを感じない
 ② やりがいを感じる ④ やりがいを感じない

■ 小5 ▨ 中1 □ 中2



授業中の学習に対する満足度については、「先生の説明の時間が多い授業」を肯定する児童生徒の割合より、ICT活用をはじめとして、児童生徒が主体的・対話的に学ぶ授業にやりがいを感じている割合が多い。この傾向については、昨年度までとほとんど変わっておらず、同じような傾向が数年繰り返されている。

このことから、日々実施している授業を改めて見直し、ICTの活用を含め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を早急に図る必要がある。

【児童生徒の姿から授業の工夫・改善を!】

- 主体的に学ぶ児童生徒の姿を念頭に、どのように授業を展開すればよいのかを考える。
- 単元の終末に見られる児童生徒の姿(「何ができるようになってきているか」「何ができるようになっていけばよいか」)をしっかりと想定し、そこから指導計画を作成する。

授業で見たい!このような児童生徒の姿

- 話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝える。
- 自分の考えを発表する時に、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する。
- 友達の話や意見を最後まで聞く。
- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む。
- 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行う。
- 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる。

～R3全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙を基に作成～

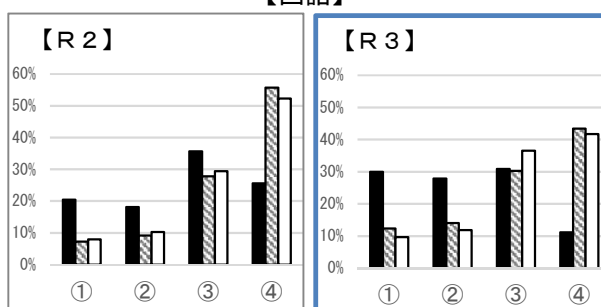
(2) ICTの活用状況

6 授業で、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか。教科ごとに一つ選んでください。

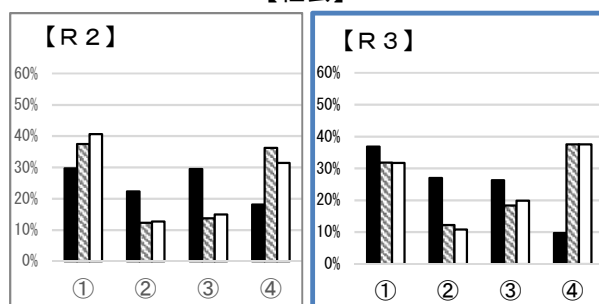
- ① よくしている（週に数回）
- ② どちらかといえばしている（週1回程度）
- ③ あまりしていない（月に数回）
- ④ まったくしていない

■ 小5 ■ 中1 □ 中2

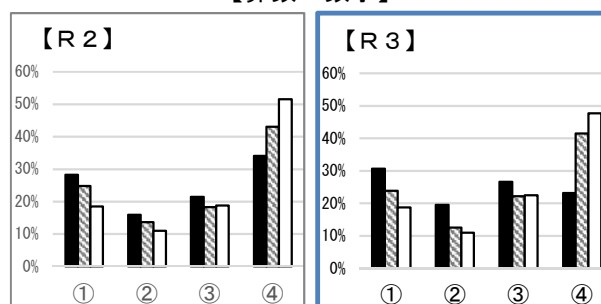
【国語】



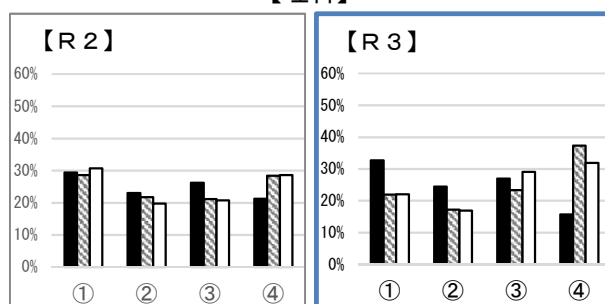
【社会】



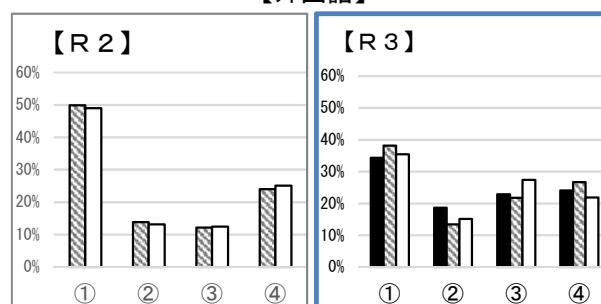
【算数・数学】



【理科】



【外国語】



1人1台端末が整備されたが、授業におけるタブレットやパソコン、電子黒板等の活用について、児童生徒質問紙では、昨年と大きな変化が見られない。特に、中学校においては「あまりしていない」「全くしていない」と否定的な回答をしている割合が多い。

一方、学校質問紙では、小・中学校ともに90%以上が積極的に活用した学習活動を行っている」と回答をしており、児童生徒の受け止めとは大きく異なる結果となっている。

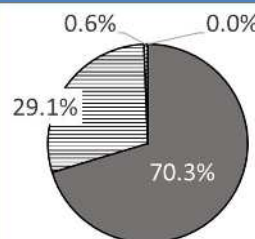
個別最適な学びと協働的な学びの実現には、児童生徒が日常的にICTを活用して課題解決に取り組む学習が不可欠である。児童生徒は、ICTを「文房具」として活用しながら、主体的に考え、多様な他者と協働的に学ぶ中で、ICT活用のメリットを実感していく。「走りながら工夫と改善を！」の意識で取り組むことが大切である。

【児童生徒にこのような「ICT活用のメリット」を実感させよう】

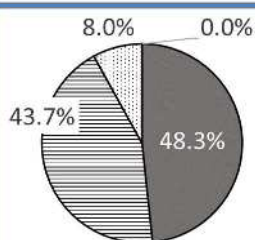
自分で使えば使うほど、増える！広がる！活用・発揮したくなる！

- ICTを使うと、勉強が楽しい！
- ICTを使うと、分かりやすい！
- ICTを使うと、自分の考えを伝えやすい！
- ICTを使うと、みんなの意見がすぐに分かる！
- ICTを使うと、遠くの友達とも一緒に学ぶことができる！ …

<学校質問紙1-(1)授業における工夫・改善>
1人1台端末を積極的に活用した学習活動を行っている。



【小学校】
肯定的回答
99.4%

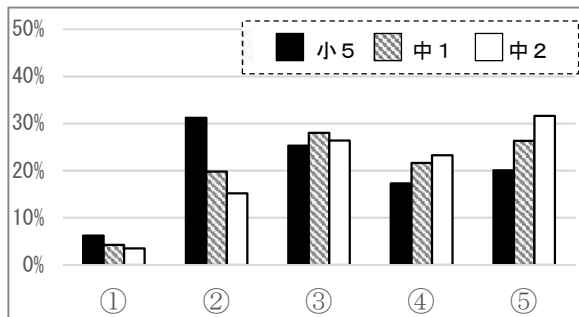


【中学校】
肯定的回答
92.0%

(3) 学校図書館・学校図書室、地域の図書館の利用

7 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

- ① だいたい週に4回以上行く。
- ② 週に1～3回程度行く。
- ③ 月に1～3回程度行く。
- ④ 年に数回程度行く。
- ⑤ ほとんど、または、全く行かない。



学校図書館や学校図書室等の利用については、学年が上がるにつれて、その使用頻度が低くなる傾向が見られる。

【学校図書館の有効活用を!】

□ Society 5.0 時代において、「言語能力」はもちろん、「情報活用能力・課題解決能力」を育成することは最重要課題の一つであることを再確認し、授業での学校図書館活用を推進する。

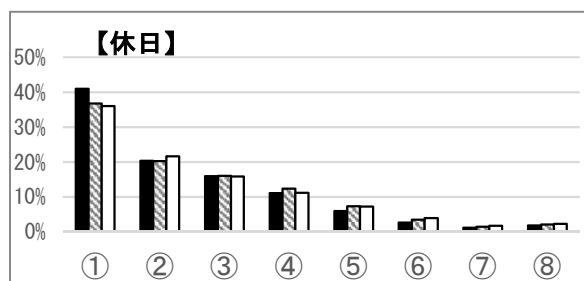
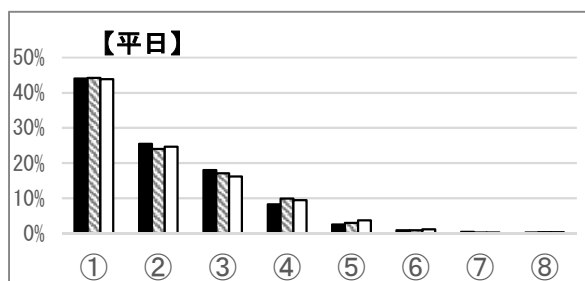
きっかけづくりは、先生方の工夫次第
様々な機会を捉えて、本に親しませよう

- 教室に「読書コーナー」「調べものコーナー」設置
学習内容に合わせて関連本を置き、「もっと知りたい」「詳しく調べたい」という気持ちを高める。
- 読み聞かせ・ビブリオバトルで「おすすめの本紹介」
友達を通して読んでみたいと思える本に出会い、本を通して自分や友達を知る。

(4) インターネットを利用した家庭学習

8 家庭で、インターネットを利用した学習（タブレットやパソコンでできるドリル練習、検索サイトを使った調べ学習など）を、1日当たりどれくらいの時間していますか。平日及び休みの日ごとに一つ選んでください。

- ① していない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分以上1時間より少ない。
- ④ 1時間以上2時間より少ない。
- ⑤ 2時間以上3時間より少ない。
- ⑥ 3時間以上4時間より少ない。
- ⑦ 4時間以上5時間より少ない。
- ⑧ 5時間以上。



タブレット等を活用した家庭学習については、小・中学校ともに、平日・休日ともに、約40%の児童生徒が「全く使っていない」と回答している。裏を返せば、約60%程度の児童生徒は、何らかの形で活用しながら家庭学習を行っているということになる。

「児童生徒の学びを止めない」という考えから、端末の持ち帰りによる学習保障に取り組み始めた市町村・学校も出てきている。まずはできるところから活用しようとする姿勢を大切にし、個別最適化された家庭学習が更に充実していくよう、工夫・改善を図ることが求められる。

【家庭学習でICTの活用をする際は…】

□ 家庭との連携を図りながら、児童生徒自らが学校の授業の予習や復習、発展的な学習を含め、計画的に家庭学習に取り組んでいけるよう指導する。

インターネット利用で可能になる
「個別最適化」された家庭学習

- 課題解決に向けた調べ学習
- デジタル教材で様々な問題にチャレンジ
- 学習したことをまとめるレポート作成 等

ネットワーク
がなくても
活用できる!

▲ 家庭の通信環境の問題等に
よりなかなか踏み出せない…。

- ・ 文書作成ソフト等によるタイピング練習やカメラ機能を用いた学習が可能。
- ・ 課題を端末に保存すればオフラインでも学習が可能。

➔ 詳しくは「KagoGIGA インフォメーション⑤」参照

2 学校質問紙の結果概要

(1) 授業における工夫・改善

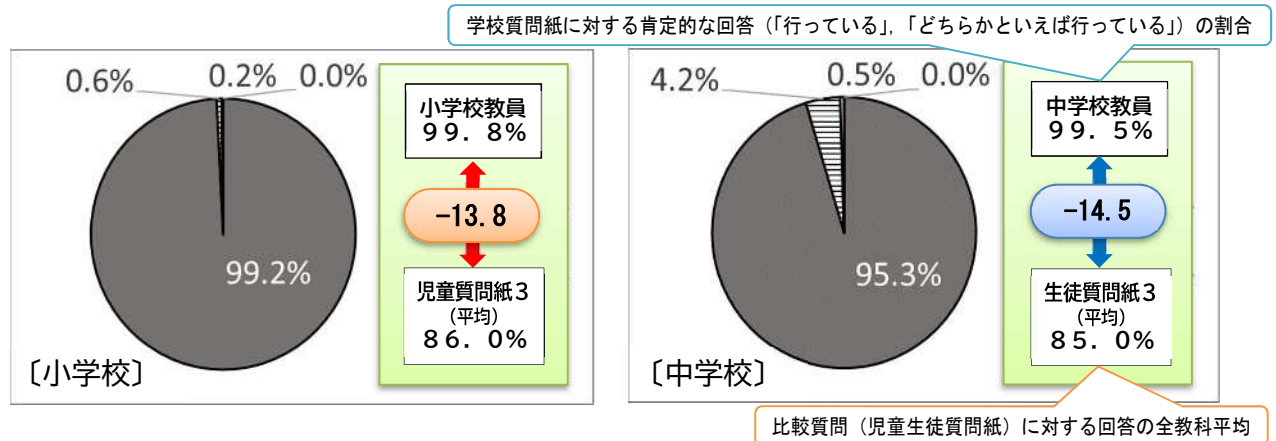
学校質問紙では、ほぼ全ての学校が「目標の明確化」「見通しと振り返りの設定」を意識して授業を行っている」と回答しているが、児童生徒の受け止め方との差は解消されていない。

児童生徒自身が、受け身ではなく、主体的に学習する態度を身に付けるとともに、自己調整の力を育むために、めあて（学習目標）を立て、学習の見通しをもち、授業の終わりには学習内容や学び方を振り返っていると実感できる授業づくりを進めることを、再度全職員で確認し、徹底して取り組むことが求められる。

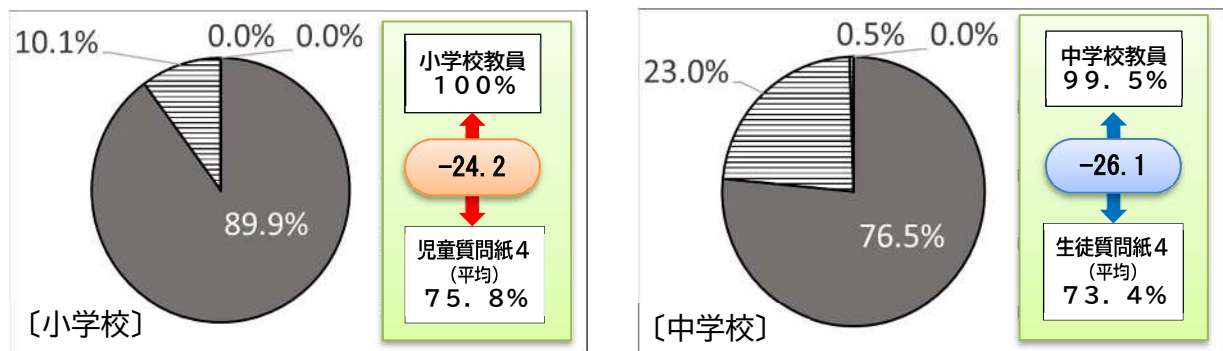
【児童生徒の実感につながる指導のポイント】

- めあてを立てる… 児童生徒自身が、本時で「何を解決したいか」「何ができるようになりたいか」に気付く。
- 見通しをもつ… 児童生徒自身が、既習事項等を想起しながら、課題解決の方法等を定める。
- 振り返る… 児童生徒自身が、学習内容や方法を振り返り、自らの学びや変容を自覚するとともに、次の学習への意欲を高める。

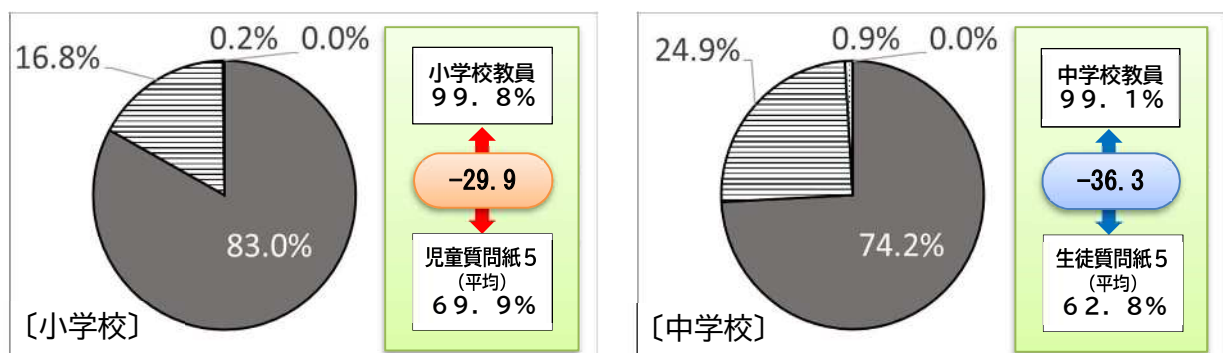
学校質問紙 1-(1) 授業のめあて（学習目標）を立てている。



学校質問紙 1-(1) 授業の始めに、学習の見通しをもたせている。



学校質問紙 1-(1) 授業の終わりに振り返る活動を行っている。



■ 行っている ▨ どちらかといえば行っている ▤ どちらかといえば行っていない □ 行っていない

(2) 各種学力調査等の活用

かごしま学力向上支援Webシステムの単元・領域別評価問題や各種学力調査等の活用については、昨年度に引き続き高い割合で活用がなされているが、「行っている」と回答している割合のみに注目した時に、中学校における全国学力・学習状況調査の活用状況が顕著に低下している。

演習問題については、各学校において積極的な取組がなされていることが確実に結果に結び付いていると考えられる。活用にあたっては、短期集中で知識を詰め込むような取組ではなく、日々の授業や自宅学習の課題として、計画的・継続的に取り組ませ、更に学力向上を図ることが大切である。

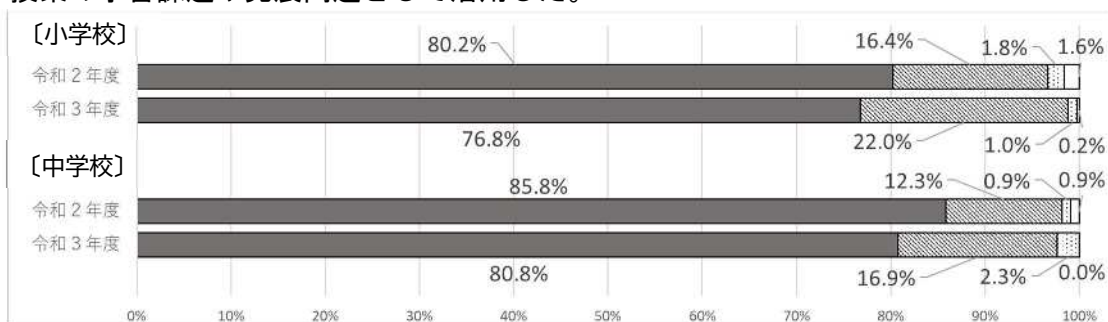
【各種学力調査等の活用のポイント】

- 演習問題から、これからの時代で求められる資質・能力が何かを把握し、授業改善を図る。
- 自校の各教科における取組状況と調査結果を照らし合わせ、効果的な活用の在り方について考える。
- 「全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」（国立教育政策研究所）等を参考にし、授業等での活用場面等について考える。

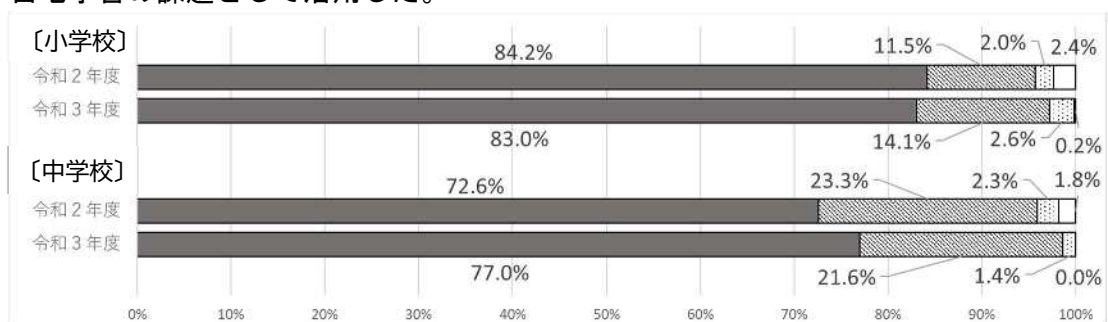
■ 行っている ▨ どちらかといえば行っている □ どちらかといえば行っていない □ 行っていない

学校質問紙 1-(4) かごしま学力向上支援Webシステム単元・領域別評価問題の活用状況

◎ 授業の学習課題や発展問題として活用した。

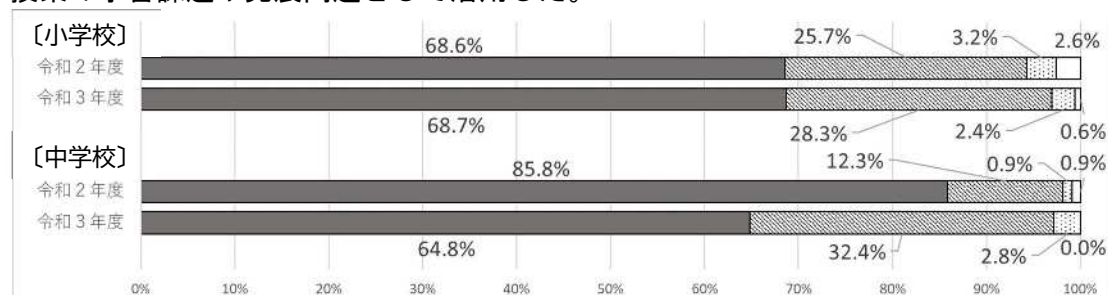


◎ 自宅学習の課題として活用した。

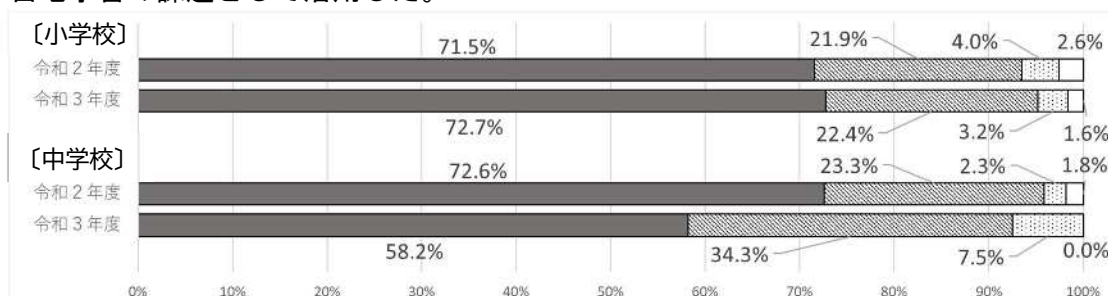


学校質問紙 1-(5) 昨年度までの全国学力・学習状況調査問題の活用状況

◎ 授業の学習課題や発展問題として活用した。

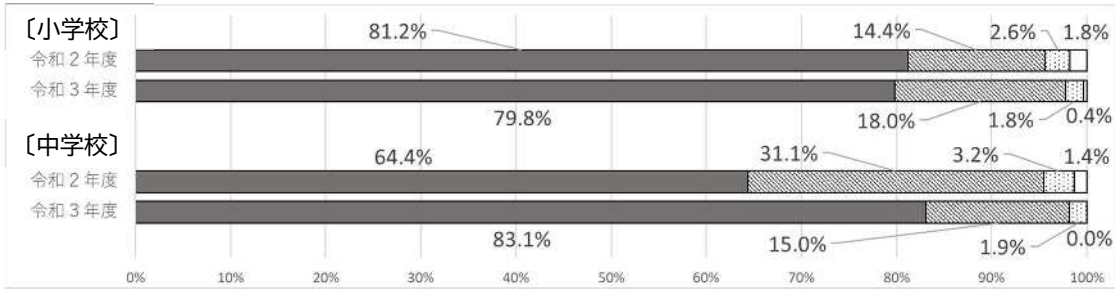


◎ 自宅学習の課題として活用した。

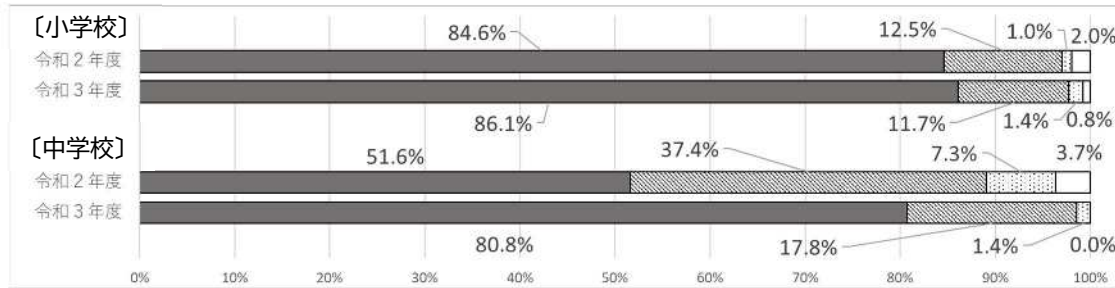


学校質問紙 1-(6) 昨年度までの鹿児島学習定着度調査問題の活用状況

◎ 授業の学習課題や発展問題として活用した。



◎ 自宅学習の課題として活用した。



(3) 授業以外での補充指導や個別指導の充実

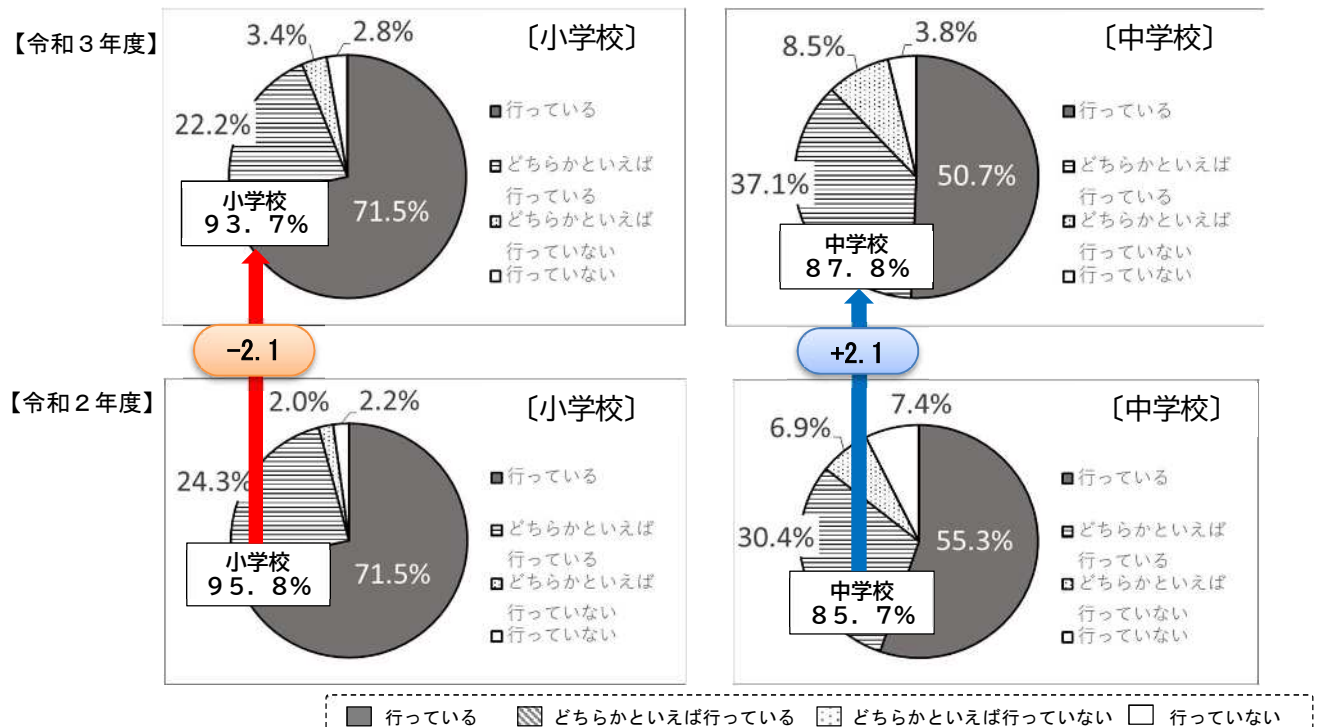
年間を通して定期的に取り組んでいる学校が小学校で93.7%、中学校が87.8%であり、中学校は前年度から上昇しているが、小学校は低下しているという結果が見られた。

補充指導や個別指導を行う際には、児童生徒の実態に応じて基礎的・基本的な内容を取り上げたり、発展的な内容を取り上げたりするなど、「個に応じた指導（個別最適な学び）」がなされるよう、取組の内容や方法を工夫する必要がある。その際には、ICT等も効果的に活用しながら継続して取り組み、更なる充実を図る必要がある。

【補充指導や個別指導のポイント】

- 画一的な内容ではなく、「個に応じた指導（個別最適な学び）」の視点をもって取り組む。
- 補充的な学習：様々な指導方法や指導体制の工夫改善を進め、学習内容の確実な定着を図る。
- 発展的な学習：児童生徒の負担が過重にならないように配慮するとともに、学習内容の理解を一層深め、広げる。

学校質問紙 1-(8) 授業以外での補充指導や個別指導の時間を設定して定期的の実施している。



令和3年度鹿児島学習定着度調査 児童生徒質問紙集計（県全体）

※ 無回答は除いており、割合のため必ずしも合計が100%にはなりません。全体の傾向として御活用ください。

1 日頃の授業では、どのような活動をする人が多いですか。教科ごとに二つずつ選んでください。

- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 課題について、調べ学習をする。
- ④ 自分でじっくり考える。
- ⑤ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑥ ペアやグループで、考えを出し合ったり、教え合ったりする。
- ⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑧ 互いに発表したり、説明したりする。

国語	小5	中1	中2
①	24.5%	34.0%	37.6%
②	9.7%	6.7%	6.7%
③	6.2%	4.6%	3.9%
④	9.9%	11.5%	12.3%
⑤	25.3%	18.4%	16.9%
⑥	10.4%	12.9%	13.6%
⑦	5.2%	3.5%	2.8%
⑧	8.7%	8.3%	6.1%

社会	小5	中1	中2
①	20.6%	37.7%	40.6%
②	5.7%	5.1%	5.2%
③	23.0%	15.8%	14.9%
④	10.7%	13.0%	13.1%
⑤	5.9%	4.9%	4.5%
⑥	8.8%	9.5%	11.0%
⑦	19.7%	8.8%	5.8%
⑧	5.4%	5.2%	4.9%

算・数	小5	中1	中2
①	21.6%	29.0%	30.5%
②	12.6%	11.7%	12.2%
③	3.4%	2.5%	2.3%
④	29.7%	29.1%	26.9%
⑤	5.0%	1.7%	1.7%
⑥	13.0%	17.3%	18.2%
⑦	3.1%	2.2%	1.9%
⑧	11.6%	6.5%	6.2%

理科	小5	中1	中2
①	25.8%	34.3%	40.1%
②	11.7%	11.6%	9.6%
③	11.4%	9.2%	7.4%
④	10.2%	9.2%	11.2%
⑤	5.6%	4.1%	4.0%
⑥	21.7%	22.3%	19.9%
⑦	5.5%	4.2%	3.3%
⑧	8.1%	5.1%	4.5%

外国語	小5	中1	中2
①	30.3%	32.9%	32.9%
②	4.9%	4.0%	4.1%
③	2.9%	2.8%	3.0%
④	6.1%	10.0%	10.2%
⑤	1.5%	3.1%	4.2%
⑥	22.3%	24.2%	27.1%
⑦	2.2%	1.9%	1.9%
⑧	29.5%	21.1%	16.6%

2 あなたは、次のような授業で学んでいて、どのように感じますか。

(1) 先生の説明の時間が多い授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

△	小5	中1	中2
①	22.2%	9.8%	7.7%
②	54.0%	49.5%	47.6%
③	19.9%	34.8%	37.1%
④	3.9%	5.9%	7.5%

(2) 自分たちで考えたり、話し合ったりする授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

△	小5	中1	中2
①	47.3%	45.4%	43.8%
②	43.0%	46.6%	48.9%
③	8.3%	6.7%	6.2%
④	1.4%	1.3%	1.0%

(3) 自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

△	小5	中1	中2
①	38.7%	28.4%	26.2%
②	47.3%	55.6%	58.3%
③	11.9%	13.9%	13.5%
④	2.0%	2.1%	2.0%

(4) 難しい課題に挑戦する授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

△	小5	中1	中2
①	52.8%	45.1%	40.8%
②	32.6%	40.3%	43.9%
③	11.3%	11.9%	12.6%
④	3.3%	2.7%	2.6%

(5) 自分たちで調べて、課題を解決する授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

△	小5	中1	中2
①	56.2%	52.9%	51.4%
②	34.4%	39.0%	41.0%
③	8.1%	7.0%	6.3%
④	1.3%	1.1%	1.2%

(6) タブレットやパソコン、電子黒板等を活用した授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

△	小5	中1	中2
①	49.5%	40.2%	39.3%
②	38.2%	45.8%	48.6%
③	10.3%	12.0%	10.2%
④	2.0%	2.0%	1.8%

3 あなたの学級では、授業のめあて（学習目標）を立てていますか。教科ごとに一つ選んでください。

- ① よくしている
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ まったくしていない

国語	小5	中1	中2
①	66.2%	60.5%	67.3%
②	23.6%	23.8%	20.7%
③	8.5%	12.5%	9.4%
④	1.6%	3.0%	2.5%

社会	小5	中1	中2
①	64.3%	67.2%	70.6%
②	24.0%	19.4%	16.5%
③	9.6%	10.4%	9.8%
④	2.0%	2.9%	3.1%

算・数	小5	中1	中2
①	69.2%	63.7%	64.5%
②	20.6%	24.1%	21.3%
③	8.3%	9.9%	11.0%
④	1.8%	2.3%	3.0%

理科	小5	中1	中2
①	54.8%	57.0%	60.6%
②	29.5%	26.2%	23.2%
③	12.9%	13.5%	12.8%
④	2.8%	3.3%	3.4%

外国語	小5	中1	中2
①	51.1%	53.4%	51.9%
②	26.6%	29.1%	28.8%
③	16.6%	13.7%	15.2%
④	5.6%	3.8%	4.1%

4 授業の始めに、学習の流れを確認していますか。教科ごとに一つ選んでください。

- ① よくしている
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ まったくしていない

国語	小5	中1	中2
①	44.1%	40.6%	42.6%
②	35.1%	35.2%	35.0%
③	17.2%	20.2%	18.5%
④	3.5%	3.9%	3.8%

社会	小5	中1	中2
①	37.6%	34.1%	34.8%
②	37.6%	36.6%	37.0%
③	20.4%	24.6%	23.2%
④	4.3%	4.6%	5.0%

算・数	小5	中1	中2
①	43.6%	34.0%	33.7%
②	34.1%	38.4%	39.2%
③	18.3%	23.5%	22.4%
④	3.9%	4.1%	4.6%

理科	小5	中1	中2
①	41.0%	33.7%	31.1%
②	35.9%	38.2%	40.2%
③	18.8%	23.5%	23.8%
④	4.3%	4.6%	4.8%

外国語	小5	中1	中2
①	38.1%	36.7%	36.9%
②	32.2%	37.7%	38.3%
③	22.1%	21.3%	20.2%
④	7.5%	4.3%	4.5%

5 授業の終わりに学習内容を振り返る活動（学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげるなど）を行っていますか。教科ごとに一つ選んでください。

- ① よくしている
- ② どちらかといえばしている
- ③ あまりしていない
- ④ まったくしていない

国語	小5	中1	中2
①	29.8%	21.7%	20.6%
②	37.4%	36.2%	35.0%
③	27.0%	34.0%	36.0%
④	5.7%	8.0%	8.3%

社会	小5	中1	中2
①	35.3%	28.2%	26.7%
②	35.4%	34.5%	34.3%
③	23.7%	29.5%	30.5%
④	5.5%	7.7%	8.4%

算・数	小5	中1	中2
①	49.1%	34.0%	33.4%
②	31.1%	36.5%	36.8%
③	15.6%	23.5%	23.8%
④	4.2%	6.0%	5.8%

理科	小5	中1	中2
①	33.1%	24.1%	24.1%
②	34.8%	37.1%	37.3%
③	25.2%	31.1%	30.5%
④	6.9%	7.7%	7.9%

外国語	小5	中1	中2
①	34.5%	27.9%	24.9%
②	29.2%	37.3%	37.6%
③	25.6%	27.1%	30.0%
④	10.5%	7.7%	7.4%

6 授業で、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか。教科ごとに一つ選んでください。

- ① よくしている（週に数回）
- ② どちらかといえばしている（週1回程度）
- ③ あまりしていない（月に数回）
- ④ まったくしていない

国語	小5	中1	中2
①	30.0%	12.3%	9.7%
②	27.9%	14.1%	11.9%
③	30.9%	30.2%	36.6%
④	11.2%	43.4%	41.7%

社会	小5	中1	中2
①	36.8%	31.8%	31.7%
②	27.1%	12.2%	10.8%
③	26.3%	18.4%	19.8%
④	9.7%	37.6%	37.5%

算・数	小5	中1	中2
①	30.6%	23.8%	18.7%
②	19.5%	12.5%	10.9%
③	26.6%	22.2%	22.5%
④	23.2%	41.4%	47.7%

理科	小5	中1	中2
①	32.7%	22.0%	22.0%
②	24.4%	17.2%	16.9%
③	27.0%	23.4%	29.0%
④	15.8%	37.3%	31.9%

外国語	小5	中1	中2
①	34.3%	38.1%	35.4%
②	18.6%	13.4%	15.1%
③	22.8%	21.7%	27.4%
④	24.1%	26.7%	21.9%

7 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

- ① だいたい週に4回以上行く。
- ② 週に1～3回程度行く。
- ③ 月に1～3回程度行く。
- ④ 年に数回程度行く。
- ⑤ ほとんど、または、全く行かない。

	小5	中1	中2
①	6.2%	4.2%	3.5%
②	31.2%	19.8%	15.1%
③	25.3%	28.0%	26.4%
④	17.3%	21.6%	23.3%
⑤	20.1%	26.3%	31.6%

8 家庭で、インターネットを利用した学習（タブレットやパソコンのできるドリル練習、検索サイトを使った調べ学習など）を、1日当たりどれくらいの時間していますか。平日及び休みの日ごとに一つ選んでください。

- ① していない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分以上1時間より少ない。
- ④ 1時間以上2時間より少ない。
- ⑤ 2時間以上3時間より少ない。
- ⑥ 3時間以上4時間より少ない。
- ⑦ 4時間以上5時間より少ない。
- ⑧ 5時間以上。

平日	小5	中1	中2
①	44.1%	44.2%	43.9%
②	25.4%	24.0%	24.7%
③	18.0%	17.1%	16.2%
④	8.2%	9.9%	9.5%
⑤	2.5%	3.0%	3.8%
⑥	0.9%	0.9%	1.2%
⑦	0.4%	0.3%	0.3%
⑧	0.3%	0.4%	0.4%

休みの日	小5	中1	中2
①	41.0%	36.8%	36.1%
②	20.4%	20.2%	21.7%
③	15.9%	16.1%	15.9%
④	11.1%	12.4%	11.2%
⑤	6.0%	7.3%	7.2%
⑥	2.6%	3.5%	3.9%
⑦	1.2%	1.5%	1.7%
⑧	1.8%	2.1%	2.3%

令和3年度鹿児島学習定着度調査 学校質問紙集計（県全体）

※ 無回答は除いており、割合のため必ずしも合計が100%にはなりません。全体の傾向として御活用ください。

1 学力向上の取組

(1) 授業における工夫・改善

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	授業のめあて（学習目標）を立てている	99.2%	0.6%	0.2%	0.0%
	授業の始めに、学習の見通しをもたせている	89.9%	10.1%	0.0%	0.0%
	自分の考えを書く活動を行っている	85.5%	14.5%	0.0%	0.0%
	1人1台端末を積極的に活用した学習活動を行っている	70.3%	29.1%	0.6%	0.0%
中学校	授業の終わりに学習内容を振り返る活動を行っている	83.0%	16.8%	0.2%	0.0%
	授業のめあて（学習目標）を立てている	95.3%	4.2%	0.5%	0.0%
	授業の始めに、学習の見通しをもたせている	76.5%	23.0%	0.5%	0.0%
	自分の考えを書く活動を行っている	69.5%	30.0%	0.5%	0.0%
中学校	1人1台端末を積極的に活用した学習活動を行っている	48.3%	43.7%	8.0%	0.0%
	授業の終わりに学習内容を振り返る活動を行っている	74.2%	24.9%	0.9%	0.0%

(2) 全国学力・学習状況調査結果分析の職員研修実施月（令和3年度結果公表以降に校内で最初の分析を行った研修月）

年度	実施月						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	71.3%	17.8%	4.0%	3.6%	1.8%	1.4%	0.0%
中学校	70.9%	18.3%	3.8%	3.3%	1.9%	1.4%	0.5%

(3) 全国学力・学習状況調査結果分析の状況

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	全職員で分析した	87.5%	10.9%	1.2%	0.4%
	学年部や教科部等で分析した	72.3%	17.8%	1.2%	8.7%
	結果から学校の課題を明確にし、指導改善を図った	88.7%	11.1%	0.0%	0.2%
	国立教育政策研究所の解説資料等を活用した	61.0%	37.0%	1.8%	0.2%
中学校	全職員で分析した	73.7%	20.2%	3.3%	2.8%
	学年部や教科部等で分析した	89.7%	9.4%	0.5%	0.5%
	結果から学校の課題を明確にし、指導改善を図った	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%
	国立教育政策研究所の解説資料等を活用した	47.4%	48.4%	3.8%	0.5%

(4) かがしま学力向上支援Webシステム単元・領域別評価問題の活用状況

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	授業の学習課題や発展問題として活用した	76.8%	22.0%	1.0%	0.2%
	単元末の復習問題等として活用した	69.5%	28.3%	1.8%	0.4%
	自宅学習の課題として活用した	83.0%	14.1%	2.6%	0.2%
	長期休業中の課題として活用した	70.1%	21.6%	4.4%	3.8%
中学校	授業の学習課題や発展問題として活用した	80.8%	16.9%	2.3%	0.0%
	定期テスト等の問題として活用した	71.4%	27.2%	1.4%	0.0%
	自宅学習の課題として活用した	77.0%	21.6%	1.4%	0.0%
	長期休業中の課題として活用した	76.5%	22.5%	0.9%	0.0%

(5) 昨年度までの全国学力・学習状況調査問題の活用状況

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	授業の学習課題や発展問題として活用した	68.7%	28.3%	2.4%	0.6%
	単元末の復習問題等として活用した	58.0%	36.6%	4.0%	1.4%
	自宅学習の課題として活用した	72.7%	22.4%	3.2%	1.6%
	長期休業中の課題として活用した	62.2%	27.1%	6.5%	4.2%
中学校	授業の学習課題や発展問題として活用した	64.8%	32.4%	2.8%	0.0%
	定期テスト等の問題として活用した	49.8%	44.1%	6.1%	0.0%
	自宅学習の課題として活用した	58.2%	34.3%	7.5%	0.0%
	長期休業中の課題として活用した	55.9%	38.0%	6.1%	0.0%

(6) 昨年度までの鹿児島学習定着度調査問題の活用状況

項目		行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
小学校	授業の学習課題や発展問題として活用した	79.8%	18.0%	1.8%	0.4%
	単元末の復習問題等として活用した	68.7%	28.1%	2.2%	1.0%
	自宅学習の課題として活用した	86.1%	11.7%	1.4%	0.8%
	長期休業中の課題として活用した	81.2%	12.9%	3.4%	2.4%
中学校	授業の学習課題や発展問題として活用した	83.1%	15.0%	1.9%	0.0%
	定期テスト等の問題として活用した	70.9%	26.8%	2.3%	0.0%
	自宅学習の課題として活用した	80.8%	17.8%	1.4%	0.0%
	長期休業中の課題として活用した	81.7%	16.4%	1.9%	0.0%

(7) (4)から(6)などの「思考力、判断力、表現力」を育む問題への取組状況（調査対象学年（5年）の児童について）

	項目	月1回未満	月1回	月2回	週1回以上
		小学5年	国語	1.2%	5.9%
	社会	2.0%	10.4%	44.5%	43.1%
	算数	1.2%	5.7%	30.7%	62.4%
	理科	2.0%	11.8%	42.5%	43.7%
	項目	月1回未満	月1回	月2回	週1回以上
		中学1年	国語	2.8%	14.1%
	社会	1.9%	14.6%	48.4%	35.2%
	数学	1.4%	13.1%	45.5%	39.9%
	理科	2.3%	13.6%	47.9%	36.2%
	外国語	2.8%	16.4%	45.5%	35.2%
中学2年	国語	3.3%	14.2%	47.6%	34.9%
	社会	2.4%	12.3%	52.8%	32.5%
	数学	2.4%	12.3%	45.8%	39.6%
	理科	1.9%	11.3%	52.4%	34.4%
	外国語	1.9%	14.2%	47.2%	36.8%

(8) 授業以外での補充指導や個別指導の実施

	項目	行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
		小学校	時間を設定して定期的実施している（通年）	71.5%	22.2%
	時期を定めて実施している（単元末テストの前後等）	57.6%	32.3%	3.8%	6.3%
	その他	21.2%	11.7%	22.6%	44.4%
中学校	時間を設定して定期的実施している（通年）	50.7%	37.1%	8.5%	3.8%
	時期を定めて実施している（定期テストの前後等）	49.3%	41.8%	6.6%	2.3%
	その他	24.9%	17.8%	24.4%	32.9%

【その他の主な内容】

小学校	朝の活動の時間にチャレンジタイム、計算力・漢字力向上タイム等を設定し、実施 昼休み、放課後を利用した補充指導・個別指導の実施、児童からの質問や学習相談への対応 毎週金曜日の放課後を個別指導の日に設定 土曜授業日に、全職員で補充指導や個別指導を行う時間を設定し、Web問題等を実施 第2土曜日に学級を解体し、担任、専科、管理職が指導 年3回（6、11、2月）を学力向上推進月間として授業での取組 担任だけでなく、管理職や専科、少人数指導加配等で対策チームを組織。教科担当を決め、担当ごとに課題作成、採点、解説を実施 かごしま学力向上Webシステム問題の家庭学習活用、後日授業の中で解答・解説 新聞記事を活用したワークシートを作成し、毎週の書く問題への取組を実施 長期休業中に、勉強会や個別指導を実施
	中学校

(9) 管理職の学力向上に対する取組

	項目	行っている	どちらかといえば行っている	どちらかといえば行っていない	行っていない
		小学校	校長が示した学力向上プランを全職員が理解し、実践しているかを確認している	92.1%	7.7%
自校の学力の現状（全国学力・学習状況調査の本県の状況や過去6年間の学力調査結果の推移等）を全職員に具体的に周知し、理解させている	84.4%		14.7%	0.8%	0.0%
教員との個別面談の際に、学力向上の取組について確認している	98.4%		1.6%	0.0%	0.0%
定期的に授業参観を行い、指導している	92.1%		7.9%	0.0%	0.0%
中学校	校長が示した学力向上プランを全職員が理解し、実践しているかを確認している	85.4%	14.6%	0.0%	0.0%
	自校の学力の現状（全国学力・学習状況調査の本県の状況や過去6年間の学力調査結果の推移等）を全職員に具体的に周知し、理解させている	79.3%	19.7%	0.9%	0.0%
	教員との個別面談の際に、学力向上の取組について確認している	96.7%	3.3%	0.0%	0.0%
	定期的に授業参観を行い、指導している	85.4%	14.1%	0.5%	0.0%

2 校内研修について

項目	小学校			中学校		
	回数	割合(%)	平均	回数	割合(%)	平均
年間全体研修回数（例：30）	15028		30.2	4887		22.1
その内 学力向上に関する全体研修回数（例：10）	6789	45.2	13.6	1945	39.8	8.8
その内 授業を伴った全体研修回数（例：5）	2291	33.7	4.6	801	41.2	3.6
その内 ICTを活用した授業づくりに関する全体研修回数（例：5）	2482	16.5	5.0	755	15.4	3.4
その内 外部講師招聘回数（例：5）	2182	14.5	4.4	835	17.1	3.8